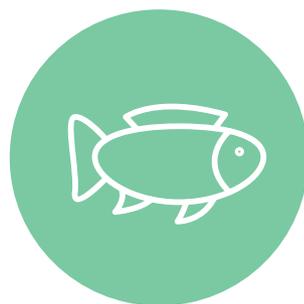


日本大学大学院

NIHON University Graduate School GUIDE BOOK

2023年度



生物資源科学研究科

生物資源生産科学専攻
生物資源利用科学専攻
応用生命科学専攻

生物環境科学専攻
生物資源経済学専攻

獣医学研究科

獣医学専攻

入学定員

生物資源科学研究科

博士前期課程（2年制）／各専攻22名（生産科学は27名）

博士後期課程（3年制）／各専攻 5名（生産科学は6名）

*すべての専攻に博士前期課程、博士後期課程を設置しています。

獣医学研究科

獣医学専攻 博士課程（4年制）／6名

※教員名・資格は2022年4月1日現在のものです。

※資格・分野が同じ場合は五十音順で掲載しています。

CONTENTS

〈生物資源科学研究科〉

●生物資源生産科学専攻

植物生産科学分野／動物生産科学分野／水圏生物生産科学分野
森林生産科学分野／生産環境工学分野

専攻の特色	15
授業科目一覧	16
教員紹介	17

●生物資源利用科学専攻

生物資源利用学分野／生物資源利用化学分野
微生物利用科学分野／食品科学分野

専攻の特色	28
授業科目一覧	29
教員紹介	30

●応用生命科学専攻

生体分子科学分野／細胞生物科学分野
生体機能科学分野／分子生態科学分野

専攻の特色	38
授業科目一覧	39
教員紹介	40

●生物環境科学専攻

ストレス耐性科学分野／環境計画学分野
環境創造保全学分野／環境情報科学分野

専攻の特色	47
授業科目一覧	48
教員紹介	49

●生物資源経済学専攻

生物資源・食品経済学分野／食品流通・経営学分野
国際食料資源経済学分野／国際地域開発学分野

専攻の特色	57
授業科目一覧	58
教員紹介	59

〈獣医学研究科〉

●獣医学専攻

獣医比較形態学分野／獣医比較機能学分野／
獣医感染制御学分野／獣医疾病予防学分野／
獣医病態制御学分野／獣医病態情報学分野

専攻の特色	64
授業科目一覧	65
教員紹介	66

大学院生物資源科学研究科ならびに獣医学研究科の構成



教育研究上の目的

生物資源科学研究科

優れた研究者と高度の専門技術者の育成に主眼を置き、充実した教育研究指導体制の下で、基礎科学を応用領域にまで発展し得る力量を備えた人材を養成する。特に新しい産業構造・社会の変化に迅速に対応出来る総合的な知識と創造性豊かな人材、また国際的視野で新しい科学・技術上の問題を総合的に解決出来る見識豊かな人材などの養成を教育・研究指導の目的とする。

■ 生物資源生産科学専攻

(博士前期課程)

植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、森林生産科学、生産環境工学の各分野から構成される生物資源生産科学に関する知識を教授する。また、生物生産に関わる事項について生物資源と生物環境の両面から総合的に捉え、生物資源を持続的、かつ有効に管理・活用するための研究指導を行ない、広い視野から問題点を把握し、応用力を発揮しうる人材の養成を目指す。

(博士後期課程)

生物資源生産に関わる各分野での基礎・応用研究をさらに発展させ、高度な問題解決能力と創造力に富んだ専門技術者と優れた研究能力を発揮できる専門の研究者の養成を目指す。

■ 生物資源利用科学専攻

(博士前期課程)

生物資源利用学、生物資源利用化学、微生物利用科学、食品科学の4分野から構成される生物資源利用に関する知識を教授する。また、生物資源の利用に関わる課題や生物資源を有効利用する技術の開発を研究課題として、広い視野から問題点を把握し、その解決の取り組みにあたって応用力を発揮しうる人材の養成を目指す。

(博士後期課程)

生物資源利用に関わる諸問題について各分野から総合的に捉えた講義と研究指導を行なう。生物資源を有効に利活用できる技術の開発を可能にする専門技術者と、優れた研究能力と広い視野をもち、問題を把握し、応用力を発揮して解決できる有能な研究者を養成する。

■ 応用生命科学専攻

(博士前期課程)

生命工学的手法による生物及び生体機能の開発・応用と、環境に配慮した新たな生物資源の創製に関する基礎ならびに応用研究の手法・技術を指導し、当該分野における研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要能力を有する人材を養成する。特に本課程では、生体分子科学、細胞生物学、生体機能科学、分子生態科学の各分野に関わる講義と演習を行い、これらの専門分野の総合的学習による広い視野に立った学識を教授する。

(博士後期課程)

生体分子科学分野では生体分子の動態と生物学的機能、細胞生物学分野では細胞機能の解明及び遺伝子資源の継続的利用、生体機能科学分野では生体諸機能の発現と制御、分子生態科学分野では環境中における生物機能の解析、開発、利用に関する学識の教授と、研究を指導する。これにより各分野において自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力と豊かな学識を有する人材を養成する。

■ 生物環境科学専攻

(博士前期課程)

ストレス耐性科学、環境計画学、環境創造保全学、環境情報科学の4分野から構成される生物環境科学に関わる講義・演習を通して、専門分野の基礎・応用的手法・技術を習得させる。もって人類の環境との共生・保全に貢献することができるような研究能力、または高度な専門性を要する職業等に必要能力を備えた有為な人材を養成する。

(博士後期課程)

生物環境科学に関する基礎的能力、すなわち環境を構成する自然的側面と人為的側面との関係を分析する知識・手法に基づき、環境に関わる情報・解析科学、シミュレーション、計画学さらには環境倫理学を含む総合的で高度な研究へと発展させる。また、豊かな学識と優れた研究能力と専門技術を備えるのみならず、国内外の環境との共生のための環境政策に関わる提言能力をも有する人材を養成する。

■ 生物資源経済学専攻

(博士前期課程)

生物資源・食品経済学、食品流通・経営学、国際食料資源経済学、国際地域開発学の各分野から構成される生物資源経済学を学ぶことで、国内外における生物資源、特に生産・流通・消費に関する研究手法や理論を習得し、この分野の研究能力と専門技術を備えた農業、食品産業及び国際協力分野における優秀な人材を養成する。

(博士後期課程)

専門性に富みかつ高度な知識を学び、国内外における生物資源、特に生産・流通・消費に関する理論や実態を研究することで、この分野の優れた研究能力を持つ研究者や、高度な専門技術を備えた国際協力分野におけるリーダーとなりうる人材を養成する。

獣医学研究科

「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の6つの分野において、高度で専門的な知識、実践的な技術並びに理論感を有し、創造性豊かで国際的に貢献できる人材の養成を行なう。

■ 獣医学専攻

(博士課程)

臨床系は、主として動物病院及び医科学を活用し、そこに保有するMRI、X線CT、放射線治療器など最先端の医療機器を用いて、高度の医療技術と知識を持った獣医療専門家を育成する。応用系は、動物医科学研究センターを主な教育研究の場と

して、感染症の診断・メカニズムの解明や疾病制御・予防に関する最新の知識の教授と高度な技術の習得によって、専門性を有した応用獣医学と臨床獣医学に貢献できる人材を育成する。基礎系においては生命科学に関する質の高い基礎研究の指導を通して能力の高い人材を養成する。

大学院生物資源科学研究科の「修了認定・学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者の受入れに関する方針」

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 博士前期課程

- ① 本研究科に所定の期間在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された修士論文の審査に合格した者に、修士(生物資源科学)の学位を授与する。
- ② 次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。
 - 「生物資源科学の理解」
生物資源の生産・利用・経済に関する科学と、それらの基盤である生命・環境に関する科学が、一体となって社会で果たす役割について十分に理解し、説明することができること。
 - 「専門性と倫理性」
高い専門性を要する職に就くための知識や技術を修得するとともに高い倫理性を身につけており、専門領域の研究者や技術者との議論と協働を通して社会に貢献することができること。
 - 「発信力」
関連する分野の研究者に対して、自身の研究成果とその独創性を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を身につけていること。

2. 博士後期課程

- ① 本研究科に所定の期間在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士(生物資源科学)又は博士(学術)の学位を授与する。
- ② 次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。
 - 「専門性」
専門領域における深い学識と高度な技能を修得しており、研究者や専門家、またサイエンスコミュニケーションにおけるファシリテーターとして、自立して活動することができること。
 - 「人間性」
論理的な手法により物事の本質を洞察し、社会に対する強い責任感と高い倫理性をもって自身の研究を見つめ、研究の目的や成果が人間と自然の共生に適切であることを理解していること。
 - 「指導力」
研究の成果を、自身とは異なる専門領域のコミュニティーや市民に向けて発信することができ、また多様なコミュニケーション能力を活用することにより国内外や異文化圏でリーダーシップを発揮して活動できること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

1. 博士前期課程

- ① 研究者や技術者としての素養を磨かせるため、地球史、科学史、倫理、統計などに関する講義、及び既成の専門領域の境界にとらわれない専攻横断型の講義を研究科の共通教育として開講する。
- ② 各専攻が独自に編成する講義と演習により、専門領域における基盤から先端までの知識や技能を修得させる。その際、複数の教員が担当するオムニバス形式を積極的に活用することで、幅広い視野に立って自己の研究を位置づける能力を養わせる。
- ③ プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を伸ばすため、学会等での成果発表や、産学連携・域学連携プロジェクトへの参加を支援する。

2. 博士後期課程

- ① 独創性の高い研究と学位論文の作成を通して課題を発掘し、それを解決する方法、論理的に思考し説明する方法、科学者・技術者としての倫理を修得させる。
- ② 研究の成果について、国内外の学会や研究集会での発表や学術雑誌への論文投稿を支援することを通して、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨かせる。
- ③ 学外研究者との共同作業や産学連携プロジェクト、域学連携活動への参加を支援し、主体性をもって多様な専門家と協働することの大切さやその魅力について学ばせる。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 博士前期課程

生物資源科学研究科は、日本大学教育憲章と教育理念である「自主創造」に基づき、生物資源の生産と利用に関する科学、生命科学、環境科学の各分野の学識や技術を駆使して、社会に貢献する人材を育成する。博士前期課程では、基礎科学を応用領域にまで発展させ、倫理性を身につけて社会貢献ができ、表現力豊かな人材の育成を目指す。この目的のため、研究活動を支える十分な基礎学力と教養を備え、論理的な思考ができ、創造力と社会性のある人を、国内外から広く受け入れる。

2. 博士後期課程

生物資源科学研究科は、日本大学教育憲章と教育理念である「自主創造」に基づき、生物資源の生産と利用に関する科学、生命科学、環境科学の各分野の学識や技術を駆使して、国際社会に貢献する人材を育成する。博士後期課程では、深い学識を持ち、社会に対する責任感と倫理性を備え、人間活動が自然との共生に適切であることを常に吟味できる人材の育成を目指す。この目的のため、自ら課題を設定して積極的に研究に取り組む意欲があり、独創性を重視しつつ多様な価値を受容して尊重し、研究者や高度な専門技術者を目指す人を、国内外から広く受け入れる。

大学院獣医学研究科の「修了認定・学位授与の方針」 「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者の受入れに関する方針」

修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

日本大学大学院獣医学研究科は、日本大学教育憲章と本学の教育理念である「自主創造」に基づき、獣医科学と獣医療に関する豊かな学識と実践的な技術、独創的な研究能力を有し、国際的に活躍できる資質と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を教育目標としている。

本研究科の定める期間に在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得することとともに、所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に博士(獣医学)の学位を授与する。

1. 獣医学領域の研究は、基礎生命科学系から臨床医科学系、応用生物学系に至る、多様かつ学際的特質を有している。大学院獣医学研究科獣医学専攻では、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の各専門分野において、高度で専門的な知識、実践的な技能、論理的思考力並びに生命倫理

観を有し、創造性豊かにして国際的に貢献できる人材の養成を行なう。

2. 博士課程獣医学専攻の6つの専門分野では、以下に示す目標をそれぞれ設定し、修了認定及び学位授与の方針としている。

①「獣医比較形態学」及び「獣医比較機能学」分野では、基礎生命科学領域の研究者が共有する科学的価値観を前提とした、より質の高い基礎生物学に関する基盤的・先端的知識、技能及び研究成果を得ること。

②「獣医感染制御学」及び「獣医疾病予防学」分野では、動物固有の感染症や人獣共通感染症の疫学、病態解明及び疾病の制御と予防に関する基盤的・先端的知識、技能並びに研究成果を得ること。

③「獣医病態制御学」及び「獣医病態情報学」分野では、高度化する獣医療に対応するための基盤的・先端的知識、技能及び研究成果を得ること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大学院獣医学研究科は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる人材を養成するため、博士課程獣医学専攻において以下に示す教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を設定している。

1. 本研究科では、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の各専門分野における基盤的かつ先端的な専門知識や技能を備えた指導的な人材を育成するため、複数の教員が講義・演習・研究に当たるオムニバス形式の指導体制をとっている。

2. 本研究科の学修方法・学修過程には以下の内容が含まれる。

① 自立した研究者の養成と指導的人材の育成

② 幅広い学術基盤の修得

③ 能動的学修の充実化

④ 国際的に活躍できる人材の育成

⑤ 科学的かつ論理的思考のできる人材の育成

⑥ 英語による研究成果発信力の修得及び博士論文作成能力

3. 学修成果の評価方法は、開講される講義への出席と課題レポートの内容、研究科内で実施される研究経過及び成果報告については、プレゼンテーション及び質疑応答の内容により評価する。また、学位(博士)論文作成に関しては、基盤的・専門的な学識と国内外の学術集会での口演発表実績及び専門学術雑誌(英文)への投稿又は掲載実績を重視する。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

日本大学大学院獣医学研究科は、教育理念及びディプロマポリシーに基づき、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の各専門分野における基盤的かつ先端的な専門知識と技能を備え、国際的に活躍できる指導的な人材を育成したいと考えている。具体的には博士課程獣医学専攻では、生命科学に関する質の高い基礎研究能力を有する人材、感染症の診断・病態の解明や疾病制御・予防に関する最新の知識と高度な技術を有する人材、及び高度な獣医療技術と動物倫理・福祉に関する専門知識を持った人材の育成を目指している。そのために、次のような能力・資質を有する入学者を国内外から求めている。

1. 日本大学の教育理念を理解し、獣医学を通じて国際社会に貢献したいと考えている人

2. 生命倫理を尊重し、動物福祉を行動規範とする人

3. 幅広い視野と科学的な視点から獣医科学及び獣医療のより深い修得を目指す人

4. 獣医科学及び獣医療に関する学識と独創的な研究を遂行するための十分な基礎的能力を有する人

5. 豊かな教養と協調性を備えた人

入学試験では、大学院生として博士(獣医学)の学位取得に対して強い意志を有する学部学生及び社会人大学院生として社会で活躍しながら学位取得を目指す人材を、語学力と専門知識を問う筆記試験及び研究能力を問う口述試験により選抜する。入学試験は、一般入学試験及び社会人特別選抜入試ともに年度内に2回実施する。

◆履修方法及び学位授与

- ① 博士前期課程は、標準修業年限(2年)以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得(各分野のうち1分野を選択必修とする)、必要な研究指導を受け、更に修士論文の審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。
- ② 博士後期課程・博士課程は、標準修業年限(博士後期課程:3年、博士課程4年)在学し、専攻科目について生物資源科学研究科は47単位以上(博士前期(修士)課程を修了した者については、その修得単位も含む)、また、獣医学研究科は30単位以上を修得、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。

◆出願資格

博士前期課程

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 大学を卒業した者及び2023年3月卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び2023年3月末日までに同法により学士の学位を授与される見込みの者
- ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者
- ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑩ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者及び2023年3月までに22歳に達する者

博士後期課程

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 修士の学位若しくは専門職学位を有する者及び2023年3月までに取得する見込みの者
- ② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2023年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2023年3月までに授与される見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2023年3月までに授与される見込みの者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 外国の学校、学校教育法施行規則第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、修士論文又は特定課題の研究結果の審査と試験の合格に代える審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑧ 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び2023年3月までに24歳に達する者

推薦入試(博士前期課程のみ募集)

次の各号の全てに該当する者

- ① 日本大学生物資源科学部を2023年3月卒業見込みの者
- ② 大学院進学時の指導教員から推薦を受けられる者
- ③ 3年次後期までの学業成績が所属学科のGPA順位において上位15%以内の者
- ④ 合格後は生物資源科学研究科への入学を確約できる者

博士課程(獣医学研究科のみ)

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者及び2023年3月卒業見込みの者
- ② 大学における医学又は歯学を履修する課程を卒業した者及び2023年3月卒業見込みの者
- ③ 外国において学校教育における18年の課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされる者に限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2023年3月修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- ⑨ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び2023年3月までに24歳に達する者

◆社会人特別選抜入学試験出願資格

博士前期課程

次の各号のいずれかに該当し、入学予定時において、職務経験(定職) 2年以上の者

- ① 大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において学校教育における16年間の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者
- ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- ⑩ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者及び2023年3月までに24歳に達する者

博士後期課程

次の各号のいずれかに該当し、入学予定時において、職務経験(定職) 2年以上の者

- ① 修士の学位若しくは専門職学位を有する者
- ② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 外国の学校、学校教育法施行規則第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、修士論文又は特定課題の研究成果の審査と試験の合格に代える審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑧ 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、26歳に達した者及び2023年3月までに26歳に達する者

博士課程〈獣医学研究科のみ〉

次の各号のいずれかに該当し、入学予定時において、職務経験(定職) 2年以上の者

- ① 大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者
- ② 大学における医学又は歯学を履修する課程を卒業した者
- ③ 外国において学校教育における18年間の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 外国の大学等において、修業年限が5年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者
- ⑧ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- ⑨ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、26歳に達した者及び2023年3月までに26歳に達する者

◆出願手続及び出願方法

出願手続及び出願方法については入学試験要項でご確認願います。

◆入学手続

- ① 合格者は、指示された期限までに、入学時納入金を納め、入学手続を完了してください。
- ② 一般入試合格者で、就職等進路変更で大学院に入学する意思のない者は、手続締切日までに必ず入学センターに申し出てください。
- ③ 入学手続完了後(入学時納入金を全額納入した後)に、やむをえない理由によって本学への入学を辞退する場合は、電話により2023年3月31日(金)17時までに入学者センターへ申し出てください。申し出を受理しますと、「入学辞退願」を本学より送付いたしますので、必要事項を記入の上、既送の「入学許可書」と併せて速やかに返送してください。手続終了後、入学金を除く入学時納入金(諸会費等を含む)は返還いたします。ただし、一度提出された入学手続書類及び入学金は返還いたしません。なお、2023年4月1日(土)以降に申し出があった場合は、本学に学籍が生じておりますので、入学手続書類及び入学金を含む入学時納入金は返還いたしません。

《注意》

- ① 入学辞退の申し出受理に際しては、直接本人の意思確認をさせていただきます。
- ② 入学辞退の申し出を本学が受理した後の辞退の取り消しは、認めません。
- ③ 「入学辞退願」が提出されない場合、入学金を除く入学時納入金の返還手続ができませんので、必ず提出してください。
- ④ その他、詳細は合格通知に同封される入学手続要項を参照してください。

※入学辞退申し出連絡先 日本大学生物資源科学部入学センター 電話 0466-84-3812

◆出願書類の送付先及び試験場

日本大学生物資源科学部入学センター 大学院入試係 電話 0466-84-3812
〒 252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866 小田急江ノ島線「六会日大前」駅下車 徒歩 3 分

◆募集人員

生物資源科学研究科

一般入試 第1期 各専攻ごとに入学定員に基づき募集する。

一般入試 第2期 各専攻ごとに若干名を募集する。

推薦入試 第1期・第2期 博士前期課程の各専攻ごとに若干名を募集する。

社会人特別選抜入試 第1期・第2期 各専攻ごとに若干名を募集する。

専攻	課程	博士前期課程 (入学定員)	博士後期課程 (入学定員)
生物資源生産科学専攻		27名	6名
生物資源利用科学専攻		22名	5名
応用生命科学専攻		22名	5名
生物環境科学専攻		22名	5名
生物資源経済学専攻		22名	5名

獣医学研究科

一般入試 第1期 入学定員に基づき募集する。

一般入試 第2期 若干名を募集する。

社会人特別選抜入試 第1期・第2期 若干名を募集する。

専攻	課程	博士課程 (入学定員)
獣医学専攻		6名

◆試験科目

課程	項目	試験科目	試験時間 (予定)
博士前期課程	一般第1期 一般第2期	筆記試験〔外国語(英語) ^{注1} 、小論文〕 口述試験 ^{注2}	11:00～13:00 14:00～
	社会人特別選抜 第1期、第2期	筆記試験〔小論文〕 口述試験 ^{注2}	11:00～12:00 13:00～
	推薦第1期 推薦第2期	口述試験 ^{注2}	〈第1期〉10:00～ 〈第2期〉11:00～
博士後期課程 ・ 博士課程	一般第1期 一般第2期	筆記試験〔外国語(英語) ^{注1} 、小論文〕 口述試験 ^{注2}	11:00～13:00 14:00～
	社会人特別選抜 第1期、第2期	筆記試験〔外国語(英語) ^{注1} 、小論文〕 口述試験 ^{注2}	11:00～13:00 14:00～

注1 次のいずれかの基準を満たしている場合は、外国語(英語)を免除する。なお、外国人留学生(社会人特別選抜を除く)に限り、日本語を選択することもできる。

① TOEFL[®]のスコアがiBT:60点以上の者

② TOEIC[®] L&R(旧形式含む)のスコアが650点以上の者

③ 日本英語検定協会実用英語技能検定試験準1級以上に合格している者

注2 口述試験は、1人30分程度行う。その中で、卒業論文(修士論文)又はそれに相当するものの内容について10分程度の説明を課す。質問は、その説明内容に基づく事項、筆記試験の内容に基づく事項及び志望専攻・分野関連の事項を中心に行う。

◆入試日程（※新型コロナウイルス感染症の影響で日程は変更になる場合があります。）

生物資源科学研究科

課程	項目	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日※1
博士 前後期 課程	推薦第1期	2022年 5月26日(木)～ 5月31日(火)	7月2日(土) 午前9時30分集合 午前10時開始	7月13日(水)	2022年 7月13日(水)～ 2023年 3月17日(金)
	一般第1期 ・ 推薦第2期	2022年 9月2日(金)～ 9月6日(火)	9月16日(金) 午前10時30分集合 午前11時開始	9月29日(木)	2022年 9月29日(木)～ 2023年 3月17日(金)
	一般第2期	2023年 2月20日(月)～ 2月22日(水)	3月6日(月) 午前10時30分集合 午前11時開始	3月13日(月)	2023年 3月17日(金)
	社会人特別選抜 第1期	2022年 9月2日(金)～ 9月6日(火)	9月16日(金) 午前10時30分集合 午前11時開始	9月29日(木)	2022年 9月29日(木)～ 2023年 3月17日(金)
	社会人特別選抜 第2期	2023年 2月20日(月)～ 2月22日(水)	3月6日(月) 午前10時30分集合 午前11時開始	3月13日(月)	2023年 3月17日(金)

※1 一般及び社会人の第1期・推薦入試については入学手続き期間を示す。

※2 個別の入学資格審査が必要な場合は出願受付開始日の7日前までに入学資格審査の申請をすること。

獣医学研究科

課程	項目	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日※1
博士 課程	一般第1期	2022年 9月2日(金)～ 9月6日(火)	9月16日(金) 午前10時30分集合 午前11時開始	9月29日(木)	2022年 9月29日(木)～ 2023年 3月17日(金)
	一般第2期	2023年 2月20日(月)～ 2月22日(水)	3月6日(月) 午前10時30分集合 午前11時開始	3月13日(月)	2023年 3月17日(金)
	社会人特別選抜 第1期	2022年 9月2日(金)～ 9月6日(火)	9月16日(金) 午前10時30分集合 午前11時開始	9月29日(木)	2022年 9月29日(木)～ 2023年 3月17日(金)
	社会人特別選抜 第2期	2023年 2月20日(月)～ 2月22日(水)	3月6日(月) 午前10時30分集合 午前11時開始	3月13日(月)	2023年 3月17日(金)

※1 一般及び社会人の第1期については入学手続き期間を示す。

※2 個別の入学資格審査が必要な場合は出願受付開始日の7日前までに入学資格審査の申請をすること。

◆ 2023 年度入学者納入金一覧

(単位：円)

課程	専攻	納入区分	入学金 ※1	授業料	施設設備 資金 ※1	後援会費	校友会費 (準会員) ※2	合 計
博士前期課程	生物資源生産科学専攻 生物資源利用科学専攻 応用生命科学専攻 生物環境科学専攻	入学金及び 前期学費 (入学時納入)	200,000	400,000	100,000	15,000	10,000	725,000
		後期学費 (9月納入)	—	400,000	100,000	15,000	—	515,000
	生物資源経済学専攻	入学金及び 前期学費 (入学時納入)	200,000	350,000	50,000	15,000	10,000	625,000
		後期学費 (9月納入)	—	350,000	50,000	15,000	—	415,000
博士後期課程	生物資源生産科学専攻 生物資源利用科学専攻 応用生命科学専攻 生物環境科学専攻	入学金及び 前期学費 (入学時納入)	200,000	400,000	100,000	15,000	10,000	725,000
		後期学費 (9月納入)	—	400,000	100,000	15,000	—	515,000
	生物資源経済学専攻	入学金及び 前期学費 (入学時納入)	200,000	350,000	50,000	15,000	10,000	625,000
		後期学費 (9月納入)	—	350,000	50,000	15,000	—	415,000
博士課程	獣医学専攻	入学金及び 前期学費 (入学時納入)	200,000	425,000	100,000	15,000	10,000	750,000
		後期学費 (9月納入)	—	425,000	100,000	15,000	—	540,000

※1 学内者（本大学を卒業した者または本大学院を修了した者〈卒業・修了見込者を含む〉）については、入学金及び施設設備資金の納入はありません。

※2 修了年次のみ後期学費徴収時に校友会費（正会員）10,000円納入があります。

生物資源生産科学専攻

生物生産に関わる諸問題について

生物資源と生物環境の両面から総合的に研究し、
生物生産を持続的、かつ有効に維持管理するための
研究と手法の開発を行います。

最近の生活水準の向上は、従来の米麦等の有用植物に加えて多様な植物資源に対する需要を生み出しました。一方、爆発的に増加する地球人口への食料供給と悪化する環境の保全の要請があります。このような諸要請に対して広い視野を持ち、問題を原理的に把握し、取り組みにあたって応用力を発揮しうる人材の育成を目指します。植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、森林生産科学、生産環境工学の各分野から構成される生物資源生産科学に関わる講義を行い、基礎ならびに応用研究手法・技術を指導し、優れた研究能力と高度な技術をもった専門家を養成します。

植物生産科学分野

博士前期課程／有用植物に関する栽培、育種、生理、栽培土壌など、生育特性と生育環境についての講義及び研究方法についての指導を行い、植物資源の賦存量、生産可能な土地など、地球的規模での食料の供給能力についても講義します。耕地生態系植物に関して、病虫害防除や異常気象による災害からの保護などの講義と研究手法の指導を行い、また、遺伝子保全、生物の多様性維持に関する講義も行います。

博士後期課程／植物資源の生産と品質の向上の理論と技術の確立、既存の生産方法の見直しや新技術導入による革新的生産体系などを講義します。またフィールドにおける資源植物生産に関わる種々の生理生態系的反応の測定、生育環境改善の実態の解明、さらに必要な理化学的な実験手法を指導します。

動物生産科学分野

博士前期課程／動物資源の生産体系確立のための技術開発に関する講義及び研究指導を行います。家畜など動物資源の生産、特に、環境と調和した生産体系の確立のための技術開発、あるいは動物生理、繁殖、遺伝子操作による機能向上のための技術開発に関する講義を行い、これらの技術開発のための研究手法を指導します。近交系実験動物あるいは疾患モデルの系統造成、実験的なクローン動物・トランスジェニック動物の作出技法等の開発についてもあわせて指導します。

博士後期課程／動物生産に関与する給与飼料の化学的・物理的特性、消化管の動態・機能・生体内物質代謝様式、環境ストレスと内分泌動態、遺伝子支配などを講義します。また、生産制御に関する新しい技術、動物生産に関わる情報の蓄積と解析法を指導します。

水圏生物生産科学分野

博士前期課程／水圏生物資源の探索、保全、増養殖等の技術開発に関する講義及び研究指導を行うのがこの分野です。具体的には、水圏生物資源の賦存量、利用可能な資源の探索及び資源保護などに関し、また、持続的水産養殖、養殖可能な新魚種の探索、養殖環境の管理、利用可能な水圏生物資源の増殖方法の開発等に関する講義と技術開発、そして研究手法の指導を行います。

博士後期課程／博士前期課程での研究をさらに進め、水圏生物資源の探索法と資源管理の理論、生物工学的及び微生物学的手法を応用した増養殖法、生産環境の保全・管理の方法などの講義を行います。また、これらの分野で最新かつ重要な技術やメソッドロジーについて指導します。

森林生産科学分野

博士前期課程／森林の造成と管理に関する課題と、これらに関連する効率的作業法等について講義及び研究指導を行います。特に、生物多様性と動植物、昆虫の関係、森林資源生産に必要な情報管理法、森林に関する国際的にまた地域的に様々な観点からの持続的生産管理法、森林生産現場における技術的生産管理法などに関する研究手法の指導を行います。

博士後期課程／森林生物資源生産の高度化を目標に、森林施業管理、総合的な野生生物（鳥獣、昆虫）の管理などを講義します。またこれらに資する理論及び実的な技術などについて指導します。

生産環境工学分野

博士前期課程／施設及び自然環境における植物資源の生産を向上させるための技術開発に関する講義と研究指導を行います。特に、生物の生育環境を制御調節するための技術開発、生産を向上させるための水管理、土壌管理、温度管理及び貯蔵・加工技術などに関する講義を行いこれらの研究手法を指導します。

博士後期課程／生物生産及び生産物の加工・流通における環境負荷を低減し、人間及び作物に好適な環境を作る工学的技術について講義します。また、博士前期課程での研究をさらに一歩進め、不耕起栽培等の環境への影響の定量的評価、近赤外線分光分析による窒素肥料の最適利用、農産物の貯蔵環境と品質保持等についての技術を指導します。

授 業 科 目 一 覧

博士前期課程					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	
生物資源科学特論Ⅰ	4	4		左記のうちから、必修科目を含め30単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、5分野のうち1分野を選択必修とする。	
生物資源科学特論Ⅱ	4		4		
植物生産科学分野					
植物資源生産学特講	2		2		
植物保護学特講	2		2		
植物資源生産学演習	1		1		
植物保護学演習	1		1		
動物生産科学分野					
動物資源生産学特講	2		2		
動物資源開発学特講	2		2		
動物資源生産学演習	1		1		
動物資源開発学演習	1		1		
水圏生物生産科学分野					
水圏生物資源学特講	2		2		
水圏生物生産学特講	2		2		
水圏生物資源学演習	1		1		
水圏生物生産学演習	1		1		
森林生産科学分野					
森林資源生産学特講	2		2		
森林資源管理学特講	2		2		
森林資源生産学演習	1		1		
森林資源管理学演習	1		1		
生産環境工学分野					
生物環境調節工学特講	2		2		
生産・流通環境工学特講	2		2		
生物環境調節工学演習	1		1		
生産・流通環境工学演習	1		1		
生物資源生産科学特別講義Ⅰ	4	4			
生物資源生産科学特別研究Ⅰ	10	10			
学位論文					

博士後期課程					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	
植物生産科学分野					
植物生産科学特講	2		2	左記のうちから、必修科目を含め17単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、5分野のうち1分野を選択必修とする。	
植物生産科学演習	1		1		
動物生産科学分野					
動物生産科学特講	2		2		
動物生産科学演習	1		1		
水圏生物生産科学分野					
水圏生物生産科学特講	2		2		
水圏生物生産科学演習	1		1		
森林生産科学分野					
森林生産科学特講	2		2		
森林生産科学演習	1		1		
生産環境工学分野					
生産環境工学特講	2		2		
生産環境工学演習	1		1		
生物資源生産科学特別講義Ⅱ	4	4			
生物資源生産科学特別研究Ⅱ	10	10			
学位論文					

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください



植物生産科学分野

磯部勝孝 教授 博士（農学）
Katsunori Isoe

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 水田転換畑におけるダイズの生育障害とその対策に関する研究
2. 作物栽培におけるアーバスキュラー菌根菌の動態に関する研究
3. 我が国におけるキノアの栽培に関する研究

●学会および社会における活動等

2020年～現在 日本作物学会評議員
2018年～現在 日本作物学会和文誌編集委員
1989年～現在 日本土壤肥科学会会員

●著書、学術論文等

Valleyタイプキノア, Amarilla de Maranganiの収量決定要因について(共著)(2021)日本作物学会紀事90:206-210/Effects of NaCl application on cesium accumulation in the aboveground parts of quinoa (*Chenopodium quinoa* Willd.) (共著) (2020) Water, Air, & Soil Pollution 231. / ダイズ品種里のほほえみの関東南部での栽培に関する研究(共著) (2020)日本作物学会紀事89:8-15. / Effects of NaCl on Growth and Cesium Absorption in Quinoa (*Chenopodium quinoa* Willd.) (共著) (2019) Water, Air, & Soil Pollution 230. / Effects of day length on pollen tube elongation, embryo formation, and seed development after flowering in quinoa (*Chenopodium quinoa* Willd.) (共著) (2018) Seed Science Research 28:272-276.



植物生産科学分野

窪田 聡 教授 博士（農学）
Satoshi Kubota

●主な学歴
日本大学農獣医学部農芸化学科卒業
日本大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. ファレノプシスの花成誘導機構の解明に関する研究
2. 根域環境制御による植物の形態形成機構の解明に関する研究

●学会および社会における活動等

1988年 4月～現在 園芸学会
1988年 4月～現在 日本土壤肥科学会
2000年 4月～現在 日本作物学会
2006年10月～2009年9月 園芸学研究編集委員
2014年 4月～現在 園芸学会IT対応幹事
2015年 4月～2016年3月 園芸学会理事

●著書、学術論文等

Role of ABA in Triggering Ethylene Production in the Gynoecium of Senescing Carnation Flowers: Changes in ABA Content and Expression of Genes for ABA Biosynthesis and Action(共著)2013. JJSHS.82:242-254. / 根域環境制御システムによる根域温度調節はパーベナとゼラニウムの生育・開花に影響する(共著)2013. 園芸学研究.12:97-102. / 根域環境制御システムにおける多孔質鉢の利用と機能(共著)2011. 園芸学研究.10:451-459. / ジベレリンによるオドンチオダの開花促進(共著)2011. 園芸学研究.10:389-393. / Effect of warm and cold stratification on 1H-NMR profiles, endogenous gibberellins and abscisic acid in *Styrax japonicus* seeds(共著).2011.Hort. Environ. Biotechnol.52:233-239.



植物生産科学分野

倉内伸幸 教授 博士(農学)
Nobuyuki Kurauchi

●主な学歴
信州大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

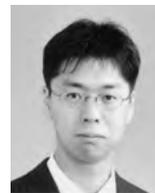
1. 雑穀の遺伝・育種学的研究
2. アジア・アフリカの有用植物資源の遺伝解析と改良

●学会および社会における活動等

1992年～現在 日本育種学会会員
1993年～現在 日本熱帯農業学会会員(1995年～会計幹事、2016年～編集委員、2014年～評議員、2020年～副会長)
1992年～現在 日本作物学会会員
1993年～現在 日本国際地域開発学会会員
2000年～現在 雑穀研究会会員(2002年～編集幹事、2018年～会長)
2004年～現在 日本雑穀協会理事(2011年～会長)

●著書、学術論文等

熱帯作物学(共著)(2022)朝倉書店. Genetic identification of the local mukodamashi varieties of foxtail millet (*setaria italica* L.) in Japan. (共著) (2021) Plant Production Science 24.1-8.Genetic diversity of preserved rice seed samples from the Mikawa area, Japan, stored in the Meiji era.(共著) (2020) Breeding Science.70.347-354. Identification of a gene encoding polygalacturonase expressed specifically in short styles in distylous common buckwheat. (共著) (2019)Heredity. 123, 492-502. 熱帯農業概論(共著)(2019)培風館. 雑穀・精麦入門(共著)(2017)日本食糧新聞社. Protective effect of red-stemmed type of *Ipomoea aquatica* Forsk against CCl4-induced oxidative damage in mice. (共著) (2011) Journal of Nutrition Science Vitaminology. 57/ 4, 306-310.



植物生産科学分野

立石 亮 教授 博士（農学）
Akira Tateishi

●主な学歴
名古屋大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 果実の軟化食感形成機構に関する生理・生化学的研究
2. 園芸作物の品質制御遺伝子に関する研究

●学会および社会における活動等

1992年4月～現在 園芸学会会員
1994年4月～現在 The International Society for Horticultural Science 会員
2009年4月～2012年3月 Journal of the Japanese Society for Horticultural Science 編集委員
2016年4月～現在 日本熱帯農業学会評議員・学会誌編集委員 園芸学会代議員・理事等

●著書、学術論文等

図説園芸学 第2版(共著)(2020)朝倉書店/ 野菜園芸学 第2版(共著)(2020)文永堂出版/ 果樹園芸学(共著)(2015)文永堂出版/ Differential Constitution in Promoter Region Leads to a Phenotype with a Lower Allergic Actinidin Level in Yellow-fleshed Kiwifruit (*Actinidia chinensis*) (共著)(2018) Hort. J. 87:288-296/ Plastidial starch phosphorylase is highly associated with starch accumulation process in developing squash (*Cucurbita* sp.) fruit (共著)(2019) Physiol. Plant. 167: 264-275.



植物生産科学分野

隅田裕明 特任教授 博士(農学)
Hiroaki Sumida

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士
前期課程修了

●研究テーマ

1. 焼成処理による各種有機物資材の農業利用
2. 黒ぼく土畑地の土壌飛散量の解析と抑止方法の確立

●学会および社会における活動等

1980年～現在 日本土壌肥科学会会員(代議員、土壌教育委員会顧問)
1981年～現在 International Society of Soil Science会員
2017年～現在 東京都農林水産食品技術試験研究外部評価委員・専門委員(農林部会)

●著書、学術論文等

The Soils of Japan, World Soils Book Series, (共著)(2021) Springer Nature Singapore Pte Ltd. /腐植物質分析ハンドブック 第2版-標準試料を例にして-(共著)(2019)(一社)農文協/土壌サイエンス入門 第2版(共著)(2018)文永堂出版(株) /米国アイダホ州北部Selkirk山脈におけるポドゾル土壌断面の特徴と生成環境(共著)(2020)ヘドロジスト, Vol.64 :71-84/ Black carbon as a significant component of aromatic carbon in surface soils and its importance in volcanic ash soil profiles. (共著)(2020)Organic Geochemistry, Vol.140 :103957-103961/ Characterization of the *perylenequinone* pigments in Japanese Andosols and *Cambisol*. (共著)(2019)Soil Science and Plant Nutrition, Vol.61 :1-10



植物生産科学分野

渡邊慶一 特任教授 博士(農学)
Keiichi Watanabe

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 果樹の栽培生理、育種の利用
2. 果樹、野菜のカロテノイド、アントシアニンの生成

●学会および社会における活動等

1975年4月～現在 日本園芸学会会員
1977年4月～現在 日本食品科学工学会会員
2000年4月～現在 公益財団法人 園芸振興松島財団専門委員会委員
2002年4月～現在 農林水産省、種苗法に基づく品種登録出願品種の現地調査員
2015年7月～現在 日本農業教育学会評議員

●著書、学術論文等

コマツナ栽培の教材化、日本農業教育学会誌、48(1)、11-15、2017/ミニカボチャの貯蔵中におけるカロテノイド色素の変化(共著)、日本食品科学工学会誌、61(8)、367-370、2014/コーネリアンチェリーの挿し木繁殖の教材化—緑枝挿しの発根に及ぼす挿し木用土とインドール酪酸(IBA)の影響—(共著)、日本農業教育学会誌、45(1)、15-18、2014/Heterologous expression of tomato Glycoside hydrolase family 3 α -L-arabinofuranosidase/ β -xylosidases in tobacco Suspension cultured cells and synergic action of a family 51 isozyme under antisense Suppression of the enzyme(共著). Physiologia Plantarum、150(2)、238-251、2014/農産物流通の基本知識(共著)、青果物の栄養機能性、流通システム研究センター、2007



植物生産科学分野

山田昌彦 特任教授 農学博士
Masahiko Yamada

●主な学歴
京都大学農学研究科農学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 果樹育種の DNA マーカー選抜における効率的選抜水準の解明
2. 果樹育種における実用形質の遺伝と最適交配組合せの解明
3. 果樹品種群における有用形質の遺伝および環境変異の解明

●学会および社会における活動等

1979年～現在 園芸学会会員
1994年～現在 日本熱帯農業学会会員
日本育種学会会員、国際園芸学会会員および米国園芸学会会員
2006～2010年、2012年～2015年 園芸学会評議員
2004年～2021年 第3～7回国際カキンポジウムScientific or advisory committee

●著書、学術論文等

果樹の交雑育種法(単著)2011,養賢堂/品種改良の世界史(共著)2010,悠書館/品種改良の日本史(共著)2013,悠書館/ブドウ新品種'シャインマスカット'の育成と普及(共著)2017,園芸学研究16:229-237/Advances in table grape breeding in Japan.(共著)2016,Breeding Science 66:34-45/Persimmon breeding in Japan for pollination-constant non-astringent (PCNA) selection with marker-assisted selection.(共著)2016,Breeding Science 66:60-68/Validation of molecular markers associated with fruit ripening day of Japanese pear (*Pyrus pyrifolia* Nakai) using variance components.(共著)2016,Scientia Horticulturae 199:9-14.



植物生産科学分野

井村喜之 准教授 博士(農学)
Yoshiyuki Imura

●主な学歴
岡山大学大学院自然科学研究科農学専攻博士
後期課程修了

●研究テーマ

1. 植物のウイルスに対する抵抗性メカニズムの解明
2. 植物ウイルスのゲノム構造と病原因子の解明
3. ウイルスを利用した遺伝子の機能解析

●学会および社会における活動等

1993年4月～現在 日本植物病理学会会員
2000年10月～現在 日本分子生物学会会員
2004年～2006年 日本植物病理学会幹事
2008年～2010年 日本植物病理学会関東支部幹事
2013年12月～現在 米国ウイルス学会会員
2019年3月～現在 日本植物病理学会英文誌編集委員

●著書、学術論文等

植物のウイルス抵抗性を支配する新奇な劣性因子(2019)アグリバイオ/植物ウイルスの事典(共著)2015,朝倉書店/Cellular Ubc2/Rad6 E2 ubiquitin-conjugating enzyme facilitates tomosvirus replication in yeast and plants. 2015, Virology, 484: 265-275./High-resolution mapping of *zym*, a recessive gene for *Zucchini yellow mosaic virus* resistance in cucumber. 2013, Theoretical Applied Genetics, 126: 2983-2993. /The phytochrome-interacting factor PIF7 negatively regulates DREB1 expression under circadian control in Arabidopsis. 2009, Plant Physiology, 151: 2046-2057.



植物生産科学分野

加藤 太 准教授 博士(地域研究)
Futoshi Kato

●主な学歴
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
修了

●研究テーマ

1. タンザニアにおける在来稲作の研究
2. 熱帯地域由来の作物の生理生態学的特性の解明
3. 東アフリカにおける農村開発と地域研究

●学会および社会における活動等

2007年4月～現在 日本アフリカ学会会員
2008年4月～現在 日本熱帯農業学会会員
2010年4月～現在 日本草地学会会員
2010年4月～現在 日本作物学会会員
2011年4月～現在 雑穀研究会会員
2014年4月～現在 日本熱帯農業学会庶務幹事

●著書、学術論文等

タンザニアを知るための60章(第2版)(共著)(2015)明石書店 / アフリカ地域研究と農村開発(共著)(2011)京都大学出版 / タンザニア中南部における穀物の社会的価値と栽培の変遷(共著)(2014)雑穀研究 29 pp13-19 / Estimation of methane emission rates from a rice paddy field using a naturally ventilated tunnel(共著)(2012)Grassland science 58 pp59-65 / タンザニア中南部における葉菜の生産と消費(2011)熱帯農業研究 4(2) pp83-89 / タンザニア・キロンベロ谷の扇状地の支流洪水域における在来稲作(2011)熱帯農業研究 4(1)pp27-35 / タンザニア・キロンベロ谷における在来稲作の展開(2010)熱帯農業研究 3(1) pp13-21 / Development of Major Rice Cultivation Area in the Kilombero Valley, Tanzania (2007) African Study Monographs Supplementary Issue 36 pp3-18



植物生産科学分野

小林孝行 准教授 博士(農学)
Takayuki Kobayashi

●主な学歴
神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程
修了

●研究テーマ

1. 土壌中のペリレンキノン系色素に関する研究
2. 森林土壌の炭素循環に関する研究

●学会および社会における活動等

2019年10月～現在 Soil Science and Plant Nutrition編集委員
2014年4月～現在 Humic Substances Research編集委員
2018年4月～2020年3月 日本土壤肥科学会誌編集委員
2021年4月～現在 日本ペトロロジー学会事務局長

●著書、学術論文等

Characterization of the perylenequinone pigments in Japanese Andosols and Cambisol.
Soil Science and Plant Nutrition(共著), 2019, 65, 1-10. Chemical properties of purified commercial humic acids and their comparison with those of soil humic acids certified by Japan Humic Substances Society. Humic Substances Research(共著), 2018, 14, 33-42. Effects of humic acids on the sorption and bioavailability of pyrene and 1,2-dihydroxynaphthalene. Soil Science and Plant Nutrition(共著), 2015, 61, 113-122. Application of aqueous saponin on the remediation of polycyclic aromatic hydrocarbons-contaminated soil. Journal of Environmental Science and Health, Part A(共著), 2012, 47, 1138-1145.



植物生産科学分野

宍戸理恵子 准教授 博士(農学)
Rieko Shishido

●主な学歴
大阪教育大学教養学科卒業
北海道大学農学研究科博士後期課程農学専攻

●研究テーマ

1. 野生イネの多様性に関する研究
2. イネ日印雑種を用いた量的形質に関する研究

●学会および社会における活動等

1993年～現在 日本育種学会会員
2008年～2012年 日本育種学会幹事
2011年～2013年 日本育種学会男女共同参画推進委員長
2014年～2017年 日本育種学会会計幹事
2018年～2019年 日本育種学会監事

●著書、学術論文等

Assessment of genetic diversity and genetic structure of wild rice populations in Myanmar(共著). Breed Sci. (2019) 69(3):471-477. Evaluation of genetic variation among wild rice populations in Cambodia(共著). Breed Sci. (2015) 65(5):430-437. Evaluation of genetic variation among wild populations and local varieties of rice(共著). Rice (2011) 4:170-177. Evaluation of genetic diversity among wild rice populations of *Oryza rufipogon* in Myanmar and Cambodia(共著). J.Crop Res. (2009) 54: 47-51. QTL-Based Analysis of Heterosis for Grain Shape Traits in Rice (*Oryza sativa* L.).(共著). Japanese Journal of Plant Science (2008) 2(2): 30-34



植物生産科学分野

畠山吉則 准教授 博士(農学)
Yoshinori Hatakeyama

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科応用生物科学専攻
博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 病原微生物総合的診断手法に関する研究
2. 昆虫病原微生物の系統解析に関する研究
3. 難防除害虫の発生動向調査と微孢子虫感染率調査に関する研究

●学会および社会における活動等

2012年3月～2013年6月 日本応用動物昆虫学会第57回大会事務局長
2013年4月～2014年6月 2014年度蚕糸・昆虫機能学術講演会大会事務局長
2013年4月～現在 日本応用動物昆虫学会代議員
2018年4月～現在 昆虫病理研究会幹事
2018年7月～現在 相模原市環境影響評価審査会委員

●著書、学術論文等

バイオリジカルコントロール第2版(共著)朝倉書店 166-175(2022) / カイコ微粒子病の別視点「微生物防除資材としての微孢子虫」] 蚕糸昆虫バイオテック 90(2) 73-78 (2021) / Development of a multiplex PCR system to discriminate the alleles of the brown planthopper resistance locus BPH1 in rice (*Oryza sativa* L.) (共著) *Appl. Entomol. Zool.* 56 (1) 133-137 (2021) / トンボ目昆虫からの微孢子虫の国内初分離記録(共著) 日本応用動物昆虫学会誌65 (1) 29-34 (2021) / Latest status of silkworm-associated microsporidians via pébrine inspection revealed by phylogenetic analyses. ④ *J. Insect. Biotech Sericol.* (共著) 89 (3) 63-71 (2020) / カイコの科学(共著)朝倉書店 93-94.(2020)



植物生産科学分野

上吉原裕亮 専任講師 博士(農学)
Yusuke Kamiyoshihara

●主な学歴
日本大学生物資源科学部植物資源科学科卒業
名古屋大学大学院生命農学研究科修士・博士課程修了

●研究テーマ

1. エチレンによる果実成熟制御機構に関する研究
2. 果実における香気成分の生合成・代謝経路に関する研究
3. 果実に含まれるアレルギータンパク質に関する研究

●学会および社会における活動等

2005年～現在 植物化学調節学会会員
2007年～現在 園芸学会会員
2008年～現在 日本植物生理学会会員
2015年～現在 日本熱帯農業学会会員
2016年～現在 日本熱帯農業学会庶務幹事

●著書、学術論文等

A flavin-dependent monooxygenase produces nitrogenous tomato aroma volatiles using cysteine as a nitrogen source (共著) (2022) *Proceedings of the National Academy of Sciences* 119 (7) e2118676119 Functional divergence of principal alcohol o-acyltransferase for biosynthesis of volatile acetate esters among tomato wild species (*Solanum* Sect. *Lycopersicon*) (共著) (2020) *Plant Science* 300:110612. Differential constitution in promoter region leads a phenotype with less allergic actinidin level in yellow-fleshed kiwifruit (*Actinidia chinensis*) (共著) (2018) Divergence in the enzymatic activities of a tomato and *Solanum pennellii* alcohol acyltransferase impacts fruit volatile ester composition (共著) (2015) *Molecular Plant* 8: 153-162.



植物生産科学分野

肥後昌男 専任講師 博士(農学)
Masao Higo

●主な学歴
日本大学大学院 生物資源科学研究科 生物資源生産科学専攻 博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 日本国内における飼料用トウモロコシの生理・生態的特性と乾物生産に関する研究
2. 作付体系下におけるアーバスキュラー菌根菌の生育促進効果に関する研究

●学会および社会における活動等

2006年～現在 日本作物学会会員
2006年～現在 日本土壤微生物学会会員
2010年～現在 日本土壤肥料学会会員

●著書、学術論文等

Amplicon sequencing analysis of arbuscular mycorrhizal fungal communities colonizing maize roots in different cover cropping and tillage systems. *Scientific Reports* 10: 6093 (共著) (2020) / 南関東におけるヘアリーベッチ導入が飼料用トウモロコシのリン吸収、生育・収量に及ぼす影響. *農作業研究* 55: 35-42 (共著) (2020) / First report of community dynamics of arbuscular mycorrhizal fungi in radiocesium degradation lands after the Fukushima-Daiichi Nuclear disaster in Japan. *Scientific Reports* 9: 8240 (共著) (2019) / Cover cropping can be a stronger determinant than host crop identity for arbuscular mycorrhizal fungal communities colonizing maize and soybean roots? *PeerJ* 7: e6403. (共著) (2019) / Can phosphorus application and cover cropping alter arbuscular mycorrhizal fungal communities and soybean performance after a five-year phosphorus-unfertilized crop rotational system? *PeerJ* 6: e4606. (共著) (2018).



植物生産科学分野

奈島賢児 専任講師 博士(農学)
Kenji Nashima

●主な学歴
名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. パインアップルの DNA マーカー育種に関する研究
2. アジサイの DNA マーカー育種に関する研究

●学会および社会における活動等

2008年4月～現在 園芸学会会員
2013年4月～現在 日本DNA多型学会会員
2015年4月～現在 日本熱帯農業学会会員
2017年4月～現在 日本熱帯農業学会庶務幹事
2018年11月～現在 日本DNA多型学会代議員

●著書、学術論文等

Genome sequence of *Hydrangea macrophylla* and its application in analysis of the double flower phenotype (共著) (2021) *DNA Research* 28:dsaa026 / Molecular basis of carotenoid accumulation in horticultural crops (共著) (2019) *Hortic J.* 88: 135-149. / Development of DNA markers linked to double-flower and hortensia traits in *Hydrangea macrophylla* (*Thunb.*) Ser. (共著) (2018) *Hortic J.* 87: 264-273. / マンゴーにおける共優性レトロトランスポゾン挿入多型マーカーの開発 (共著) (2018) *DNA多型*. 26: 69-73. / Retrotransposon-based insertion polymorphism markers in mango (共著) (2017) *Tree Genet. Genomes*. 13:110. / パインアップルにおけるカロテノイド関連遺伝子の多型解析 (共著) (2017) *DNA多型*. 25: 62-67. / パインアップルにおけるレトロトランスポゾン挿入多型マーカー開発と品種識別への適用 (共著) (2015) *DNA多型*. 23: 29-33.



植物生産科学分野

水田大輝 専任講師 博士(農学)
Daiki Mizuta

●主な学歴
島根大学生物資源科学部卒業
鳥取大学大学院連合農学研究科修了

●研究テーマ

1. 花色の多様化および模様形成に関わる色素および遺伝子の解析
2. 八重咲き形質に関わる花器形態形成関連遺伝子の解析
3. 新規花卉開発のための育種技術の検討

●学会および社会における活動等

2005年 1月～現在 園芸学会会員
2012年 1月～2016年3月 日本学術振興会産学協力研究委員会「植物分子デザイン第178委員会」委員および事務局
2015年8月～現在 植物細胞分子生物学会会員
2017年10月～現在 国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画委員
2018年4月～現在 農業生産技術管理学会庶務幹事

●著書、学術論文等

Insertion of a Retrotransposon into a Flavonoid 3'-hydroxylase Homolog Confers the Red Root Character in the Radish (*Raphanus sativus* L. var. *longipinnatus* L. H. Bailey) (共著) (2017) *The Horticulture Journal* 87 (1): 89-96. / Pigment Composition Patterns and Expression of Anthocyanin Biosynthesis Genes in *Rhododendron kiusianum*, *R. kaempferi* and their Natural Hybrids on Kirishima Mountain Mass, Japan (共著) (2014) *Journal of the Japanese Society for Horticultural Science*, 83(2): 156-162. / 新しい植物育種技術を理解しよう-NBT (new plant breeding techniques) - (共著) (2013) 国際文献社



植物生産科学分野

水野真二 専任講師 博士(農学)
Shinji Mizuno

●主な学歴
日本大学生物資源科学部植物資源科学卒業
千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. ウリ科植物の巻きひげ形成遺伝子に関する研究
2. イチゴの生産技術と遺伝に関する研究
3. アブラナ科作物の色素蓄積に関する研究

●学会および社会における活動等

2010年～現在 日本園芸学会
2018年～現在 日本植物学会
2021年～現在 日本農業教育学会評議員・事務局長・庶務幹事

●著書、学術論文等

Effects of Root-zone Cooling with Short-day Treatment in Pot-grown Strawberry (*Fragaria × ananassa* Duch.) Nurseries on Flowering and Fruit Production. (共著) (2022) Hort. J. 91:1-7. / 濃赤色イチゴ新品種「真紅の美鈴」の果実品質およびアントシアニン色素. (共著) (2021) 園学研. 20:109-115. / Plastidial Starch Phosphorylase Is Highly Associated with Starch Accumulation Process in Developing Squash (*Cucurbita* sp.) Fruit. (共著) (2019) Physiol. Plant. 167:264-275. / *Chiba Tendril-Less* locus determines tendril organ identity in melon (*Cucumis melo* L.) and potentially encodes a tendril-specific TCP homolog. (共著) (2015) J. Plant Res. 128:941-951. / Receptor-like protein kinase 2 (RPK 2) is a novel factor controlling anther development in *Arabidopsis thaliana*. (共著) (2007) Plant J. 50:751-766.



動物生産科学分野

大西 彰 教授 博士(農学)
Akira Onishi

●主な学歴
1982年東京農業大学農学部畜産学科卒業 / 1991年～1992年アイオワ州立大学農学部繁殖生理学教室パート
ギランティ / 1992年 広島大より博士(農学) 授与

●研究テーマ

1. ブタ発生工学

●学会および社会における活動等

文部科学省科学技術・学術審議専門委員
(公)日本実験動物協会実験動物生産対策委員会委員
(独)農業生物資源研究所上級客員研究員
日本養豚学会評議員

●著書、学術論文等

- 1) Suzuki S., et.al. (2012) Il2rg gene-targeted severe combined immunodeficiency pigs. *Cell Stem Cell* 10(6):753-758.
- 2) Onishi A., et.al. (2000) Pig cloning by microinjection of fetal fibroblast nuclei. *Science* 289: 1189-1190.
- 3) Onishi A., et.al. (1994) Production of chimeric pigs and the analysis of chimerism using mitochondrial deoxyribonucleic acid as a cell marker. *Biology of Reproduction* 51: 1069-1075.
- 4) 大西彰 (2001) クローンブタの作出, pp223-230, 実験医学別冊ポストゲノム時代の実験講座4 幹細胞・クローン研究プロトコル, 中辻憲夫 編, 羊土社



動物生産科学分野

梶川 博 教授 農学博士
Hiroshi kajikawa

●主な学歴
京都大学農学部畜産学科卒業
農林水産省畜産草地研究所勤務

●研究テーマ

1. 反芻動物用の新しい飼料資源の開発とその評価を行います。
2. 反芻胃内微生物がどのように基質を発酵、代謝するかを解明します。
3. 動物園の草食動物がどれぐらい繊維質を消化できるかを調査します。

●学会および社会における活動等

1983年～現在 日本畜産学会
1988年～現在 米国酪農学会、米国動物学会
1997年～現在 米国微生物学会
2008年3月 日本畜産学会賞受賞「反芻家畜における窒素の有効利用に関する研究」

●著書、学術論文等

反芻胃内混合細菌の増殖速度と増殖効率に対するタンパク質アミノ酸の促進および阻害効果(米国酪農学会誌) / 牛の反芻胃内混合細菌におけるセロピオース輸送(米国微生物学会誌) / 反芻胃内容液のメタン酸化と電子受容反応(英国応用微生物学会誌) / 反芻胃内微生物によるリグニン中ベンジル・エーテル結合の分解(欧州微生物学会連合誌) / 反芻胃内細菌ストレプトコッカス・ポビスのプロトン輸送におけるイオノフォアの効果(シュプリンガー社) / 異なる反芻胃内発酵特性を示す乳牛の反芻胃内特性および乳生産に及ぼす綿実給与の影響(エルゼビア社) / 黒毛和種去勢牛の肉質に及ぼす飼料および反芻胃内発酵の影響(日本畜産学会報)



動物生産科学分野

佐伯真魚 教授 博士(農学)
Mao Saeki

●主な学歴
北里大学獣医学部畜産学科卒業 / 日本大学大学院農学研究科博士課程単位取得満期退学

●研究テーマ

1. 未利用資源の飼料利用に関する研究
2. 家畜の栄養素要求量に関する研究
3. 飼料の加工技術に関する研究

●学会および社会における活動等

1994年～現在 日本畜産学会会員
1998年～現在 日本草地学会会員
2003年～現在 日本養豚学会評議員

●著書、学術論文等

未利用有機物資源の飼料利用ハンドブック(共著)サイエンスフォーラム社 2000. / 濃厚飼料としての食品残さ飼料利用技術の現状(単著)農林水産研究ジャーナル 2009. / 副産物飼料の機能性とその活用(単著)栄養生理研究会解放 2007. / 乾燥麦茶粕および麦茶粕サイレーズの養豚用飼料としての栄養価(共著)日本畜産学会報 2006. / 食品残さを成分表に基づき配合した養豚用リサイクル飼料の組成および栄養価の設計値と実測値の比較(共著)日本養豚学会誌 2004.



動物生産科学分野

長嶺慶隆 特任教授 博士(農学)
Yoshitaka Nagamine

●主な学歴
岐阜大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. ゲノム情報を用いた家畜の遺伝的改良

●学会および社会における活動等

1980年～現在 日本畜産学会会員
2003年～現在 日本養豚学会会員

●著書、学術論文等

Localising loci underlying complex trait variation using regional genomic relationship mapping (共著) PLoS ONE, 2012 7(10): e46501/Detection of multiple quantitative trait loci and their pleiotropic effects in outbred pig populations, *Genetic Selection Evolution* (共著)2009,41,1-11./Effect of environmental factors on fertility of Holstein-Friesian cattle in Japan (共著), *Livestock Science*, 2008,115,89-93./Transformation of QTL genotypic effects to allelic effects (単著), *Genetics Selection Evolution*, 2005,37,579-584./QTL detection and allelic effects for growth and fat traits in out bred pig population, *Genetics Selection Evolution*, 2004,36, 83-96./Quantitative trait loci variation for growth and obesity between and within lines of pigs (*Sus scrofa*), *Genetics*, 2003, 164, 629-635.



水圏生物生産科学分野

小島隆人 教授 博士(農学)
Takahito Kojima

●主な学歴
北海道大学大学院水産学研究科漁業学専攻
博士後期課程中途退学

●研究テーマ

1. 音響刺激が魚類の育成に及ぼす効果
2. 漁獲行為が魚に与える生理的負担度解明に関する研究
3. 定置網漁具およびその周辺における魚群行動の解明

●学会および社会における活動等

1992年～現在 日本水産工学会編集委員
2008年～現在 日本水産工学会理事
2008年～現在 日本海洋工学会理事

●著書、学術論文等

魚類の聴覚生理(共著)、1998、恒星社厚生閣、pp169-178、209-215 / 魚の行動生理学と漁法(共著)、1995、恒星社厚生閣、pp96-106 / Acoustic pressure sensitivities and effects of particle motion in red sea bream *Pagrus major* (共著), 2010, Fish. Sci. 76, pp13-20 / Measurements of auditory sensitivity in common carp *Cyprinus carpio* by the auditory brainstem response technique and cardiac conditioning method(共著), 2005, Fish. Sci. 71, pp95-100 / Blood parameters and electrocardiogram in squeezed fish simulating the effect of net damage and recovery(共著), 2004, Fish. Sci. 70, pp860-866 / Preliminary study on heartbeats and swimming behavior of free-ranging fish, red sea bream *Pagrus major*, measured with newly developed micro data-logger (共著), 2003, Polar Biosci. 16, pp104-111 / 最大エントロピー法を利用した魚類心拍変動の周波数分析(共著)、2001、水産工学38、pp145-150



動物生産科学分野

三角浩司 准教授 博士(獣医学)
Koji Misumi

●主な学歴
東京農業大学農学部農業拓殖学科卒業 / 山口大学大学院連合獣医学研究科より博士(獣医学)授与

●研究テーマ

1. ブタ胚移植に関する研究
2. ブタ生殖細胞の保存に関する研究

●学会および社会における活動等

2018年 4月～現在 日本養豚学会常務理事
2000年12月～現在 日本畜産学会会員
2013年 7月～現在 日本繁殖生物学会会員

●著書、学術論文等

- 1)種豚から個体ごとに採取した胚盤胞期および拡張胚盤胞期ガラス化保存胚の胚移植による子豚生産効率 2015年 日本養豚学会誌 52(1)
- 2)Production of Middle White piglets after transfer of embryos produced in vitro. 2014年 J Reprod Dev. 60(3)
- 3)Effects of the estrous cycle on the efficacy of oocyte collection and in vitro embryo production in Duroc-breed. 2014年 Anim Sci J. 85(2)
- 4)Successful production of piglets derived from expanded blastocysts vitrified using a micro volume air cooling method without direct exposure to liquid nitrogen. 013年12月 Reprod Dev.59(6)
- 5)胚の遠心処理がガラス化及び凍結保存後のブタ胚の生存性に及ぼす影響、2006 日本畜産学会報 77(1)
- 6)Successful production of piglets derived from vitrified morulae and early blastocysts using a microdroplet method. 2003年 Theriogenology. 60(2)



水圏生物生産科学分野

糸井史朗 教授 博士(農学)
Shiro Itoi

●主な学歴
日本大学農獣医学部水産学科卒業 / 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻修了

●研究テーマ

1. フグ毒の産生・蓄積機構に関する研究
2. 地球温暖化が有毒生物に及ぼす影響に関する研究

●学会および社会における活動等

1999年～現在 日本水産学会会員(水産増殖懇話会委員、水産教育推進委員会委員、選挙管理委員会委員、関東支部幹事)
2004年～現在 マリンバイオテクノロジー学会会員(評議員)

●著書、学術論文等

循環濾過システム(単著)養殖の餌と水一陰の主役たち(杉田治男編)2008年、pp. 128-139(恒星社厚生閣);ミトコンドリアDNA分析による魚類加工品の種別別(共著)水産物の原料・産地判別(水産学シリーズ149)2006年、pp. 20-29(恒星社厚生閣);Larval pufferfish protected by maternal tetrodotoxin(共著)Toxicon 78, 35-40 (2014);テトロトキシンの生物学的意義とフグ毒中毒(単著)モダンメディア64, 241-249 (2018);Species composition of the genus *Scombropro* (Teleostei, Scombroproidae) in the waters around the Japanese Archipelago: detection of a cryptic species(共著)Mitochondrial DNA Part A 29, 1293-1300 (2018); Difference in tetrodotoxin content between two sympatric planocercid flatworms, *Planocera multitentaculata* and *Planocera reticulata* (共著)Toxicon 173, 57-61 (2020);The planocercid flatworm is a main supplier of toxin to tetrodotoxin bearing fish juveniles(共著)Chemosphere 249, 126217 (2020)



水圏生物生産科学分野

高井則之 教授 博士（農学）
Noriyuki Takai

- 主な学歴
京都大学農学部水産学科卒業
京都大学大学院農学研究科水産学専攻修了

●研究テーマ

1. 関東・東海地方における淡水生物の生態
2. 河口・沿岸海域および湖沼における食物網の構造
3. 黒潮流域における底生魚類の生態

●学会および社会における活動等

2021年 3月～現在 日本水産学会 企画広報委員長
2016年12月～現在 千葉県内水面漁場管理委員

●著書、学術論文等

[学術論文(主著および単著)]

- ◆Ecological Research(主著/共著)2018. 33. 935-948
 - ◆Aquatic Biology(主著/共著)2014, 21, 109-120
 - ◆Ichthyological Research(主著/共著) 2012, 59, 156-163
 - ◆魚類学雑誌(主著/共著) 2011, 58, 13-25
 - ◆Aquatic Botany(主著/共著) 2010, 92, 289-293
 - ◆Fisheries Science (主著/共著) 2007, 73, 591-606
 - ◆日本生態学会誌(単著) 2005, 55, 269-285
 - ◆Marine Ecology Progress Series(主著/共著) 2004, 284, 97-108
 - ◆Otsuchi Marine Science(主著/共著) 2003, 28, 45-51
 - ◆Limnology and Oceanography(主著/共著) 2002, 47, 730-741
- [著書]
◆水産学シリーズ159 安定同位体スコープで覗く海洋生物の生態—アサリからクジラまで(共著/共同編集)2008年(恒星社厚生閣)



水圏生物生産科学分野

牧口祐也 准教授 博士（環境科学）
Yuya Makiguchi

- 主な学歴
北海道大学水産学部海洋生物生産科学科卒業
北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻修了

●研究テーマ

1. サケ科魚類の配偶者選択に関する行動・生理学的研究
2. 魚類の脳波測定に関する基礎的研究

●学会および社会における活動等

2005年～現在 日本水産学会会員
2010年～現在 日本バイオロギング研究会幹事
2014年～現在 日本サイエンス・ビジュアルリサーチ研究会会員
2014年～現在 日本動物行動学会

●著書、学術論文等

- 魚類の繁殖行動 水族館と海の生き物たち(分担執筆)、2014、103-106、恒星社厚生閣/蛇行復元がサケ科魚類の遡上行動およびエネルギー消費に与える影響 川の蛇行復元-水理・物質循環・生態系からの評価-(分担執筆)、2011、141-163、技報堂出版/サケだって、たまには休憩したくなる 動物たちの不思議に迫るバイオロギング(分担執筆)、2009、98-101、京都通信社/産卵中に心臓停止? 動物たちの不思議に迫るバイオロギング(分担執筆)、2009、106、京都通信社/ Take-off performance of flying fish *Cypselurus heterurus doederleini* measured with miniature acceleration data loggers(筆頭著者)、2013、18、105-111、Aquatic Biology/ Cardiac Arrest during Gamete Release in Chum Salmon Regulated by the Parasympathetic Nerve System (筆頭著者)、2009、4(6):e5993、PLoS ONE / EMG telemetry studies on upstream migration of chum salmon in the Toyohira River, Hokkaido, Japan (筆頭著者)、2011、37、273-284



水圏生物生産科学分野

杉田治男 特任教授 農学博士
Haruo Sugita

- 主な学歴
京都大学大学院農学研究科水産学専攻博士
後期課程単位取得満期退学

●研究テーマ

1. 魚介類腸内細菌の生理、生態および分類に関する研究
2. 魚介類のプロバイオティクスに関する研究
3. 増養殖環境の浄化に関する研究

●学会および社会における活動等

1999年～2022年 日本水産学会関東支部幹事(旧・支部評議員)
2000年～現在 日本水産増殖学会評議員
(1997～1999年度編集委員長)

2007年～2011年 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員
2010年～2012年 日本水産学会関東支部長(理事)
2018年～2022年 日本水産学会監事

●著書、学術論文等

- 水族館と海の生きものたち(編著)、2014.3.25、恒星社厚生閣、193p/改訂増補版・海の環境微生物学(編著)、2011.3.25、恒星社厚生閣、249p/養殖の餌と水(編著)、2008.3.15、恒星社厚生閣、183p/微生物の利用と制御(編著)、2007.9.25、恒星社厚生閣、143p/Predominant intestinal bacteria of the pufferfish (*Takifugu rubripes* Temminck & Schlegel, 1850)reared in an indoor tank as determined by the clone library analysis and culture method(共著)、2013, J. Appl. Ichthyol, vol.29, pp.1374-1377/Bacterial diversity of the upper and lower intestines of the common carp (*Cyprinus carpio* Linnaeus, 1758)reared in an indoor tank(共著)、2012, J. Appl. Ichthyol., Vol. 28, pp.647-648.



水圏生物生産科学分野

間野伸宏 准教授 博士（農学）
Nobuhiro Mano

- 主な学歴
日本大学農獣医学部水産学科卒業
日本大学大学院農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 魚介類の感染症診断および治療・予防法の確立
2. 免疫賦活剤を用いた魚類の感染症予防

●学会および社会における活動等

1995年4月～現在 日本魚病学会会員
(2019年～現在 常任編集委員・評議員)
1997年4月～現在 日本水産学会会員
2009年4月～現在 日本水産増殖学会会員(2021年～現在 評議員)

●著書、学術論文等

- 水産育成学入門 間野伸宏・鈴木伸洋編(編者)2020年(成山堂) Environmental factors affecting *Edwardsiella ictaluri*-induced mortality of riverine ayu, *Plecoglossus altivelis* (Temminck & Schlegel). 2021年(責任著者)Journal of Fish Diseases. Temporal change in genetical lineages of Infectious Hematopoietic Necrosis Virus (IHNV) in the North Kanto Region of Japan from 1981 to 2015. 2021年(責任著者)Fish Pathology. Enhancement of immune proteins expression in skin mucus of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* upon feeding a diet supplemented with high concentration of ascorbic acid. 2021年(責任著者)Fish and Shellfish Immunology.Alteration of hemoglobin β gene expression in mucosal tissues of Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, in response to heat stress, *Edwardsiella piscicida* infection, and immunostimulants administration. 2022年(責任著者)Fish and Shellfish Immunology Reports.



森林生産科学分野

太田祐子 教授 博士(農学)
Yuko Ota

●主な学歴
東京大学農学部林学科卒業／東京大学農学生命科学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 木材腐朽菌の生態および系統分類に関する研究
2. 樹木病害の発生機構解明、診断および管理技術の開発
3. 森林の健全性維持および希少種の保全と管理に関する研究

●学会および社会における活動等

2015年～現在 日本菌学会評議員
2014年～現在 樹木医学会理事
2019年～現在 日本森林学会理事

●著書、学術論文等

樹木医学入門(共著)2021, 朝倉書店／森林病理学(編著)2020, 朝倉書店／First report of trunk rot caused by *Fomitiporia torreyae* in Kyoto prefecture on cultivars of Japanese cedar with no relatedness to 'Sanbu-sugi'. (共著)2016, Journal of Forest Research 21: 105-109. Genetic differentiation and spatial structure of *Phellinus noxius*, the causal agent of brown root rot of woody plants in Japan.(共著)2015, PLoS ONE 10(10)／Brown root rot caused by *Phellinus noxius* in the Ogasawara (Bonin) islands, southern Japan - current status of the disease and its host plants (共著)2015, Australasian Plant Dis. Notes10:33／Taxonomy and phylogenetic position of *Fomitiporia torreyae*, a causal agent of trunk rot on Sanbu-sugi, a cultivar of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) in Japan. (共著)2014, Mycologia 106:66-76



森林生産科学分野

阿部和時 特任教授 博士(農学)
Kazutoki Abe

●主な学歴
日本大学農獣医学部林学科卒業／東京農工大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 森林の公益的機能に関する研究
2. 山地災害危険地区の推定手法に関する研究
3. 荒廃山地の自然復旧に関する研究

●学会および社会における活動等

1980年～現在 日本森林学会会員
1983年～現在 砂防学会会員
1983年～現在 日本緑化工学会会員
1997年～2015年 日本緑化工学会理事
2011年～2018年 日本緑化工協会会長
2012年～2015年 日本緑化工学会副会長
2015年～2020年 神奈川県森林審議会委員

●著書、学術論文等

樹木の根の引き抜き抵抗力による表層崩壊防止機能の評価方法に関する研究(共著),2018/09,砂防学会誌,71/ 3,pp.3-11／The response of pore water pressure to snow accumulation on a low-permeability clay landslide(共著),2018/06,Engineering Geology,242,pp.130-141／森林と災害 表層崩壊(分担執筆),2018/03,共立出版株式会社,pp.78-106／スギ林の間伐が根系生長と表層崩壊防止機能に与える影響(共著),2016/11,日本緑化工学会誌,42/ 2,pp.299-307／原位置せん断面試験による森林の崩壊防止機能の考察(共著),2014/09,関東森林研究,65/ 2,pp.173-176／最新環境緑化学 斜面防災と緑地機能(分担執筆),2007/04,朝倉書店,pp.56-65



森林生産科学分野

岩田隆太郎 特任教授 農学博士
Ryūtarō Iwata

●主な学歴
京都大学農学部林産工学科卒業／京都大学大学院農学研究科林産工学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 木材食害性甲虫類の比較生理生態
2. シロアリの生物学とその応用
3. 樹木加害性侵略的外来種昆虫の生態と防除

●学会および社会における活動等

1991年 1月～2003年12月 日本鞘翅学会 常任幹事、等
2010年 1月～現在 日本甲虫学会 評議員
2009年11月～現在 日本環境動物昆虫学会 評議員、理事
1991年 4月～2017年 3月 都市有害生物管理学会(旧 日本家屋害虫学会) 会長、副会長、編集委員または評議員、等
2007年 1月～2021年 3月 日本応用動物昆虫学会 評議員、代議員 または編集委員
2017年 1月～2020年12月 日本昆虫学会評議員または代議員

●著書、学術論文等

木質昆虫学序説(単著)、2015.12.九州大学出版会、14+498pp.／シロアリの事典(編、分担執筆)、2012.12.海青社、pp.82-89／Nematodes associated with *Dryocoetes uniseriatus* (Coleoptera: Scolytidae) (共著),2013.2, *Environmental Entomology*, 42(1),pp.79-88／Systematics of rove beetles (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae) associated with *Hodotermopsis sjostedti* (Isoptera: Termopsidae) (共著),2014.10, *Entomological Science*, 17(4),pp.409-424／Mating behavior of *Rosalia batesi* (Coleoptera: Cerambycidae) is mediated by male-produced sex pheromones (共著),2018.4, *Insects*, 9(2-48), 16pp.



森林生産科学分野

上村真由子 准教授 博士(農学)
Mayuko Jomura

●主な学歴
神戸大学農学部植物資源科学科卒業／神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 森林の炭素循環に関する研究
2. 木材腐朽菌の生態に関する研究
3. 温暖化など気候変動が分解者に与える影響に関する研究

●学会および社会における活動等

1998年～現在 日本森林学会会員
1999年～現在 日本生態学会会員
2001年～現在 日本農業気象学会会員
2003年～現在 森林立地学会会員

●著書、学術論文等

Differences between coarse woody debris and leaf litter in the response of heterotrophic respiration to rainfall events (共著), 2012, Journal of Forest Research 17. pp.305-31／Spatial variation in respiration from coarse woody debris in a temperate secondary broad-leaved forest in Japan (共著), 2008, Forest Ecology and Management 255. pp.149-155／The carbon budget of coarse woody debris in a temperate broad-leaved secondary forest in Japan (共著), 2007, Tellus 59B. pp.211-222／森林のバランス (共著) 2012, pp.220-226 東海大学出版会／Permafrost Ecosystems: Siberian Larch Forests (共著) 2010, pp.385-411 Springer



森林生産科学分野

杉浦克明 准教授
Katsuki Sugiura 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院 生物資源科学研究科 生物資源生産科学専攻 博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 持続可能な森林管理のための森林認証制度に関する研究
2. 専門教育・学校教育・社会教育での森林環境教育に関する研究

●学会および社会における活動等

2002年4月～現在 日本森林学会 会員
2005年4月～現在 森林計画学会 会員
2009年4月～現在 日本環境教育学会 会員
2010年4月～現在 林業経済学会 会員

●著書、学術論文等

Application of an Adaptive Forest Management Simulation Model based on Zoning in a Man-made Forest. (筆頭著者) 2019, *Forests*, 10, 482 (14 pp) / Reasons for Choosing Forest Stewardship Council (FSC) and Sustainable Green Ecosystem Council (SGEC) Schemes and the Effects of Certification Acquisition by Forestry Enterprises in Japan. (筆頭著者) 2018, *Forests*, 9: 173 (12 pp) / Trends in Evaluations of Sustainable Green Ecosystem Council (SGEC) Certified Forests in Japan. (筆頭著者) 2017, *Small-scale Forestry*, 16: 37-51 / Improvement of Forest Management in Asia, through Assessment of Forest Stewardship Council Certification. (筆頭著者) 2013, *Forest Science and Technology*, 9: 164-170



森林生産科学分野

園原和夏 専任講師
Waka Sonohara 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 人工林内の光環境を指標とした密度管理に関する研究
2. GISを活用した森林の立地解析に関する研究
3. 空中写真を用いた人工林計測技術に関する研究

●学会および社会における活動等

2001年～現在 日本森林学会会員
2001年～現在 森林計画学会会員
2006年～現在 日本緑化工学会会員
2011年～現在 日本生態学会会員

●著書、学術論文等

間伐後のスギ人工林の光環境と下層植生の変化—神奈川県秦野市で活動するNPOの事例—(共著) (2021) 関東森林研究72(1):37-40 / スギ林の間伐が根系成長と表層崩壊防止機能に与える影響(共著) (2016) 日本緑化工学会誌42(2): 299-307. / Trends in Evaluations of Sustainable Green Ecosystem Council (SGEC) Certified Forests in Japan. (共著) (2016) *Small-scale Forestry*. / Selection of rub trees by brown bears (*Ursus arctos*) in Hokkaido, Japan. (共著) (2013) *Acta Theriologica* 59:129-137. / 森林環境に対する意識調査(共著) (2010) 関東森林研究61:57-60. / 丹沢山地における崩壊跡地の植生回復に関する研究 (共著) (2010) 日本緑化工学会誌36(1):21-26.



森林生産科学分野

中島啓裕 准教授 博士 (理学)
Yoshihiro Nakashima

●主な学歴
京都大学農学部食料環境経済学科
京都大学理学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 哺乳類の生態系における役割 (とくに種子散布)
2. 食肉目の食性の多様化 (特に果実食適応)
3. 自動撮影カメラによる地上性哺乳類調査方法の開発

●学会および社会における活動等

2006年～現在 日本生態学会会員
2006年～現在 熱帯生態学会会員
2014年～現在 日本哺乳類学会会員

●著書、学術論文等

イマドキの動物 ジャコウネコ(単著)、東海大学出版部、2014年、208pp. / Fruit-frugivore interaction of two species Durian (*Durio*, *Bombacaceae*) in Sabah, Malaysia. (筆頭著者) *Biotropica*, 2010, 40, 255-258. / Importance of common palm civets (*Paradoxurus hermaphroditus*) as a long-distance disperser for large-seeded plants in degraded forests. (筆頭著者) *Tropics* 2010, 18, 221-229. / Functional uniqueness of small carnivore as seed dispersal agents: a case study of the common palm civets in the Tabin Wildlife Reserve, Sabah, Malaysia. (筆頭著者) *Oecologia*, 2010, 164, 721-730. / Space use, habitat selection, and day-beds of the common palm civet (*Paradoxurus hermaphroditus*) in human-modified habitats in Sabah, Borneo. (筆頭著者) *Journal of Mammalogy*, 2013, 94, 1169-1178.



生産環境工学分野

都 甲洙 教授 博士 (農学)
Gabsoo Do

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農業工学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 生体・食品材料の凍結保存
2. 食品の内部構造の3次元モデリング
3. 冷凍食品の品質評価

●学会および社会における活動等

2000年～現在 日本冷凍空調学会会員
2000年～現在 日本食品工学会会員
2001年～現在 低温生物工学会会員
2005年～現在 日本食品科学工学会会員

●著書、学術論文等

Determining the Internal Structure of Ice Cream Using Cryogenic Microtome Imaging and X-ray Computed Tomography, *Japan Journal of Food Engineering*, 21 (3), 2020(共著) / 冷凍米飯の長期保存における氷結晶の計測, 日本冷凍空調学会論文集, 35 (3), 251-259, 2018 (共著) / Observation of glassy state relaxation during annealing of frozen sugar solutions by X-ray computed tomography, *European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics*, 127, 279-287, 2018 / Microscale to Macroscale Measurement of Bubbles in Frozen Materials with Cryogenic Microtome Spectral Imaging System, *Japan Journal of Food Engineering*, 18(3), 125-132, 2017(共著) / Three-dimensional Measurement of Ice Crystals in Frozen Materials by Near-infrared Imaging Spectroscopy, *Drying Technology*, 33, 1614-1620, 2015(共著)



生産環境工学分野

佐瀬勲紀 特任教授 農学博士
Sadanori Sase

●主な学歴
東京大学大学院農学系研究科農業工学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 環境や人にも優しい生物生産施設の構造・環境制御・エネルギー・センシングに関する研究

●学会および社会における活動等

1999年 7月～現在 日本農業気象学会評議員
2002年12月～2017年1月 技術者教育プログラム認定審査委員会委員
2006年 8月～2014年8月 国際園芸学会 (ISHS) 園芸工学部会部会長
2007年 1月～2016年12月 日本生物環境工学会評議員
2007年 3月～2012年12月 日本農業気象学会園芸工学部会部会長
2015年 8月～2017年9月 農業施設学会副会長
2017年 9月～2019年9月 農業施設学会常任理事

●著書、学術論文等

Controlled environment agriculture for effective plant production systems in a semiarid greenhouse (共著), 2016, Jpn. Agric. Res. Quart., 50(2), 101-113. / 施設園芸・植物工場ハンドブック (共著), 2015, 農山漁村文化協会, 569pp. / Influence of ridge height of pipe-framed greenhouses on wind pressure coefficients (共著), 2015, Trans. of the ASABE, 58(3), 763-769. / ヒートポンプを利用した温室冷房システムの日本における運転性能の算出 (共著), 2014, 農業施設, 45(2), 43-53. / グリーンカーテンによる冷却効果の比較解析 (共著), 2014, 生物と気象, 14, 10-17. / Wind tunnel measurement of aerodynamic properties of a tomato canopy (共著), 2012, Trans. of the ASABE, 55(5), 1921-1927.



生産環境工学分野

内ヶ崎万蔵 准教授 Ph.D.
Manzo Uchigasaki

●主な学歴
Federal University of Viçosa, Agricultural Engineering, B.Sc. (Brazil) / 東京農工大学農学部農業工学科専攻・修士課程修了

●研究テーマ

1. 微生物燃料電池
2. バイオマスエネルギー工学
3. 再生可能エネルギー
4. ミツバチを活用した環境診断

●学会および社会における活動等

1993年～現在 American Society of Agricultural and Biological Engineers-ASABE, 学会会員
2000年～現在 Brazilian Society of Agricultural Engineers-ABEA, 学会会員
1995年～現在 農業施設学会会員
2017年～現在 日本建築学会会員
2017年～現在 日本ブラジル中央協会理事

●著書、学術論文等

処理敷地制限のある難分解性高濃度油脂等食品排水処理のテストスタディとその実用成果に関する研究: 日本建築学会技術報告集, 26(64), 1031-1036 (共著), 2020 / High strength bioethanol wastewater inoculated with single-strain or binary consortium feeding air-cathode microbial fuel cells: American Institute of Chemical Engineers, Environmental Progress, 38: 380-386 (2019) / 高濃度油脂含有食品製造排水の新たな実用的構想添加担体付着生物膜法の開発研究: 日本建築学会技術報告集, 24(57), 721-726 (共著) 2018.



生産環境工学分野

宮本眞吾 特任教授 農学博士
Shingo Miyamoto

●主な学歴
九州大学大学院農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. LED 光が植物の形態に与える影響について
2. 光色による花卉の開花制御に関する研究
3. LED 光を用いた害虫の物理的防除に関する研究
4. 貯穀害虫の不活性ガスを用いた殺虫方法の開発

●学会および社会における活動等

2013年～現在 農業食料工学会会員
1980年～2012年 農業機械学会会員
1985年～現在 日本農作業学会会員
1987年～現在 農業施設学会会員
1989年～現在 日本生物環境工学会会員
2008年～現在 農業生産技術管理学会会員

●著書、学術論文等

下水污泥焼却灰を用いた養液栽培用培地の開発 (共著), 2011.12, 農業施設, 42(3), 12-19 / 常温貯蔵を目的とした水ストレスおよびLED照射によるトマト苗の生長制御 (共著), 2011.3, 農業施設, 41(4), 156-162 / ANN Prediction of the Thermal Inactivation Time of Microorganisms during Microwave Heating of Chicken Meat (共著), 2009.3, 農業生産技術管理学会誌, 15(3), 152-158 / Research on Methane Fermentation of food Gaebege and Pigs' Excreta (共著), 2008. 9, 農業生産技術管理学会誌, 16(2), 112-118 / LED補助光がミニバラの生育に及ぼす影響 (共著), 2008.9, 農業施設, 39(2), 113-120



生産環境工学分野

梅田大樹 准教授 博士(農学)
Hiroki Umeda

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 植物フェノタイプングを支援する作物計測技術
2. 施設園芸における AI を活用した作物生育診断技術
3. セイヨウカラハナソウ(ホップ)の高品質安定多収を実現する栽培管理手法

●学会および社会における活動等

2004年～現在 日本分光学会会員
2005年～現在 農業食料工学会会員 (2021年～現在 代議員)
2013年～現在 農業施設学会会員
(2021年～現在 常任理事、編集委員会委員長)
2015年～現在 園芸学会会員

●著書、学術論文等

Temporal Source Strength Estimation of Sweet Pepper for Crop Management and LED Supplementation Efficiency Improvement, EAEF, 13(3), 73-80, 2021 / Diagnosing for the Influence on Strawberry Growth by EC Management using a 3-D Depth Sensor, Acta Horticulturae, 1296, 1035-1040, 2020 / 半教師あり学習による花・果実と葉・茎の面積比の画像認識システムの構築, 農業食料工学会誌, 82(6), 650-658, 2020 / Application of Hyperspectral Imaging for Assessment of Tomato Leaf Water Status in Plant Factories, Applied Sciences, 10(13), 4665-1 - 4665-18, 2020 / 農業食料工学ハンドブック (分担), コロナ社, 2020



生産環境工学分野

川越義則 准教授 博士（農学）
Yoshinori Kawagoe

- 主な学歴
 東京大学農学部農業工学科卒業
 東京大学大学院農学系研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 農産物の非破壊品質評価に関する研究
2. 貯蔵環境が青果物の呼吸特性に及ぼす影響

●学会および社会における活動等

- 1987年～現在 農業食料工学会(旧農業機械学会)会員
- 1991年～現在 農業施設学会会員
- 1992年～現在 計測自動制御学会会員
- 2000年～現在 日本食品工学会会員
- 2009年～現在 日本冷凍空調学会会員
- 2013年～現在 農業食料工学会代議員
- 2021年～現在 農業食料工学会学会理事

●著書、学術論文等

冷凍空気調和, 農業食料工学ハンドブック(分担), コロナ社, 143-148,
 2020 / 食品の物流, 食品流通(共著), 実教出版, 153-180, 2020
 / Oxidative Capacity of Nanobubbles and Its Effect on Seed
 Germination, ACS Sustainable Chemistry & Engineering (共著), 4
 (3), 1347-1353, 2016 / 農産物の呼吸速度およびエチレン生成速度の
 計測法, 農業食料工学会誌, 77(6), 420-425, 2015 / 農産食品プロセ
 ス工学(分担), 文永堂出版, 210-217, 2015 / Prediction of Hardness
 Development in Mangosteen Peel using NIR Spectroscopy during Low
 Temperature Storage (共著), Engineering in Agriculture, Environment
 and Food, 7(2), 86-90, 2014

非常勤講師

原田英美子

生物資源利用科学専攻

生物資源利用に関わる諸問題を
地球環境に配慮して総合的にとらえ、
生物資源を有効利用する手法の研究を行います。

生物資源利用学、生物資源利用化学、微生物利用科学、食品科学の各分野から構成される生物資源利用科学にかかわる講義を行い、基礎ならびに応用研究の手法・技術を導入し、優れた研究能力と高度の専門技術を備えた人材を育成します。

生物資源利用学分野

博士前期課程／動植物微生物資源を有効利用するための基礎的な研究を行うとともに、これら生物資源を構成する物質や成分の特性及び機能を明らかにしつつ、かつ、高度利用を図るための講義と研究指導を実施します。また、動植物資源及びその成分の生体調節機能に関する生理・生化学的な解析を中心に応用面も含めて総合的に教育、研究します。

博士後期課程／動物、植物、微生物を有効利用するために、これらの生物資源を構成する物質や成分の特性と機能を明らかにし、食料及び生活資源への利用などについて講義します。また、これらに必要な研究解析方法も指導します。

微生物利用科学分野

博士前期課程／微生物資源を高度利用するための基礎と応用及び技術開発に関する総合的な講義と研究指導を行います。一般微生物学、微生物生理学、ウイルス・ファージを含む分子生物学分野について総合的に学びます。

博士後期課程／微生物利用学、及びそれを支える基礎微生物学の高度な内容について最新の情報をもとに講義します。またポストゲノムシーケンス時代を迎えて遺伝情報科学の進展に伴った微生物の新たな利用を講義します。さらに微生物利用学、及びそれを支える基礎微生物学の興味ある最新のトピックスも理解するよう指導します。

生物資源利用化学分野

博士前期課程／動植物微生物資源のより高度な有効利用を図るための基礎として、それらに含まれる高分子、ならびに低分子有機化合物の分離・同定・合成、それらの化学的特性、立体構造、生体内での生理的役割、その生合成の解析、さらには最新の利用の実例などについて幅広く講義を行い、研究指導を実施します。

博士後期課程／生物中に大量に含有されている糖類やタンパク質、及び少量しか存在しないが機能性の高い酵素やタンパク質の構造機能相関について最新の知見と、その利用・応用面についての講義を行います。また生物資源の有効利用に必要な分析・解析技術についても指導します。

食品科学分野

博士前期課程／食品成分の化学的特性や生体への利用性、食品各成分間の相互作用と変化、食品成分の最新機器分析法、さらには、食品の製造における原料の物性、加工特性ならびに加工技術の単位操作、応用が期待される新技術などを総合的に講義するとともに、研究指導を行います。

博士後期課程／食品摂取による健康維持、疾病予防など三次機能について、食品成分の構造と機能の関係から講義します。また、食品汚染の問題やその分析法、食品製造・加工の高度技術について講義します。これらに関する最新の研究成果の内容について討議を行い、研究の進め方や将来の展望についても指導します。

授業科目一覧

博士前期課程

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
生物資源科学特論Ⅰ	4	4		左記のうちから、必修科目を含め30単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
生物資源科学特論Ⅱ	4		4	
生物資源利用学分野				
生物資源利用学特講Ⅰ	2		2	
生物資源成分機能学特講	2		2	
生物資源利用学演習Ⅰ	1		1	
生物資源成分機能学演習	1		1	
生物資源利用化学分野				
生物資源利用化学特講Ⅰ	2		2	
生物有機化学特講	2		2	
生物資源利用化学演習Ⅰ	1		1	
生物有機化学演習	1		1	
微生物利用学分野				
微生物利用学特講	2		2	
微生物学特講	2		2	
微生物利用学演習	1		1	
微生物学演習	1		1	
食品科学分野				
食品成分化学特講	2		2	
食品製造科学特講	2		2	
食品成分化学演習	1		1	
食品製造科学演習	1		1	
生物資源利用科学特別講義Ⅰ	4	4		
生物資源利用科学特別研究Ⅰ	10	10		
学位論文				

博士後期課程

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
生物資源利用学分野				左記のうちから、必修科目を含め17単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
生物資源利用学特講Ⅱ	2		2	
生物資源利用学演習Ⅱ	1		1	
生物資源利用化学分野				
生物資源利用化学特講Ⅱ	2		2	
生物資源利用化学演習Ⅱ	1		1	
微生物利用科学分野				
微生物利用科学特講	2		2	
微生物利用科学演習	1		1	
食品科学分野				
食品科学特講	2		2	
食品科学演習	1		1	
生物資源利用科学特別講義Ⅱ	4	4		
生物資源利用科学特別研究Ⅱ	10	10		
学位論文				

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください



生物資源利用学分野

川井 泰 教授 博士(農学)
Yasushi Kawai

●主な学歴
東北大学大学院農学研究科畜産学専攻博士課程
前期修了

●研究テーマ

1. 乳酸菌が生産する抗菌性ペプチド (バクテリオシン) に関する研究
2. プロバイオティクス乳酸菌と発酵乳の機能特性に関する研究

●学会および社会における活動等

2006年～現在 日本乳酸菌学会セミナー委員
2014年～現在 牛乳乳製品健康科学学会 分科会委員
2017年～現在 日本畜産学会常務理事

●著書、学術論文等

DNA sequencing and homologous expression of a small peptide conferring immunity to gassericin A, a circular bacteriocin produced by *Lactobacillus gasseri* LA39. (共著)2009. Applied and Environmental Microbiology, 75, 1324-1330 / A conjugative plasmid from *Lactobacillus gasseri* LA39 that carries genes for the circular bacteriocin gassericin A-production and immunity. (共著)2009. Applied and Environmental Microbiology, 75, 6340-6351 / Homologous expression and characterization of gassericin T and gassericin S, a novel class IIIb bacteriocin produced by *Lactobacillus gasseri* LA327. (共著)2019. Applied and Environmental Microbiology, 85, e02815-02818 / 抗菌(性)物質:ヨーグルトの事典(共著)2016. pp243-249. 朝倉書店 / Section 3 発酵乳:肉卵の機能と利用(共著)2018. pp76-80. アイ・ケイコーポレーション / 乳酸菌の疑問50(共著)2020. Q12,23. 成山堂書店



生物資源利用学分野

福島英登 教授 博士(農学)
Hideto Fukushima

●主な学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 海洋生物の種特異的な加工特性に関する研究
2. 水産物の鮮度保持・鮮度判定に関する研究
3. 凍結・解凍中の魚介類筋肉の性状変化に関する研究

●学会および社会における活動等

1998年～現在 日本水産学会会員
2015年～現在 日本冷凍空調学会会員
2018年～現在 キチン・キトサン学会会員

●著書、学術論文等

甲殻類(エビ・カニなど)(単著)冷凍空調便覧. 食品・生物編 2013, pp.121-124. (日本冷凍空調学会) / 通電加熱による魚肉すり身のゲル化(共著), 通電加熱による高品質水産食品の開発(水産学シリーズ178)2013, pp.30-39(恒星社厚生閣) / 漁獲および蓄養による生化学的変化と品質(共著), 沿岸漁獲物の高品質化—短期蓄養と流通システム—(水産学シリーズ172)2012, pp.35-45(恒星社厚生閣) / 養殖マグロでみられるヤケ肉の発生要因とその肉質性状, 生鮮マグロ類の高品質管理—漁獲から流通まで—(水産学シリーズ165)2010, pp.43-53(恒星社厚生閣) / Titin-isoform dependence of titin-actin interaction and its regulation by S100A1/Ca²⁺ in skinned myocardium(共著)J. Biomed. Biotechnol. 2010: 1-9(2010) / Myosin heavy chain genes expressed in juvenile and adult silver carp *Hypophthalmichthys molitrix*: Novel fast-type myosin heavy chain genes of silver carp(共著)Gene. 432: 102-111 (2009)



生物資源利用学分野

熊谷日登美 教授 農学博士
Hitomi Kumagai

●主な学歴
東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻
博士課程修了

●研究テーマ

1. 食品タンパク質の脱アミド化による新機能の付与
2. 穀物アルブミンによる食後血糖値上昇抑制作用
3. 食品フレーバー関連成分の機能性

●学会および社会における活動等

1983年～現在 日本農芸化学会会員(2016年よりフェロー)
1990年～現在 日本栄養・食糧学会会員(国際交流委員・代議員)
2000年～現在 日本食品工学会会員(2007年より評議員)
2014年4月～現在 IUFOST-Japan理事
2017年10月～現在 日本学術会議会員(農芸化学分科会・IUNS分科会・
生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長)

●著書、学術論文等

Evaluation of the amount of glucose adsorbed on water-soluble dietary fibres by the analysis of its diffusion rate through a dialysis membrane(共著), Food Hydrocoll, 129: 107626 (9 pages) (2022)
Combined effects of amino acids in garlic and buna-shimeji (*Hypsizygus marmoreus*) on suppression of CCl₄-induced hepatic injury in rats(共著), Foods, 10(7), 1491(12 pages) (2021) / Rice (*Oryza sativa japonica*) albumin hydrolysates suppress postprandial blood glucose elevation by adsorbing glucose and inhibiting Na⁺-D-glucose cotransporter SGLT1 expression(共著), J. Funct. Foods, 64: 103603 (8 pages) (2020)



生物資源利用学分野

若林素子 教授 博士(理学)
Motoko Wakabayashi

●主な学歴
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程単位取得退学

●研究テーマ

1. 食品香気成分の生合成に関する研究
2. 食品香気成分の構造活性相関に関する研究
3. 食品香気成分の生理活性に関する研究
4. 食品成分や物性とおいしさの関連の解明に関する研究

●学会および社会における活動等

2007年～現在 日本食品科学工学会会員
2009年～現在 日本農芸化学会会員
2014年～現在 日本調理科学会会員
2015年～現在 日本食品分析学会会員

●著書、学術論文等

Configurations and Sensory Properties of the Stereoisomers of 2,6-Dimethyl-4-propyl-1,3-oxathiane and 2,4-Dimethyl-6-propyl-1,3-oxathiane. (共著)J. Agric. Food Chem., 70, 4712-4724 (2022)
Analytical and Sensory Characterization of the Stereoisomers of 3-Mercaptocycloalkanones and 3-Mercaptocycloalkanols. (共著)J. Agric. Food Chem., 68, 7184-7193 (2020)
Comparison of odour thresholds and odour qualities of the enantiomers of 4-mercapto-2-alkanones and 4-acetylthio-2-alkanones. (共著)Flavour Fragrance J., 30, 171-178 (2015)



生物資源利用学分野

増田哲也 特任教授 博士(農学)
Tetsuya Masuda

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科畜産学専攻博士課程中退

●研究テーマ

1. 生理効果が期待される乳酸菌を用いた発酵乳製品に関する研究

●学会および社会における活動等

2000年～現在 日本食品科学工学会編集委員
2007年～現在 日本酪農科学会評議員

●著書、学術論文等

Improvement of the growth of *L. acidophilus* in milk by addition of enzymatically digested casein, 2003.3/4, *Milchwissenschaft*, 58, 124-127. / Intracellular enzyme activities and autolytic properties of *Lactobacillus acidophilus* and *Lactobacillus gasseri* (共著), 2005. 12, *Food Sci. Technol. Res.*, 11, 328-331. / 乳中における *Lactococcus lactis subsp. cremoris* の不均一な分散に関与する乳成分, 2000.10, 日本畜産学会報 71, J489-J495. / The trial for production of fresh cheese incorporated probiotic *Lactobacillus acidophilus* group lactic acid bacteria (共著), 2005.2, *Milchwissenschaft*, 60, 167-171. / *Lactobacillus acidophilus* を用いた山羊乳ヨーグルト製造のための基礎的研究 (共著), 2002.3, 日本食品科学工学会誌, 52(3), 131-134 / 最新畜産物利用学 (共著), 朝倉書店, 2006.3, チーズホエーを基盤とした新規な乳酸桿菌用培地 (共著), 2006.3, *ミルクサイエンス*, 55, 23-29



生物資源利用学分野

松宮政弘 特任教授 農学博士
Masahiro Matsumiya

●主な学歴
日本大学農獣医学部水産学科卒業

●研究テーマ

1. 未利用海洋バイオマスの有効利用に関する研究
2. 水産加工食品の改良および開発
3. 水生生物キチン分解酵素の構造と機能

●学会および社会における活動等

1978年～現在 日本水産学会会員
1982年～現在 日本食品科学工学会会員
1993年～現在 日本キチン・キトサン学会会員

●著書、学術論文等

魚類のキチン分解酵素—魚はカニ甲羅のキチンをどのように分解するのか—(共著) *e-水産学シリーズ*(1)「水圏生物タンパク質科学の新展開」恒星社厚生閣, 203-225(2020) / *Chondrichthyes Chitinase: Molecular Cloning, Distribution, and Phylogenetic Analysis* (共著), *Open Journal of Marine Science*, 8, 136-151 (2018) / *Biochemistry of fish stomach chitinase (Review)* (共著), *Int. J. Biol. Macromol.* 104, 1672-1681 (2017) / 魚類の繁殖戦略とキチナーゼ(総説)(共著), *キチン・キトサン研究* 23(1), 4-16 (2017) / Preparation of hypoallergenic Kamaboko: Removal of parvalbumin and collagen from fish meat by water-bleaching, mechanical grinding and extraction with potassium chloride, *Nippon Chourii Gakkaishi*, 50(4), 141-150 (2017) / Stomach chitinase from Japanese sardine *Sardinops melanostictus*: Purification, characterization, and molecular cloning of chitinase isozymes with a long linker (共著), *Marine Drugs*, 14 (1) 22,1-13 (2016)



生物資源利用学分野

近藤春美 准教授 博士(理学)
Harumi Kondo

●主な学歴
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. HDL をターゲットとした食品由来成分の抗動脈硬化作用に関する研究
2. 地域野菜および果物の抗酸化機能に関する研究

●学会および社会における活動等

2001年3月～現在 日本栄養・食糧学会・参与
2011年9月～現在 日本ポリフェノール学会・評議員
2021年3月～現在 日本農芸化学会和文誌・編集委員

●著書、学術論文等

S-Allyl-L-cysteine sulfoxide, a garlic odor precursor, suppresses elevation in blood ethanol concentration by accelerating ethanol metabolism and preventing ethanol absorption from gut. (共著) *Biosci Biotechnol Biochem.* 2018, 82:724-731. / 食と健康の科学(共著)2017, 建帛社 / Citrulline increases cholesterol efflux from macrophages in vitro and ex vivo via ATP-binding cassette transporters. (共著) *J Clin Biochem Nutr.* 2014, 55:32-39. / Ezetimibe enhances macrophage reverse cholesterol transport in hamsters: Contribution of hepato-biliary pathway. (共著) *Biochim Biophys Acta.* 2014, 1841:1247-1255. / Consumption of polyphenol-rich juar tea increases endothelium-bound extracellular superoxide dismutase levels in men with metabolic syndrome: link with LDL oxidizability. (共著) *Int J Food Sci Nutr.* 2013, 64:407-414.



生物資源利用学分野

谷米温子 准教授 博士(学術)
Atsuko Tanigome

●主な学歴
共立女子大学大学院家政学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 食物の咽頭部流速と食品物性の関連
2. 食品ハイドロコロイドの物性に関する高分子科学的研究

●学会および社会における活動等

2011年～現在 日本農芸化学会
2010年～現在 日本フードシステム学会
2007年～現在 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会
2005年～現在 日本食品科学工学会
2004年～現在 日本食品工学会

●著書、学術論文等

進化する食品テクスチャー研究(共著),エヌ・ティー・エス,2011,pp183-199 / 高齢者用食品の物性評価と超音波による咽頭部流速測定,日本顎口腔機能学会雑誌,20,6-11,2013 / 2バイトテクスチャー試験(TPA)で得られるパラメータと超音波パルスドブラー法で求められる咽頭部流速との関係(共著)日本食品工学会誌14(2), 87-96,2013 / 高齢者施設における食事形態,フードシステム研究,19(2)136-139,2012 / デンブー水系における凍結水の熱分析による解析(共著)日本食品科学工学会誌,59(2)56-62,2012 / Relationship between the Rheological Properties of Thickener Solutions and Their Velocity through the Pharynx as Measured by the Ultrasonic Pulse Doppler Method(共著)Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 74(8)1598-1605,2010 / 超音波により測定した咽頭部での液状食品の流速に及ぼす嚥下量の影響(共著)日本食品科学工学会誌,55(7)330-337,2008



生物資源利用化学分野

木口 実 教授 博士(農学)
Makoto Kiguchi

●主な学歴
東京農工大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 木質系バイオマスの有効利用技術に関する研究
2. 表面化学修飾による木質材料の高性能化に関する研究

●学会および社会における活動等

2005年～現在 岡山県試験研究アドバイザー
2006年～現在 日本木材学会評議員・代議員
2017年～現在 (公社)日本木材保存協会理事
2020年～現在 木材保存剤審査会技術アドバイザー

●著書、学術論文等

木口実:塗料及び塗装,「森林・林業実務必修 第2版」(共著),朝倉書店, pp419-423 (2021) / 木口実:バイオリファイナリー,「森林学の百科事典」(共著),丸善出版,pp342-343 (2021) / 木口実:木材・プラスチック複合材(混練型WPC),「森林科学シリーズ4フォレスト・プロダクト」(共著),共立出版, pp85-101 (2020) / 木口実:気象劣化,「木材保存学入門 改訂4版」(共著),日本木材保存協会,pp87-94 (2018) / 木口実・山田竜彦:木質バイオマスのマテリアル利用技術,「農林バイオマス資源と地域利活用」(共著),養賢堂, pp281-295 (2018) / T. Yoshida, M. Kiguchi, *et al.*: Preliminary production test of torrefied woody biomass fuel in a small scale plant, *Journal of the Japan Institute of Energy*, 96 (8), 310-313 (2017) / P. Evans, H. Matsunaga, M. Kiguchi: Large-scale application of nanotechnology for wood protection, *nature nanotechnology*, 3 (10), 577 (2008)



生物資源利用化学分野

西尾俊幸 教授 農学博士
Toshiyuki Nishio

●主な学歴
東京農工大学農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 / 農学博士号取得(論文博士); 東北大学

●研究テーマ

1. 酵素反応を利用した有用物質の生産
2. 化学的・分子生物学的手法によるタンパク質の機能改変
3. 新規糖質関連酵素の探索とその応用

●学会および社会における活動等

1982年～現在 日本農芸化学会会員
1994年～現在 国立医薬品食品衛生研究所客員研究員
2011年～現在 日本キチン・キトサン学会評議員
2021年～現在 日本応用糖質科学会会長

●著書、学術論文等

生物有機化学入門(共著)、2006.3、講談社サイエンティフィック / 生命科学系の有機化学(共著)、2004.11、宣協社 / 生体分子科学(共著)、2005.5、共立出版 / Heterodisaccharide 4-O-*N*-acetyl- β -D-glucosaminyl-D-glucosamine is a specific inducer of chitinolytic enzyme production in *Vibrios* harboring chitin oligosaccharide deacetylase gene(共著)、2009, *Glycobiology*, Vol.19, pp.1046-1053 / Synthesis of *N*-acetylsucrosamine using β -fructofuranosidase-containing *Aspergillus oryzae* mycelia as a whole-cell catalyst(共著)、2012, *Carbohydr. Res.*, vol.353, pp27-32. / Structure-based analysis of domain function of chitin oligosaccharide deacetylase from *Vibrio parahaemolyticus* (共著)、2015, *FEBS Lett.* vol 589, p145-151.



生物資源利用化学分野

袴田 航 教授 博士(農学)
Wataru Hakamata

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. タンパク質の立体構造に基づく生理活性物質の精密設計と合成
2. 天然からの医薬品リード化合物の探索と構造最適化
3. ケミカルバイオロジー手法による医薬品リードの作用標的探索

●学会および社会における活動等

日本農芸化学会、日本ケミカルバイオロジー学会、国際ケミカルバイオロジー学会、日本応用糖質科学会、日本糖質学会、有機合成化学協会、日本薬学会、日本応用質科学会評議員・英文誌編集委員・東日本支部理事、日本農芸化学会関東支部幹事、国立医薬品食品衛生研究所客員研究員

●著書、学術論文等

A novel Golgi mannosidase inhibitor: Molecular design, synthesis, enzyme inhibition, and inhibition of spheroid formation, *Bioorg. Med. Chem.*, 2020 / Screening, synthesis, and evaluation of novel isoflavone derivatives as an inhibitor of human Golgi β -galactosidase, *Chem. Pharm. Bull.*, 2020 / Development of fluorogenic substrates of α -L-fucosidase useful for inhibitor screening and gene-expression profiling, *ACS Med. Chem. Lett.*, 2019 / Antiviral activity and mechanism of action of Endoplasmic reticulum glucosidase inhibitors: A Mini Review, *Trends Glycosci. Glycotechnol.*, 2018 / Identification of small-molecule inhibitors of human Golgi mannosidase via a drug repositioning screen, *Chem. Pharm. Bull.*, 2018.



生物資源利用化学分野

安齋 寛 特任教授 農学博士
Hiroshi Anzai

●主な学歴
東北大学大学院農学研究科博士後期課程単位取得満期退学

●研究テーマ

1. 無脊椎動物の消化器官における植物細胞壁多糖類分解酵素の起源—昆虫腸管における植物細胞壁多糖質化性共生微生物の分子生態学的解析—
2. 植物細胞壁多糖(海藻多糖)の性質と生理活性
3. 石油分解菌の生産する細胞外分泌多糖類の構造解析

●学会および社会における活動等

2006年～現在 日本バイオ技術教育学会理事(2019年より理事長)
2021年～現在 茅ヶ崎市環境審議会委員、廃棄物減量等推進審議会委員
日本農芸化学会、日本糖質学会、日本応用糖質科学会、日本セルロース学会、日本生化学会、日本生物工学会、日本水産学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本微生物生態学会、日本水産増殖学会、日本生物教育学会、日本応用動物昆虫学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、会員

●著書、学術論文等

水産食品栄養学(共著)、2004、技報堂出版、pp.309-324 / カブトムシ3齢幼虫(甲虫目:コガネムシ科)の消化管内容物の通過時間(共著)、*環動昆*, 31, 133-142 (2021) / Site-specific profiles of biochemical properties in the larval digestive tract of Japanese rhinoceros beetle, *Trypoxylus dichotomus* (Coleoptera: Scarabaeidae) (共著), *Entomological Science*, 23, 33-43(2020) / Glycolytic Activities in the Larval Digestive Tract of *Trypoxylus dichotomus* (Coleoptera: Scarabaeidae) (共著), *Insects*, 5, 351-363 (2014)



生物資源利用化学分野

平野貴子 准教授
Takako Hirano 博士(生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 海洋細菌由来キチン分解関連酵素の酵素化学研究
2. キチン由来オリゴ糖の微生物機能性に関する研究
3. 希少なオリゴ糖の探索・生産・機能性の研究

●学会および社会における活動等

2004年～現在 日本農芸化学会 会員
2007年～現在 日本応用糖質科学会 会員
2011年～現在 日本キチン・キトサン学会 会員
2019年～現在 日本応用糖質科学会東日本支部 理事

●著書、学術論文等

平野貴子, 袴田航, 西尾俊幸, 海洋細菌の生産するキチンオリゴ糖脱アセチル化酵素の酵素化学的性質と役割(共著), キチン・キトサン研究, 26, 131-136, 2020 / Chitin heterodisaccharide, released from chitin by chitinase and chitin oligosaccharide deacetylase, enhances the chitin-metabolizing ability of *Vibrio parahaemolyticus* (共著), *J. Bacteriol.*, 201, e00270-19, 2019 / Chitin oligosaccharide deacetylase from *Shewanella baltica* ATCC BAA-1091 (共著), *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 81, 547-550, 2017 / Structure-based analysis of domain function of chitin oligosaccharide deacetylase from *Vibrio parahaemolyticus* (共著), *FEBS Lett.*, 589, 145-151, 2015



微生物利用科学分野

荻原 淳 教授 博士(農学)
Jun Ogihara

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 発酵醸造微生物の機能解明
2. 浸透圧耐性酵母におけるポリオール生産機構の解析
3. 外的刺激に対する植物刺激応答機構の解明

●学会および社会における活動等

1991年～現在 日本生物工学会会員
1991年～現在 日本農芸化学会会員
2015年～現在 日本醸造学会会員
2016年～現在 日本応用糖質科学会東日本支部理事

●著書、学術論文等

Kataoka R., Watanabe T., Hayashi R., Isogai A., Yamada O., and Ogihara J. Awamori fermentation test and 1-octen-3-ol productivity analysis using fatty acid oxygenase disruptants of *Aspergillus luchuensis* (共著). *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 130, 489-495 (2020) / Nakagawa Y., Kasumi T., Ogihara J., Tamura M., Arai T., Tomishige K. Erythritol: Another C4 Platform Chemical in Biomass Refinery (共著). *ACS Omega*, 5, 2520-2530 (2020) / Arai T., Kojima R., Motegi Y., Kato J., Kasumi T., and Ogihara J., PP-O and PP-V, *Monascus* pigment homologues, production and phylogenetic analysis in *Penicillium purpurogenum* (共著). *Fungal Biology*, 119, 1226-1236 (2015)



微生物利用科学分野

高橋令二 教授 博士(農学)
Reiji Takahashi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 環境中の硝化細菌およびアンモニア酸化アーキアの新規分離とその機能解析
2. 硝化細菌およびアンモニア酸化アーキアの有用遺伝子・酵素の解析
3. 硝化細菌およびアンモニア酸化アーキアの環境修復機能に関する研究

●学会および社会における活動等

1984年～現在 日本農芸化学会会員
1984年～現在 日本生物工学会会員
1995年～現在 日本土壤肥料学会会員
2011年～現在 日本土壤肥料学会代議員

●著書、学術論文等

Quantification and phylogenetic analysis of ammonia oxidizers on biofilm carriers in a full-scale wastewater treatment plant. *Microbes and Environments*, 35/ 2, ME19140 (2020) / Whole-genome sequence of the ammonia-oxidizing bacterium *Nitrosomonas stercoris* type strain KYUHI-S, isolated from composted cattle manure. *Microbiology Resource Announcements*, 8/ 34, e00742-19 (2019) / Eelgrass sediment microbiome as a nitrous oxide sink in brackish lake Akkeshi, Japan. *Microbes and Environments*, 34/ 1, 13-22 (2019) / Enrichment and physiological characterization of a cold-adapted nitrite-oxidizing *Nitrotoga* sp. from an eelgrass sediment. *Applied and Environmental Microbiology*, 83, e00549-17 (2017) [すべて共著]



微生物利用科学分野

中川達功 教授 博士(理学)
Tatsunori Nakagawa

●主な学歴
明治大学農芸化学科卒業 / 明治大学大学院農学研究科博士前期課程修了 / 東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. アンモニア酸化性アーキアおよびバクテリアの応用生態学的研究
2. 亜酸化窒素軽減微生物の応用生態学的研究

●学会および社会における活動等

1997年～現在 日本微生物生態学会会員
1998年～現在 アメリカ微生物学会会員
2000年～現在 日本陸水学会会員
2006年～現在 日本農芸化学会会員
2006年～現在 日本土壤肥料科学会会員

●著書、学術論文等

Alternative strategies of nutrient acquisition and energy conservation map to the biogeography of marine ammonia-oxidizing archaea *The ISME journal* 14, 2595-2609. (2020) / Eelgrass sediment microbiome as a nitrous oxide sink in brackish lake Akkeshi, Japan *Microbes and Environments*. 34, 13-22. (2019) / *Nitrosomonas stercoris* sp. nov., a chemoautotrophic ammonia-oxidizing bacterium tolerant of high ammonium isolated from composted cattle manure *Microbes and Environments*. 30, 221-227. (2015) / Transcriptional response of the archaeal ammonia oxidizer *Nitrosopumilus maritimus* to low and environmentally relevant ammonia concentrations *Applied and Environmental Microbiology*, 79, 6911-6916. (2013)



微生物利用科学分野

渡邊泰祐 准教授
Taisuke Watanabe 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 麹菌が生産する香気物質の生合成機構の解析
2. 麹菌が発酵飲食品の香気成分に及ぼす影響の解析
3. 浸透圧耐性酵母におけるポリオール生合成機構の解析

●学会および社会における活動等

2001年～現在 日本農芸化学会会員
2010年～現在 日本生物工学会会員
2010年～現在 日本醸造学会会員
2014年～現在 日本応用糖質科学会会員

●著書、学術論文等

[全て共著]発酵・醸造食品の最前線II, シーエムシー出版(2022)/食と微生物の事典, 朝倉書店 (2017)/Awamori fermentation test and 1-octen-3-ol productivity analysis using fatty acid oxygenase disruptants of *Aspergillus luchuensis*, *J Biosci Bioeng*, 130, 489-95 (2020) / *Aspergillus luchuensis* fatty acid oxygenase *ppoC* is necessary for 1-octen-3-ol biosynthesis in rice koji, *J Biosci Bioeng*, 129, 192-8 (2020) /Influence of α -1,3-glucan synthase gene *agsE* on protoplast formation for transformation of *Aspergillus luchuensis*, *J Biosci Bioeng*, 128, 129-34 (2019) /Generation of *Trichoderma reesei* mutant with enhanced xylanase activity by using disparity mutagenesis, *J Appl Glycosci*, 66, 59-4 (2019) /Complementary function of two transketolase isoforms from *Moniliella megachiliensis* in relation to stress response, *AMB Express*, 7, 45 (2017)



食品科学分野

鈴木チセ 教授 博士(農学)
Chise Suzuki

●主な学歴
東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 乳酸菌をプローブとした腸内環境感知技術に関する研究
2. 乳酸菌と酵母の相互作用に関する研究
3. 酵母間の攻撃と防御のタンパク質に関する研究

●学会および社会における活動等

2020年～現在 日本農芸化学会代議員
2017年～現在 The Journal of General and Applied Microbiology 編集委員
2009年～2017年 日本乳酸菌学会理事
2021年～現在 同 理事

●著書、学術論文等

Quantification of functional aromatic amino acid metabolites in fermented foods and their production by food microorganisms(共著) (2020) *Food Sci Tech Res* 26(1) 79-92 /Reduced fucosylation in the distal intestinal epithelium of mice subjected to chronic social defeat stress(共著) (2018) *Sci Rep* 8(1) 1-8 /The distinct effects of orally administered *Lactobacillus rhamnosus* GG and *Lactococcus lactis* subsp. *lactis* C59 on gene expression in the murine small intestine(CA) (2017) *PLoS One* 12(12), e0188985 /Omics studies of the murine intestinal ecosystem exposed to subchronic and mild social defeat stress(CA) (2016) *J Proteome Res* 15(9), 3126-3138



食品科学分野

長田和実 教授 博士(農学)
Kazumi Osada

●主な学歴
明治大学大学院農学研究科博士前期課程修了
東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 匂い成分がもたらす脳機能、行動生理の変化に関する研究
2. 嗅覚機能・体臭に対する食品成分の作用について
3. 嗅覚マスキングの評価に関する研究

●学会および社会における活動等

1995年～現在 The Association for Chemoreception Sciences 会員
1995年～現在 日本味と匂い学会 会員
2005年～現在 日本味と匂い学会 評議員
2012年～現在 日本農芸化学会 会員、日本栄養食糧学会 会員

●著書、学術論文等

Changes in gaseous concentration of alkylpyrazine analogs affect mouse avoidance behavior. (共著) (2021) *Biosci Biotechnol Biochem*. 85(12):2343-2351. doi: 10.1093/ bbb/zbab178. / Application of integrative physiological approach to evaluate human physiological responses to the inhalation of essential oils of Japanese citrus fruits *iyokan* (*Citrus iyo*) and *yuzu* (*Citrus junos*). (共著) (2021) *Biosci Biotechnol Biochem*. 86(1):109-116. doi: 10.1093/bbb/zbab193. /Fucosanthin administration delays occurrence of tumors in xenograft mice by *colomosphaeres*, with an anti-tumor predictor of glycine. (共著) (2019) *J Clin Biochem Nutr*. 64(1), 52-58. doi: 10.3164/jcbs.18-45. Epub 2018 Jul 25.



食品科学分野

竹永章生 教授 博士(農学)
Fumio Takenaga

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科食品工学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 未利用生物資源中の抗酸化物質の検索
2. 食品中の有用脂肪酸の検索

●学会および社会における活動等

1981年～現在 (公社)日本食品科学工学会会員
2012年～現在 同 理事(専務理事1期)
1981年～現在 日本食品保蔵科学会会員
2010年～現在 同 理事
2020年～現在 同 編集委員長
2008年～現在 (一財)日本清涼飲料検査協会理事
2017年～現在 IUFOST-Japan理事

●著書、学術論文等

食品学(共立出版)/食品加工学(共立出版)/食品機能論(同文書院)/新・食品分析法II(光琳)/食品加工技術概論(恒星社厚生閣)/ Polyunsaturated unsaturated fatty acids induce tight junctions to from in brain-capillary endothelial cell(s 共著), *Neuroscience* 116, 649 (2003) /Lipid and fatty acid composition of mesocarp and seed of avocado fruits harvested at northern range in japan(共著), *J. Oleo Science*57, 591 (2008) /Interference effects of proteolytic nattokinase on biofilm formation of cariogenic streptococci(共著), *Food preservation science*, 40, 6 (2014)



食品科学分野

細野 朗 教授 博士(農学)
Akira Hosono

●主な学歴
東北大学大学院農学研究科博士課程前期修了

●研究テーマ

1. 食品成分の腸管免疫応答への作用について
2. 腸内細菌による腸管免疫系の調節作用について

●学会および社会における活動等

2004年～現在 日本食品免疫学会幹事
2006年～現在 日本栄養・食糧学会参与
2021年～現在 (公財)腸内細菌学会理事
2021年～現在 日本無菌生物ノートバイオロジー学会常務理事

●著書、学術論文等

Cecal patches generate abundant IgG2b-bearing B cells that are reactive to commensal microbiota. (共著) *J Immunol Res.* <https://www.hindawi.com/journals/jir/2022/3974141/> (2022).
食品免疫学事典(日本食品免疫学会 編集)(共著) 朝倉書店(2021).
落合邦康監修:ヒト常在細菌叢と生理機能・全身疾患(共著)シーエムシー出版(2020).
Regulation of gene expression through gut microbiota-dependent DNA methylation in colonic epithelial cells. (共著) *Immunohorizons*, 4: 178-190 (2020).
Suppressive effect of dietary resistant maltodextrin on systemic immunity in a mouse model of food allergy. (共著) *Biosci Microbiota Food Health*, 38: 89-95 (2019).
Immunomodulation by food: impact on gut immunity and immune cell function. (共著) *Biosci Biotechnol Biochem*, 82: 584-599 (2018).



食品科学分野

松藤 寛 教授 博士(農学)
Hiroshi Matsufuji

●主な学歴
九州大学大学院農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 植物ポリフェノールの分析化学研究
2. 植物二次代謝産物の構造と生合成に関する研究
3. 未利用資源からの有用物質生産に関する分析化学研究

●学会および社会における活動等

2017年～現在 日本食品化学学会評議員・理事
2019年～現在 内閣府消費者委員会新開発食品調査部会委員
2020年～現在 日本食品科学工学会和文誌編集委員長・業務執行理事
2021年～現在 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会添加物部会委員

●著書、学術論文等

「食品分析学改訂版—機器分析から応用まで—」(共著) 培風館(2015) / 「基礎から学ぶ食品分析学」(共著) 建帛社(2020) / ゴマ草中のフェニルエタノイド配糖体の局在と生合成機構の解明(共著) *アグリバイオ*, 3, 48-51 (2019) / Single-reference HPLC法を用いた機能性表示食品中のルテインの定量.(共著) *日食化誌*, 27, 123-134 (2020). / Development of an HPLC method with relative molar sensitivity based on ¹H-qNMR to determine acteoside and pedaliin in dried sesame leaf powders and processed foods. (共著) *PLOS ONE*, 15, e0243175 (2020). / Determination of mogroside V in luohanguo extract for daily quality control operation using relative molar sensitivity to single-reference caffeine. (共著) *Chem Pharm Bull*, 69, 18-25 (2021).



食品科学分野

荻原博和 特任教授 博士(農学)
Hirokazu Ogihara

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科博士課程前期修了

●研究テーマ

1. 食品媒介病原細菌の検出と制御に関する研究
2. 新非加熱殺菌法による微生物の殺菌評価
3. 発酵食品の微生物叢解析とその機構解明

●学会および社会における活動等

2001年4月～現在 日本食品保蔵科学会評議員
2014年1月～現在 日本食品微生物学会評議員
日本食品衛生学会会員、日本食品微生物学会会員、日本防菌防霉学会会員、日本食品科学工学会会員、日本食品保蔵科学会会員

●著書、学術論文等

Prevalence of *Cronobacter* spp. in Retail Foods and Farm-associated Environments in Japan (共著) *Food Science and Technology Research*, 25 (2), 265-275(2019) / Comparison of chromogenic selective media for the detection of *Cronobacter* spp. (*Enterobacter sakazakii*) (共著) *Biocontrol Science*, 23(1), 27-33(2018) / Increase in hydrophobicity of *Bacillus subtilis* spores by heat, hydrostatic pressure, and pressurized carbon dioxide treatments (共著) *J. Biosci. Bioeng.*, 125(3), 327-332 (2018) / Comparison of the quantitative dry culture methods with both conventional media and most probable number method for the enumeration of coliforms and *Escherichia coli* / coliforms in food (共著) *Lett. Appl. Microbiol.*, 65, 57-65(2017) / Effects of high hydrostatic pressure processing on the number of bacteria and texture of beef liver (共著) *J. Food Quality*, Article ID 7835714, 7p. (2017)



食品科学分野

山形一雄 特任教授 博士(医学)
Kazuo Yamagata

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科食品工学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 食品成分による動脈硬化・脳卒中予防
2. 食品成分による脳栄養に関する分子機構
3. 食品成分の脳細胞および血管細胞に対する健康効果

●学会および社会における活動等

日本高血圧学会、高血圧関連疾患モデル学会、日本神経化学学会、日本細胞生物学会等

●著書、学術論文等

Yamagata, K. Lactate supply from astrocytes to neurons and its role in ischemic stroke-induced Neurodegeneration. *Neuroscience* (単著) 2022 481, 219-231. / Yamagata, K., et al., Potential effects of soy isoflavones on the prevention of metabolic syndrome. *Molecules* (共著) 2021 26. / Yamagata, K., et al., Altered properties of neurons and astrocytes and the effects of food components in stroke-prone spontaneously hypertensive rats, *J Cardiovasc Pharmacol.* (単著) 2021 77, 718-727. / Yamagata, K, et al., Oleic acid and oleylethanolamide decrease interferon-gamma-induced expression of PD-L1 and induce apoptosis in human lung carcinoma cells. *Eur J Pharmacol.* (共著) 2021903, 174116. / Yamagata, K. Astrocyte-induced synapse formation and ischemic stroke, *J Neurosci Res.* (単著) 2021 99, 1401-1413. / Yamagata, K. Dietarydocosahexaenoic acid inhibits neurodegeneration and prevents stroke, *J Neurosci Res.* (単著) 202199, 561-572.



食品科学分野

阿部 申 准教授 博士(農学)
Shin Abe

- 主な学歴
日本大学食品工学科卒業
日本大学大学院農学研究科博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 食品加工への圧力技術の利用に関する研究
2. 酵素反応に及ぼす圧力処理の影響

●学会および社会における活動等

- 1992年～現在 日本食品科学工学会会員・代議員
- 2000年～現在 日本食品保蔵科学会会員・評議員
- 2005年～現在 日本生化学会会員

●著書、学術論文等

ムキタケ子実体に含まれるアミラーゼの性質と製パン性に及ぼす影響(共著)
(2022)日本食品保蔵科学会誌48(2), 73-78./High-pressure and heat pretreatment effects on rehydration and quality of sweet potato. (共著)
(2011) Amer. J. Food Technol. 6 (1), pp. 63-71/Lipid and Fatty Acid Composition of Mesocarp and Seed of Avocado Fruits Harvested at Northern Range in JAPAN. (共著) (2008) J. Oleo Sci., 57, pp. 591-597.



食品科学分野

大槻 崇 准教授 博士(薬学)
Takashi Ohtsuki

- 主な学歴
千葉大学大学院医学薬学府博士課程修了

●研究テーマ

1. 測定対象の定量用標品を必要としない食品関連成分分析法の確立
2. 食品添加物公定法の確立および性能評価

●学会および社会における活動等

- 2000年～現在 日本農芸化学会会員
- 2002年～現在 日本薬学会会員
- 2004年～現在 日本生薬学会会員
- 2009年～現在 日本食品衛生学会会員
- 2009年～現在 日本食品化学学会会員
- 2016年～現在 日本食品科学工学会会員

●著書、学術論文等

Selective preparation and high dynamic-range analysis of cannabinoids in "CBD Oil" and other *Cannabis sativa* preparations(共著), *J. Nat. Prod.*, 85, 634-646(2022)/Cannabidiol inhibits SARS-CoV-2 replication through induction of the host ER stress and innate immune responses(共著), *Sci. Adv.*, 8, eabi6110 (2022) /Development of agonist-based PROTACs targeting liver X receptor(共著), *Front. Chem.*, 9, 674967 (2021) /Determination of mogroside V in luohanguo extract for daily quality control operation using relative molar sensitivity to single-reference caffeine(共著), *Chem. Pharm. Bull.*, 69, 18-25 (2021) / Development of an HPLC method with relative molar sensitivity based on ¹H-qNMR to determine acteoside and pedaliin in dried sesame leaf powders and processed foods(共著), *PLOS ONE*, 15, e0243175 (2020)



食品科学分野

大畑素子 准教授 博士(学術)
Motoiko Ohata

- 主な学歴
お茶の水女子大学大学院博士後期課程人間文化研究科人間環境科学専攻

●研究テーマ

1. 食品の加熱香気の嗅覚系を介した生理応答の解明
2. 食品の加熱香気が有する食欲調節機能の解明

●学会および社会における活動等

- 2003年 7月～現在 日本食品科学工学会 会員
- 2006年 6月～現在 日本農芸化学会 会員
- 2007年 7月～現在 日本味と匂学会 会員
- 2013年10月～現在 日本メイラード学会 会員
- 2014年11月～現在 日本メイラード学会 役員
- 2016年11月～現在 日本行動医学会 会員

●著書、学術論文等

Application of integrative physiological approach to evaluate human physiological responses to the inhalation of essential oils of Japanese citrus fruits *iyokan* (*Citrus iyo*) and *yuzu* (*Citrus junos*) (共著), *Biosci. Biotech. Biochem.*, 86(1), 109-116, (2022)/Changes in gaseous concentration of alkylpyrazine analogs affect mouse avoidance behavior (共著), *Biosci. Biotech. Biochem.*, 85(12), 2343-2351, (2021)/Inhalation of odors containing DMHF generated by the Maillard reaction affects physiological parameters in rats(共著)*Scientific Rep.*, 10 (13931) (2020)/2,3-Dimethylpyrazine (3DP) and 2,5-dimethyl-4-hydroxy-3(2H)-furanone (DMHF) generated by the Maillard reaction in foods affect autonomic nervous activity and central nervous activity in human(共著) *Biosci. Biotech. Biochem.*, 84(9), 1894-1902 (2020)



食品科学分野

陶 慧 准教授 博士(生物資源科学)
Kei Tao

- 主な学歴
日本大学食品工学科卒業
日本大学大学院農学研究科博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 食品の物性、熱物性に関する研究 (測定法と推算法, シミュレーション)
2. 超臨界流体の食品への利用に関する研究 (機能性成分の抽出分離, 未利用資源の有効利用等)
3. 通電による加熱ならびに電気によるセンシングに関する研究

●学会および社会における活動等

- 2011年 9月～現在 日本冷凍空調学会誌・編集委員
- 2011年 4月～現在 分離技術誌・編集委員
- 2010年 9月～現在 日本食品科学工学会関東支部・評議員
- 2005年 9月～現在 日本食品工学会会員
- 1993年 1月～現在 Institute of Food Technologists会員
- 1993年 1月～現在 American Association of Cereal Chemists会員
- 1988年 4月～現在 日本食品科学工学会会員

●著書、学術論文等

Effective Thermal Conductivity of Solid Material in Bread., *Jpn. J. Thermophys. Prop.*, 16, 3, pp.108-113, 2002(共著) / 食パンの水分活性の測定ならびに吸着式による検討, *食品保蔵科学会誌*, 29, 6, pp.329-334, 2003(共著) / Effective Thermal Conductivity Measurement and Analytical Heat Transfer Model on White Bread., *Jpn. J. Thermophys. Prop.*, 18, 1, pp.7-13, 2004(共著) / 食パンの高温度における有効熱伝導率の測定, *食品保蔵科学会誌*, 32, 2, 2006(共著) / 実用製造プロセス物性集覧, 分離技術会, シリーズ9, pp.162-170, 2007(共著)



食品科学分野

鳥居恭好 准教授 博士(農学)
Yasuyoshi Torii

- 主な学歴
名古屋大学農学部食品工業科学科卒業
名古屋大学大学院農学研究科博士課程後期修了

●研究テーマ

1. 機能性食品因子の探索と酵素的機能改変
2. 地域・伝統に根ざした食品の分析と特性評価

●学会および社会における活動等

- 1991年12月～現在 日本農芸化学会会員(H21～22代議員)
- 2002年 7月～現在 日本食品科学工学会会員
- 2002年 7月～現在 日本フードファクター学会会員
- 2004年 6月～現在 日本食品保蔵科学会会員(H23～現在評議員)

●著書、学術論文等

『わかりやすい食品の基礎と機能性分析法』(共著)アイ・ケイコーポレーション(2015)／『国際救助隊誕生／日本大学 N. RESCUE 国際救助隊誕生物語』(共著)リバネス出版(2015)／Perspective of Russian seaweed as a new bioresource; An outline of the Russia-Japan collaborative research project. (共著) New Food Industry, vol.60 (9), p.72-80 (2018)／Actions for the dissemination of kelp-eating culture in Vladivostok during the Kelp Project. (単著・分担執筆) RRIAP monogram vol. 32『昆布食文化のロシアにおける普及ならびにコンブ産業の振興に向けて』, p.123-148, 龍溪書舎(2018)／Interference effects of proteolytic nattokinase on biofilm formation of cariogenic streptococci. *Food Preservation Science* 40(6), 273-277 (2014)



食品科学分野

成澤直規 准教授 博士(農学)
Naoki Narisawa

- 主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士前期課程修了
東京大学大学院農学生命科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 口腔内細菌の制御に関する検討
2. 発酵食品の創成と機能性に関する研究

●学会および社会における活動等

- 2013年～現在 日本食品科学工学会会員
- 2013年～現在 日本食品保蔵学会会員
- 2013年～現在 日本乳酸菌学会会員

●著書、学術論文等

Competence-dependent endogenous DNA rearrangement and uptake of extracellular DNA gives a natural variant of *Streptococcus mutans* without biofilm formation. (共著) *J. Bacteriol.*, 193:5147-5154, 2011. / Inhibition of *Streptococcus mutans* biofilm formation by *Streptococcus salivarius* FruA. (共著) *Appl Environ Microbiol.*, 77:1572-1580, 2011.



食品科学分野

河原井武人 専任講師 博士(生物資源科学)
Taketo Kawarai

- 主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 非加熱殺菌技術による食品媒介病原細菌の制御に関する研究
2. バイオフィルムの制御と応用に関する研究

●学会および社会における活動等

- 2007年10月～現在 日本細菌学会会員
- 2009年 5月～現在 歯科基礎医学会会員
- 2011年 4月～現在 日本生化学会会員
- 2017年 5月～現在 日本食品科学工学会会員
- 2018年 6月～現在 日本食品微生物学会会員

●著書、学術論文等

[全て共著] バイオフィルム制御に向けた構造と形成過程—特徴・問題点・事例・有効利用から読み解くアプローチ—シーエムシー出版(2017) / Complete genome sequence of *Lactobacillus curvatus* NFH-Km12, isolated from Japanese traditional fish fermented food kabura-zushi. *Microbiol. Resour. Announc.*, 7:e00823-18 (2018) / Enzymatic kinetics of the quinal peroxidase of an aggressive periodontopathic bacterium. *J. Biochem.*, 161:513-520 (2017) / Inhibition of *Streptococcus mutans* biofilm formation using extracts from Assam tea compared to green tea. *Arch. Oral Biol.*, 68:73-82 (2016) / *Streptococcus mutans* biofilm formation is dependent on extracellular DNA in primary low pH conditions. *J. Oral Biosci.*, 58:55-61 (2016) / Contribution of *Streptococcus gordonii* Hsa adhesin to biofilm formation. *Jap. J. Infect. Dis.*, 70:399-404 (2016)



食品科学分野

津田真人 専任講師 博士(生物資源科学)
Masato Tsuda

- 主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 大腸免疫系の抗体産生機構と腸内細菌による制御に関する研究
2. 腸内細菌・食品成分によるアレルギー応答の調節

●学会および社会における活動等

- 日本農芸化学会会員, 日本食品免疫学会会員・研究委員, 日本免疫学会会員, 財団法人日本ビフィズ菌センター会員, 日本無菌生物ノートバイオロジー学会会員・評議員

●著書、学術論文等

Cecal patches generate abundant IgG2b-bearing B cells that are reactive to commensal microbiota, *Journal of Immunology Research*, (in press), (共著) / A role for BATF3 in TH9 differentiation and T-cell-driven mucosal pathologies, *Mucosal Immunology*, *Mucosal Immunology*, 12(3): 644-655 (2019), (共著) / Dietary Fructo-oligosaccharides attenuate early activation of CD4⁺ T cells which produce both Th1 and Th2 cytokines in the intestinal lymphoid tissues of a murine food allergy model, *Int Arch Allergy Immunol.*, 174(3-4), 121-132 (2017), (共著) / A Bacterial Artificial Chromosome Reporter System for Expression of the Human *FOXP3* Gene in Mouse Regulatory T-Cells, *Front Immunol.*, 8: 279 (2017) (共著) / Intestinal commensal bacteria promote T cell *hyporesponsiveness* and down-regulate the serum antibody responses induced by dietary antigen. *Immunol Lett*, 132(1-2), 45-52 (2010) (共著)

授 業 科 目 一 覧

博士前期課程

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
生物資源科学特論Ⅰ	4	4		左記のうちから、必修科目を含め30単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
生物資源科学特論Ⅱ	4		4	
生体分子科学分野				
分子生物学特講	2		2	
生体分子化学特講	2		2	
分子生物学演習	1		1	
生体分子化学演習	1		1	
細胞生物学分野				
細胞生物学特講	2		2	
細胞遺伝育種学特講	2		2	
細胞生物学演習	1		1	
細胞遺伝育種学演習	1		1	
生体機能科学分野				
生体機能学特講	2		2	
生体制御学特講	2		2	
生体機能学演習	1		1	
生体制御学演習	1		1	
分子生態科学分野				
分子生態学特講	2		2	
資源生命工学特講	2		2	
分子生態学演習	1		1	
資源生命工学演習	1		1	
応用生命科学特別講義Ⅰ	4	4		
応用生命科学特別研究Ⅰ	10	10		
学位論文				

博士後期課程

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
生体分子科学分野				左記のうちから、必修科目を含め17単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
生体分子科学特講	2		2	
生体分子科学演習	1		1	
細胞生物学分野				
細胞生物学特講	2		2	
細胞生物学演習	1		1	
生体機能科学分野				
生体機能学特講	2		2	
生体機能学演習	1		1	
分子生態科学分野				
分子生態学特講	2		2	
分子生態学演習	1		1	
応用生命科学特別講義Ⅱ	4	4		
応用生命科学特別研究Ⅱ	10	10		
学位論文				

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください



生体分子科学分野

明石智義 教授 博士(農学)
Tomoyoshi Akashi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科応用生物科学専攻
博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 植物二次代謝産物の生合成と機能に関する研究
2. 組換え生物での物質生産に関する研究

●学会および社会における活動等

日本植物細胞分子生物学会会員、日本植物生理学会会員、
日本農芸化学会会員

●著書、学術論文等

Identification and characterization of glycosyltransferases catalyzing direct *xanthone* 4-C-glycosylation in *Hypericum perforatum* (共著), 2021, FEBS Lett. 595, 2608-2615./ Mutants of *Lotus japonicus* deficient in flavonoid biosynthesis (共著), 2021, J. Plant Res. 134, 341-352./ Molecular cloning and biochemical characterization of isoflav-3-ene synthase, a key enzyme of the *biosyntheses* of (+)-*pisatin* and *coumestrol* (共著), 2020, *Plant Biotechnol.* 37, 301-310./ 芳香族化合物(基礎から学ぶ植物代謝生化学(共著), 羊土社, pp. 38-58, 2018/触媒活性をもとに植物の酵素遺伝子を捉える(共著), 生物工学会誌, 95, 142, 2017/ The missing link in leguminous pterocarpan biosynthesis is a *dirigent* domain-containing protein with *isoflavanol* dehydratase activity (共著), 2017, *Plant Cell Physiol.* 58, 398-408./ Triterpene functional genomics in licorice for identification of CYP72A154 involved in the biosynthesis of *glycyrrhizin*. (共著), 2011, *Plant Cell.* 23, 4112-4123. /*Plant Phenolics: Phenylpropanoids*, In *Comprehensive Natural Products II*. Vol. 1. pp. 929-976, 2010.



生体分子科学分野

光澤 浩 教授 理学博士
Hiroshi Mitsuzawa

●主な学歴
東京大学理学部生物学科卒業/東京大学大学院
理学系研究科植物学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 酵母のオートファジーを誘導する飢餓シグナルの受容機構の研究
2. メロンの巻きひげ形成に関わる遺伝子の研究

●学会および社会における活動等

日本分子生物学会会員、日本農芸化学会会員、日本生物教育学会会員、
酵母遺伝学フォーラム会員、トランスポーター研究会幹事、
神奈川県立産業技術総合研究所組換えDNA実験安全委員会委員

●著書、学術論文等

Filamentous invasive growth of mutants of the genes encoding ammonia-metabolizing enzymes in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe* (共著). *PLoS One* 12: e0186028 (2017)/ Ammonium transporters in fungi (単著). In: *Adaptive Gene Regulations—From Microorganisms to Organelles* (eds M. Fujiwara, K. Tanaka & H. Takahashi), pp. 123-133 (2008)/ アンモニウムトランスポーターの生理機能:形態分化における役割 (単著). *生化学* 79: 145-148 (2007)/ Ammonium transporter genes in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*: role in ammonium uptake and a morphological transition (単著). *Genes Cells* 11: 1183-1195(2006)/ Function of Rpb4/Rpb7 and their related subunits in eukaryotic RNA polymerases (単著). *Recent Devel. Nucleic Acids Res.* 2: 71-82 (2006)/ Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase and actin associate with RNA polymerase II and interact with its Rpb7 subunit (共著). *FEBS Lett.* 579: 48-52(2005)



生体分子科学分野

司馬 肇 教授 Ph.D.
Hajime Shiba

●主な学歴
University of Mississippi Medical Center,
Department of Biochemistry. 博士課程修了

●研究テーマ

1. 昆虫の変態における組織の分解と構築の分子機構
2. カイコの細胞・組織老化に関する研究

●学会および社会における活動等

日本分子生物学会会員、日本生化学会会員
日本蚕糸学会会員、日本農芸化学会会員

●著書、学術論文等

Sequential steps of macroautophagy and chaperone-mediated autophagy are involved in the irreversible process of posterior silk gland histolysis during metamorphosis of *Bombyx mori* (共著), 2016 *J. Exp. Biol.* Vol.219, pp.1146-1153/ Stress-induced ceramide generation and apoptosis via the phosphorylation and activation of nSMase1 by JNK signaling (共著), 2015 *cell Death Differ.* Vol.22 pp.258-273/ A histochemical study of the posterior silk glands of *Bombyx mori* during metamorphosis from larvae to pupae using frozen sections (共著), 2014 *Biotech. & Histochem.*, Vol.89, pp.145-152/ Identification of novel fish granzyme involved in cell-mediated immunity (共著), 2014 *Develop. And Compara. Immuno.* Vol.46, pp.499-507/ Antiviral protection mechanisms mediated by ginbuna crucian carp interferon gamma isoforms 1 and 2 through two distinct interferon gamma-receptors (共著), 2011 *J. Biochem.* Vol.150 pp.635-648



生体分子科学分野

森 司 教授 博士(工学)
Tsukasa Mori

●主な学歴
筑波大学大学院環境科学研究科修了

●研究テーマ

1. 成長ホルモン遺伝子組換えサケを用いた成長に関する研究
2. 表現型の可塑性に関する研究

●学会および社会における活動等

日本農芸化学会会員、日本水産学会会員、日本動物学会会員

●著書、学術論文等

A novel *ND1* mitochondrial DNA mutation is maternally inherited in growth hormone transgenesis in amago salmon (*Oncorhynchus masou ishikawae*), (共著) 2022, *Scientific Reports* volume 12, Article number: 6720:1-14./ Predation threats for a 24-h period activated the extension of axons in the brains of *Xenopus* tadpoles, (共著) 2020, *Scientific Reports* volume 10, Article number: 11737:1-15./ The constant threat from a non-native predator increases tail muscle and fast-start swimming performance in *Xenopus* tadpoles. (共著) 2017, *Biol Open.* 15:6(11):1726-1733./ Gene expression profiles in *Rana pirica* tadpoles following exposure to a predation threat (共著), 2015, *BMC Genomics.* 16:258.1-17/ Effects of growth hormone on the salmon pituitary proteome (共著), 2012, *Journal Proteomics.* 75. 1718-1731/ Histological and MS spectrometric analyses of the modified tissue of bulgy form tadpoles induced by salamander predation (共著), 2012, *Biology Open.* 1-10/ Identification of a novel uromodulin-like gene related to predator-induced bulgy morph in anuran tadpoles by functional microarray analysis (共著), 2009, *PLoS ONE*, 4, 1-10.



生体分子科学分野

新井直人 准教授 博士(学術)
Naoto Arai

●主な学歴
日本大学農獣医学部農芸化学科卒業/埼玉大学大学院理工学研究科生物環境科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

真核生物の遺伝子相同組換えの分子機構の研究

●学会および社会における活動等

日本分子生物学会会員、日本生化学会会員、日本農芸化学会会員、American Society for Biochemistry and Molecular Biology会員

●著書、学術論文等

Nonfilament-forming RecA dimer catalyzes homologous joint formation (共著), 2018, *Nucleic Acids Res.*, 46, 10855-10869 / Rad51 and RecA juxtapose dsDNA ends ready for DNA ligase-catalyzed end-joining under recombinase-suppressive conditions (共著), 2017, *Nucleic Acids Res.*, 45, 337-352 / Loop L1 governs the DNA-binding specificity and order for RecA catalyzed reactions in homologous recombination and DNA repair (共著), 2015, *Nucleic Acids Res.*, 43, 973-986 / Functional analyses of the C terminal half of the *Saccharomyces cerevisiae* Rad52 protein (共著), 2014 *Nucleic Acids Res.*, 42, 941-951 / 出芽酵母Rad52の相同組換えにおける分子メカニズム (共著), 2014, *生化学*86巻, 693-697 / Vital roles of the second DNA binding site of Rad52 in yeast homologous recombination (共著), 2011, *J. Biol. Chem.*, 286, 17607-17617 / Heteroduplex Joint Formation by a Stoichiometric Complex of Rad51 and Rad52 of *Saccharomyces cerevisiae* (共著), 2005, *J. Biol. Chem.*, 280, 32218-32229.



生体分子科学分野

井上菜穂子 准教授 博士(医学)
Naoko Goto-Inoue

●主な学歴
筑波大学大学院バイオシステム研究科修士課程修了/博士(医学)取得;浜松医科大学

●研究テーマ

1. 骨格筋における脂質代謝
2. 質量分析イメージングによる代謝物動態解析

●学会および社会における活動等

2011年~現在 日本脂質生化学会 学会員
2018年~現在 日本栄養・食糧学会 学会員

●著書、学術論文等

Goto-Inoue N, Sato T, Morisasa M, Yamashita H, Maruyama T, Ikeda H, Sakai R. Mass Spectrometry Imaging reveals differential localization of natural sunscreens in the mantle of the giant clam *Tridacta crucea*. *Sci Rep.* 2020 Jan 20;10(1):656. / Goto-Inoue N, Sato T, Morisasa M, Igarashi Y, Mori T. Characterization of metabolite compositions in wild and farmed Red sea bream (*Pagrus major*) using mass spectrometry imaging. *J Agric Food Chem.* 2019 Jun 26;67(25):7197-7203. / Goto-Inoue N, Morisasa M, Machida K, Furuichi Y, Fujii NL, Miura S, Mori T. Characterization of myofiber type-specific molecules using mass spectrometry imaging. *Rapid Commun Mass Spectrom.* 2019 Jan 30;33(2):185-192.



生体分子科学分野

舩廣善和 准教授 博士(農学)
Yoshikazu Masuhiro

●主な学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. タンパク質の高発現を可能にするスタビロンモチーフの開発
2. 組換え体タンパク質による細胞機能/分化制御系の開発
3. 植物の花芽形成機構と進化に関する研究

●学会および社会における活動等

日本生化学会、日本農芸化学会、日本植物生理学会、日本レチノイド研究会

●著書、学術論文等

A designed cell-penetrating human SOCS2 protein suppresses GH-dependent cancer cell proliferation (共著), 2019, *Biosci Biotechnol Biochem.*, 83(2), 300-8. / TIPE2 Is a Novel Negative Regulator of TAK1 Signal (共著), 2016, *J Biol Chem.* 2016, 291(43), 22650-60. / Identification of significant regions of transcription factor DP-1 involved in stability/instability of the protein (共著), 2010, *Biochem Biophys Res Commun.*, 397(2), 345-9. / SOCS-3 inhibits E2F/DP-1 transcriptional activity and cell cycle progression via interaction with DP-1 (共著), 2008, *J Biol Chem.*, 283(46), 31575-83. / Splicing potentiation by growth factor signals via estrogen receptor phosphorylation (共著), 2005, *Proc Natl Acad Sci U S A.*, 102(23), 8126-31. / 目的別で選べる遺伝子導入プロトコル, 2012, 羊土社, 83-89.



細胞生物科学分野

内山 寛 教授 理学博士
Hiroshi Uchiyama

●主な学歴
広島大学大学院理学研究科博士課程後期植物学専攻修了

●研究テーマ

1. 植物染色体の分子細胞遺伝学的研究
2. 食虫植物の進化に関する分子生物学的研究
3. 植物のストレス応答に関する分子生物学的研究

●学会および社会における活動等

日本植物学会会員、染色体学会評議員、神奈川県植物誌調査会運営委員

●著書、学術論文等

Chromosome-level genome assembly of *Ophiorrhiza pumila* reveals the evolution of camptothecin biosynthesis (共著), 2021, *Nat. Commun.* 12: 405 / Traditional knowledge of wild edible plants with special emphasis on medicinal uses in Southern Shan State, Myanmar (共著), 2018, *J. Ethnobiol. Ethnomed.* 14: 48 / Draft genome assembly and annotation of *Glycyrrhiza uralensis*, a medicinal legume (共著), 2016, *Plant J.* 89: 181-194 / Expression of genes encoding transporters and enzyme proteins in response to low-pH and high-aluminum treatments in *Acacia mangium*, a stress-tolerant leguminous tree (共著), 2014, *Plant Biotechnol.* 31: 61-66. / Use of genomic in situ hybridization to identify chromosomes in gerbil-mouse *heterohybridomas* (共著), 2013, *Exp. Anim.* 62: 145-149 / 神奈川県植物誌2018(分担), 2018, 神奈川県植物誌調査会



細胞生物科学分野

加野浩一郎 教授 博士(農学)
Koichiro Kano

●主な学歴
神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 動物細胞の脱分化および多能性獲得機構に関する研究
2. 間葉系細胞の分化転換機構に関する研究
3. 組織再生機構に関する研究

●学会および社会における活動等

日本分子生物学会会員、The American Society for Cell Biology、日本細胞生物学会会員、日本発生生物学会会員、日本再生医療学会会員

●著書、学術論文等

Urethral injection of dedifferentiated fat cells ameliorates sphincter damage and voiding dysfunction in a rat model of persistence stress urinary incontinence, *International Urology and Nephrology*, 54(4): 789-797, 2022/ Transplantation of Mature Adipocyte-Derived Dedifferentiated Fat Cells Facilitates Periodontal Tissue Regeneration of Class II Furcation Defects in Miniature Pigs, *Materials*, 15(4): 1311, 2022/Effect of volatile fatty acids on adipocyte differentiation in bovine dedifferentiated fat (DFAT) cells in vitro, *Genes to Cells*, 27(1): 5-13, 2022/ Generation of metabolically functional hepatocyte-like cells from dedifferentiated fat cells by Foxa2, Hnf4a and Sall1 transduction, *Genes to Cells*, 25(12): 165-174, 2020/ Therapeutic potential of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells for inflammatory bowel disease, *Pediatr SurgInt*, 36(7): 799-807, 2020/ The insulin-PI3K-Rac1 axis contributes to terminal adipocyte differentiation through regulation of actin cytoskeleton dynamics, *Genes to Cells*, 25(3):165-174



細胞生物科学分野

沖 嘉尚 専任講師
Yoshinao Oki 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程単位取得満期退学

●研究テーマ

1. 哺乳類における分化細胞の脱分化および多能性獲得誘導因子の探索
2. 生体内における細胞の分化転換に関する研究

●学会および社会における活動等

日本細胞生物学会会員、日本畜産学会会員、日本分子生物学会会員、アメリカ細胞生物学会会員、日本癌学会会員

●著書、学術論文等

Small Buccal Fat Pad Cells Have High Osteogenic Differentiation Potential, *Tissue Eng Part C Methods*, 22(3): 250-259, 2016 / DAVID, PANTHER 実験で得られた遺伝子群の特徴を可視化, 「今日から使えるデータベース・ウェブツール 達人になるための実践ガイド100」(実験医学増刊), 32(20): 152-153, 羊土社, 2014 / ransplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells promotes locomotor functional recovery by remyelination and glial scar reduction after spinal cord injury in mice, *Biochem Biophys Res Commun*, 454(2): 341-346, 2014 / Regulation of MKL1 via actin cytoskeleton dynamics drives adipocyte differentiation, *Nature Commun*, 5: 3368, 2014 / Dedifferentiated follicular granulosa cells derived from pig ovary can transdifferentiate into osteoblasts, *Biochem J*, 447(2): 239-248, 2012 / Gene expression profiling in multipotent DFAT cells derived from mature adipocytes, *Biochem Biophys Res Commun*, 407(3): 562-567, 2011



細胞生物科学分野

茗名 充 准教授 博士(理学)
Mitsuru Tomana

●主な学歴
京都大学大学院理学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 脊椎動物における免疫システムの進化

●学会および社会における活動等

日本進化学会会員

●著書、学術論文等

Characterization of immunoglobulin light chain isotypes in the common carp (共著), 2002, *Immunogenetics* Vol.54, No.2, pp.120-129 / Characterisation of a fourth immunoglobulin light chain isotype in the common carp (共著), 2004, *Fish & Shellfish Immunology* Vol.16, No.3, pp.369-379 / Characterisation of T cell antigen receptor α chain isotypes in the common carp (共著), 2005, *Fish & Shellfish Immunology* Vol.19, No.3, pp.205-216 / An improved method for separation of leukocytes from peripheral blood of the little skate (*Leucoraja erinacea*) (共著), 2008, *Fish & Shellfish Immunology* Vol.25, No.1-2, pp.188-190 / Stem cells from cartilaginous and bony fish (共著), 2008, *Methods in Cell Biology* Vol.86, pp.343-367



細胞生物科学分野

土屋徳司 専任講師 博士(学術)
Tokuji Tsuchiya

●主な学歴
日本大学農獣医学部応用生物科学科卒業
千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 植物免疫記憶の分子メカニズム
2. 植物ゲノムのエピジェネティック制御機構

●学会および社会における活動等

日本植物生理学会会員、日本エピジェネティクス研究会会員

●著書、学術論文等

The Arabidopsis PHD-finger protein EDM2 has multiple roles in balancing NLR immune receptor gene expression (共著), 2020, *PLoS Genet*, 16, e1008993 / A novel Arabidopsis pathosystem reveals cooperation of multiple hormonal response-pathways in host resistance against the global crop destroyer *Macrophomina phaseolina* (共著), *Sci Rep*, 9, 20083 / The Arabidopsis RRM domain protein EDM3 mediates race-specific disease resistance by controlling H3K9me2-dependent alternative polyadenylation of *RPP7* immune receptor transcripts (共著), 2019, *Plant J*, 97, 646-660 / Aphid effector Me10 interacts with tomato TFT7, a 14-3-3 isoform involved in aphid resistance (共著), 2019, *New Phytol*, 221, 1518-1528 / An alternative polyadenylation mechanism coopted to the *Arabidopsis RPP7* gene through intronic retrotransposon domestication (共著), 2013, *Proc Natl Acad Sci USA*, 110, E3535-E3543



生体機能科学分野

鈴木美和 教授 博士(農学)
Miwa Suzuki

●主な学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生命科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 鯨類の浸透圧調節機構と腎機能に関する研究
2. 海生ほ乳類のストレス応答に関する生理学的研究
3. 鯨類の代謝に関する研究

●学会および社会における活動等

1996年～現在 日本水産学会学会員
1998年～現在 Society of Marine Mammalogy学会員

●著書、学術論文等

Antioxidative potency of dolphin serum albumin is stronger than that of human serum albumin irrespective of substitution of ³⁴cysteine with serine. *Front. Physiol.* 11: 598451, 2020/Plasma metabolomic analysis in mature female common bottlenose dolphins: profiling the characteristics of metabolites after overnight fasting by comparison with data in beagle dogs. *Sci. Rep.* 8: 12030, 2018/Evolution of the alternative AQP2 gene: Acquisition of a novel protein-coding sequence in dolphins. *Mol. Phylogen. Evol.* 118: 54-57, 2018/Two isoforms of aquaporin 2 responsive to hypertonic stress in the bottlenose dolphin. *J. Exp. Biol.* 219: 1249-1258 2016/Water balance. In: *Marine Mammal Physiology: Requisites for Ocean Living*. CRC Press, pp.139-168, 2015./Activation of systemic, but not local, renin-angiotensin system is associated with up-regulation of TNF- α during prolonged fasting in northern elephant seal pups. *J. Exp. Biol.* 216: 3215-3221, 2013.(すべて筆頭)他.



生体機能科学分野

高橋恭子 教授 博士(農学)
Kyoko Takahashi

●主な学歴
東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. 腸内細菌・食品成分による免疫・アレルギーの制御とその機構
2. 腸管上皮細胞と腸内細菌の共生機構

●学会および社会における活動等

日本食品免疫学会学術委員・幹事、腸内細菌学会編集委員・理事、日本農芸化学会英文誌編集委員・関東支部幹事

●著書、学術論文等

Post-translational suppression of the high affinity IgE receptor expression on mast cells by an intestinal bacterium. (共著) *Immunobiol.* 226:152056 (2021)/Age-dependent decrease in the induction of regulatory T cells is associated with decreased expression of RALDH2 in mesenteric lymph node dendritic cells. (共著) *Front. Immunol.* 11:1555 (2020)/Regulation of gene expression through gut microbiota-dependent DNA methylation in colonic epithelial cells. (共著) *Immunohorizons.* 4:178-190 (2020)/Commensal microbiota-induced microRNA modulates intestinal epithelial permeability through a small GTPase ARF4. (共著) *J. Biol. Chem.* 292:15426-15433 (2017)/ α -Defensin 5 gene expression is regulated by gut microbial metabolites. (共著) *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 81 : 242-248 (2017)



生体機能科学分野

関 泰一郎 教授 博士(農学)
Taiichiro Seki

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 栄養と生活習慣病に関する基礎研究
2. 血液の凝固・線溶の制御機構と生理機能に関する研究

●学会および社会における活動等

Executive Editor, *Molecular Nutrition and Food Research*
日本生理学会・評議員、日本農芸化学会・代議員
日本栄養食糧学会・理事、日本血栓止血学会・代議員

●著書、学術論文等

Macrophage potentiates the recovery of liver zonation and metabolic function after acute liver injury(共著), *Scientific Reports*, DOI : 10.1038/s41598-021-88989-9, 2021/The role of increased FGF21 in VLDL-TAG secretion and thermogenic gene expression in mice under protein malnutrition(共著), *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 85(5), 1104-1113, 2021/Fish oil suppresses obesity more potently in lean mice than in diet-induced obese mice but ameliorates steatosis in such obese mice(共著), *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 85(2), 421-429, 2021/Diallyl trisulfide inhibits platelet aggregation through the modification of sulfhydryl groups(共著), *J Agric Food Chem.*, 68(6), 1571-1578, 2020/Garlic oil suppresses high-fat diet induced obesity in rats through the upregulation of UCP-1 and the enhancement of energy expenditure. *Exp Ther Med.*, 19(2), 1536-1540, 2020.



生体機能科学分野

恒川直樹 教授 博士(農学)
Naoki Tsunekawa

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 生殖細胞の発生と分化に関する研究
2. 人と家畜の多面的関係に関する研究

●学会および社会における活動等

1994年～現在 日本獣医学会・獣医解剖分科会(監事)
2005年～現在 日本畜産学会(正会員)
2009年～現在 日本家禽学会(家禽学用語集編集委員)
2011年～現在 日本繁殖生物学会(正会員)
2009年～現在 生き物文化誌学会(常任理事・事務局長)
2018年～現在 ヒトと動物の関係学会(理事)

●著書、学術論文等

Photoperiod-independent testicular development in the model newt *Pleurodeles waltl*. (共著) *Dev Growth Differ* 63, 277-284, (2021)/Low retinoic acid levels mediate regionalization of the Sertoli valve in the terminal segment of mouse seminiferous tubules. (共著) *Sci Rep* 11, 1110 (2021)/Comparative morphological study of skeletal muscle weight among the red jungle fowl (*Gallus gallus*) and various fowl breeds (*Gallus domesticus*). (共著) *J Exp Zool B Mol Dev Evol*, (2021)/Anatomical and histological characteristics of the hepatobiliary system in adult Sox17 heterozygote mice. (共著) *Anat Rec* 303, 3096-3107, (2020)/獣医解剖・組織・発生学(分担)学窓社(2019)/獣医発生学(分担)学窓社(2019)/獣医組織学(分担)学窓社(2020)



生体機能科学分野

山室 裕 教授 博士(農学)
Yutaka Yamamuro

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 母子相互作用に関する神経行動学的研究
2. 新規神経疾患モデル動物の開発に関する研究
3. 中枢神経系の機能的発達に関する研究

●学会および社会における活動等

1995年～現在 Society for Neuroscience(米国神経科学会)会員
1998年～現在 Society for Experimental Biology and Medicine
(米国実験生物医学会)会員

●著書、学術論文等

Neurochemical and behavioral impact of C18 fatty acids in male mice post-weaning(共著), 2013, *Exp. Biol. Med.*, Vol. 239, pp. 658-667/Histone deacetylase 9 as a negative regulator for choline acetyltransferase gene in NG108-15 neuronal cells(共著), 2012, *Neuroscience*, Vol. 205, pp. 63-72/Genotype-dependent participation of coat color gene loci in the behavioral traits of laboratory mice(共著), 2011, *Behav. Process.*, Vol. 88, pp. 81-87/Involvement of histone acetylation in the regulation of choline acetyltransferase gene in NG108-15 neuronal cells(共著), 2010, *Neurochem. Int.*, Vol. 56, pp. 627-633/Maternal environment alters social interactive traits but not open-field behavior in Fischer 344 rats(単著), 2008, *Exp. Anim.*, Vol. 57, pp. 439-446



生体機能科学分野

細野 崇 准教授 博士(生物資源科学)
Takashi Hosono

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 食品成分を用いた生活習慣病の予防に関する研究
2. 生活習慣病の発症メカニズムに関する基礎研究

●学会および社会における活動等

2002年～現在 日本農芸化学会会員
2002年～現在 日本栄養・食糧学会会員
2010年～現在 日本フードファクター学会会員
2010年～現在 日本血栓止血学会会員

●著書、学術論文等

The garlic-derived organosulfur compound diallyl trisulphide suppresses tissue factor function. *Food Funct.* (共著) 2022, 13, 1246-1255./Diallyl Trisulfide Prevents Obesity and Decreases miRNA-335 Expression in Adipose Tissue in a Diet-Induced Obesity Rat Model. *Mol Nutr Food Res.* (共著) 2021, e2001199./Fish oil suppresses obesity more potently in lean mice than in diet-induced obese mice but ameliorates steatosis in such obese mice. *Biosci Biotechnol Biochem.* (共著) 2021, 85(2), 421-429./Diallyl Trisulfide Inhibits Platelet Aggregation through the Modification of Sulfhydryl Groups. *J Agric Food Chem.* (共著) 2020, 68(6), 1571-1578./The regulation of glucose and lipid homeostasis via PLTP as a mediator of BAT-liver communication. *EMBO Rep.* (共著) 2020, 21(9), e49828.



生体機能科学分野

相澤 修 専任講師 博士(生物資源科学)
Shu Aizawa

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 哺乳動物における細胞内分解系に関する研究
2. 母乳に由来する生理活性物質に関する研究

●学会および社会における活動等

日本神経科学学会会員
日本畜産学会会員・若手企画委員会委員

●著書、学術論文等

Possible involvement of DNA methylation in hippocampal *synaptophysin* gene expression during postnatal development of mice(共著) *Neurochem. Int.*, 132:104587, 2020. Lactoferrin promotes autophagy via AMP-activated protein kinase activation through low-density lipoprotein receptor-related protein 1(共著) *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 493:509-513, 2017. Transgenic monkey model of the polyglutamine diseases recapitulating progressive neurological symptoms(共著) *eNeuro*, 4(2) ENEURO.0250-16.2017, 2017. Lysosomal membrane protein SIDT2 mediates the direct uptake of DNA by lysosomes(共著) *Autophagy*, 13:218-222, 2017. Lysosomal putative RNA transporter SIDT2 mediates direct uptake of RNA by lysosomes(共著) *Autophagy*, 12:565-578, 2016. Valproate administration to mice increases hippocampal p21 expression by altering genomic DNA methylation(共著) *Neuroreport*, 26:915-920, 2015.



生体機能科学分野

園田 豊 専任講師 博士(農学)
Yutaka Sonoda

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 家禽の生殖機能に関する研究

●学会および社会における活動等

1985年～現在 日本家禽学会会員
1993年～現在 日本畜産学会会員

●著書、学術論文等

Follicular transformation in hen's ovary after the administration of aminoglutethimide(共著), 1998, *Jpn. Poult. Sci.*, 35, 329-336/Egg laying and ovarian follicular growth in Japanese quail under continuous lighting(共著), 1997, *Jpn. Poult. Sci.*, 34, 308-317/Rapid growth of the ovarian follicle in relation to age and laying performance in Japanese quail(共著), 1996, *Jpn. Poult. Sci.*, 33, 170-177



生体機能科学分野

中西祐輔 専任講師
Yusuke Nakanishi 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 腫瘍微小環境の制御を介したがん免疫療法の開発
2. がん細胞の上皮間葉形質転換に関する基礎研究

●学会および社会における活動等

2008年～2009年 アメリカ免疫学会
2013年～現在 日本免疫学会
2015年～現在 マクロファージ研究会

●著書、学術論文等

Post-translational suppression of the high affinity IgE receptor expression on mast cells by an intestinal bacterium. (共著)2021. *Immunobiology*. 23:226(2), 152056. / IRF2 maintains the stemness of colonic stem cells by limiting physiological stress from interferon. (共著)2020. *Sci Rep*. 8;10(1):14639. / IFN- γ -dependent epigenetic regulation instructs colitogenic monocyte/macrophage lineage differentiation in vivo. (共著)2018. *Mucosal Immunology*. 11(3), 871-880. / Commensal gram-positive bacteria initiates colitis by inducing monocyte/macrophage mobilization. (共著)2018. *Mucosal Immunology*. 8(1), 152-160. / CD8+ T lymphocyte mobilization to virus-infected tissue requires CD4+ T-cell help. (共著)2009. *Nature*. 462(7272), 510-513.



分子生態科学分野

上田賢志 教授 博士 (農学)
Kenji Ueda

●主な学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 微生物の共生相互作用のメカニズム
2. 有用微生物とその機能の探索・利用

●学会および社会における活動等

日本微生物学連盟理事、日本農芸化学会理事、日本放線菌学会会員、一般財団法人バイオインダストリー協会発酵と代謝研究会幹事、Applied Microbiology and Biotechnology編集委員

●著書、学術論文等

Invisible Interactions Between Microorganisms. *In Microbes: The Foundation Stone of the Biosphere* (Ed. C. Hurst 2021) Springer / GABA enzymatic assay kit. *Biosci Biotechnol Biochem* (2019)84:118-125 / Antibiotics in microbial coculture. *J Antibiot*(2017)70:361-365 / Streptomyces metabolites in divergent microbial interactions. *J Ind Microbiol Biotechnol* (2016) 43:143-148. / Amide-transforming activity of *Streptomyces*: possible application to the formation of hydroxy amides and aminoalcohols. *Appl Microbiol Biotechnol* (2013) 97:6223-6230. / Divergent effects of desferrioxamine on bacterial growth and characteristics. *J Antibiot* (2013) 66:199-203 / Dispensabilities of carbonic anhydrase in proteobacteria. *Int J Evol Biol* (2012) 2012:324549.



分子生態科学分野

岩淵 範之 准教授 博士 (農学)
Noriyuki Iwabuchi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科応用生物科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 複合微生物系のデザイン化技術の開発と石油汚染環境の浄化への応用
2. 高度有機溶媒耐性菌の有機溶媒耐性機構の解明と次世代バイオプロセスへの応用
3. 有用微生物群の探索と次世代バイオエネルギー、物質生産への応用

●学会および社会における活動等

日本農芸化学会、日本微生物生態学会 (バイオフィルム研究部会・部会長)

●著書、学術論文等

Iwabuchi N. *et al.* Development of a Simple, Non-Biological Method for Converting Lignin-Derived Aromatics into Non-Aromatic Polymeric Substances with Fluorescent Activity (NAPSFA). *ACS Sustainable Chemistry & Engineering*, 4(8): 4411-4416, 2016. / Takihara H, Iwabuchi N. *et al.* Mg²⁺-dependent control of the spatial arrangement of *Rhodococcus erythropolis* PR4 cells in aqueous-alkane two phase culture containing *n*-dodecane. *Microbes and Environments*, 31(2): 178-181, 2016. / Iwabuchi N., *et al.* Transformation of lignin-derived aromatics into non-aromatic polymeric substances with fluorescent activities (NAPSFA) by *Pseudomonas* sp. ITH-SA-1, *ACS Sustainable Chem. Eng.*, 3:2678-2685, 2015.



分子生態科学分野

高野英晃 准教授 博士 (生物資源科学)
Hideaki Takano

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命工学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 微生物のストレス応答制御に関する分子遺伝学的な研究
2. 放線菌の形態分化と二次代謝産物生産の分子機構に関する研究
3. 微生物の有用機能の探索とその応用的利用に関する研究

●学会および社会における活動等

日本放線菌学会会員、日本農芸化学会会員、日本ゲノム微生物学会会員、米国微生物学会会員

●著書、学術論文等

Distribution and genome structures of temperate phages in acetic acid bacteria (共著), 2021, *Scientific Reports*, 11:21567 / Light-response of *Pseudomonas putida* KT2440 mediated by class II LitR, a photosensor homolog (共著), 2020, *J. Bacteriol*, 202:20 / ビタミンB12を利用する光センサータンパク質～細菌カロテノイド研究からの発見～ (単著), 2020, 化学と生物, 58:89-96 / Light-inducible carotenoid production controlled by a MarR-type regulator in *Corynebacterium glutamicum* (共著), 2019, *Scientific Reports*, 9:13136 / Role and Function of Class III LitR, a Photosensor Homolog from *Burkholderia multivorans* (共著), 2018, *J. Bacteriol*, 200:1-18.



分子生態科学分野

相澤 朋子 専任講師
Tomoko Aizawa 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 問題環境に適応する生物の環境適応機構に関する研究
2. 有用微生物群の探索と機能解析および系統分類に関する研究

●学会および社会における活動等

日本農芸化学会会員、日本微生物資源学会会員、日本微生物生態学会会員、日本放線菌学会会員

●著書、学術論文等

Structural analysis of an aluminum-binding capsular polysaccharide produced by *Acidocella aluminidurans* strain AL46, an aluminum-tolerant bacterium isolated from plant roots in a highly acidic swamp in actual acid sulfate soil. (共著), 2020, *Carbohydrate Research*, 498 / Evasion of Innate Immune Responses by the Highly Virulent *Cryptococcus gattii* by Altering Capsule Glucuronoxylomannan Structure. (共著), 2016, *Front. Cell. Infect. Microbiol.* 5(101) / An anionic polymer incorporating low amounts of hydrophobic residues is a multifunctional surfactant. Part 1: Thickening, emulsifying, moisture-absorption and moisture-retention abilities of a fatty acid-containing anionic polysaccharide. (共著), 2015, *Adv. Chem. Engineer. Sci.* / An anionic polymer incorporating low amounts of hydrophobic residues is a multifunctional surfactant. Part 2: emulsification, moisture absorption, and moisture retention of alkyl esterified poly- γ glutamic acid. (共著), 2015, *Adv. Chem. Engineer. Sci.*

非常勤講師

原田英美子

生物環境科学専攻

生物資源の持続的・安定的活用のために、
生物の多様性に配慮し、
すべての生物との共存のあり方と
環境の保全技術の開発を目指します。

環境構成要素の自然的側面（地圏、水圏、気圏、生物圏）と人為的側面（土地利用、環境操作）の関係を分析科学、計画学、応用技術科学等の視点から広く捉えます。その対象は環境ストレスから建築・都市・農村、そしてグローバルな地球環境レベルにまでおよび、科学的なデータ・情報の解析を通してそのあるべき姿を総合的に考究します。すなわち、ストレス耐性科学、環境計画学、環境創造保全学、環境情報科学の各分野から構成される生物環境科学にかかわる講義・演習を通して、生物資源の持続的・安定的活用のための基礎ならびに応用研究の手法・技術を指導し、生物との共存ならびに環境保全に関する優れた研究能力と高度の専門技術を備えた人材を育成します。

ストレス耐性科学分野

博士前期課程／環境ストレスに対する生物の適応能や耐性機構等の解析、劣化した自然環境の再生・回復のための適応生物や耐性生物の選抜・利用に関する分野です。特に生物に対する環境ストレスの影響について、生理・生化学、及び分子生物学等の立場から解析して、それを生物による環境修復に活かすための講義と研究指導を行います。

博士後期課程／環境ストレスに対する生物の生理反応、形態的特性、耐性遺伝子などストレス耐性生物や生物による環境修復等に関する最新の知見を講義します。また、フィールドサイエンス研究における方法論を「現場」と「実験室」から議論し、研究方法の指導を行います。

環境創造保全学分野

博士前期課程／環境構成要素の機能解析、生態系を考慮した環境の創造・保全の分野です。特に大気、土、水、生物で構成される環境の修復・再生・創造や、生態学的視点からの資源管理の理論と手法を講義し、現地での調査・研究を通じて、調査・解析手法、計画・設計手法も指導します。

博士後期課程／より広い視野での「環境創造保全」についての講義と研究指導を行います。具体的には、地球規模レベルから身近な局所レベルまでの環境の復元・保全・創造や、資源管理の新しいあり方について講義・討論し、また環境要素の測定・分析手法、環境の計画設計手法、設備管理手法の修得と開発の指導も行います。

環境計画学分野

博士前期課程／人間を含めた生物の共存・共生のための環境計画の分野です。具体的には建築・都市・農村などの地域環境、緑地環境の保全・復元・創出のための計画理論・手法や、管理の技術論、計画・管理の制度論を講義し、さらに現地での調査・研究を通して、調査・解析手法、エコロジカルな計画デザイン手法についても指導します。

博士後期課程／博士前期課程よりさらに高度な環境計画学について講義と研究指導を行います。特に国土土地利用計画や地域環境計画にかかわった自然的、文化的、社会的視野の情報を活用して、地域環境や緑地環境の計画手法を講義し、さらに、多角的な調査、研究を通じて問題解決策の策定ができるように指導します。

環境情報科学分野

博士前期課程／地域・国土及び地球規模の大気、土壌、水、生物等に関する資源情報や生態系の保全情報の人手、解析、有効利用等、及び環境変化予測の分野です。自然環境情報、気象情報、生態系変化の情報などの解析手法とその結果を環境の保全管理へ応用する手法を講義し解析手法を指導します。また、環境変化に関する種々のパラメーターの計測手法、環境変化の予測手法とその開発のあり方を講義し、それらの手法の指導も行います。

博士後期課程／環境資源と、その保全に関するデータ・情報の計測・調査・集積・数理解析・変化予測等について、内外の最新研究動向を講義します。また、これらにかかわる具体的なデータ・情報を用いて、解析と変化予測の実際の指導も行います。

授 業 科 目 一 覧

博士前期課程				
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
生物資源科学特論Ⅰ	4	4		左記のうちから、必修科目を含め30単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
生物資源科学特論Ⅱ	4		4	
ストレス耐性科学分野				
環境ストレス生理学特講	2		2	
環境修復生物学特講	2		2	
環境ストレス生理学演習	1		1	
環境修復生物学演習	1		1	
環境計画学分野				
緑地環境計画学特講	2		2	
地域環境計画学特講	2		2	
緑地環境計画学演習	1		1	
地域環境計画学演習	1		1	
環境創造保全学分野				
環境創造学特講	2		2	
環境生態学特講	2		2	
環境創造学演習	1		1	
環境生態学演習	1		1	
環境情報科学分野				
環境資源情報学特講	2		2	
環境保全情報学特講	2		2	
環境資源情報学演習	1		1	
環境保全情報学演習	1		1	
生物環境科学特別講義Ⅰ	4	4		
生物環境科学特別研究Ⅰ	10	10		
学位論文				

博士後期課程				
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
ストレス耐性科学分野				左記のうちから、必修科目を含め17単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。
ストレス耐性科学特講	2		2	
ストレス耐性科学演習	1		1	
環境計画学分野				
環境計画学特講	2		2	
環境計画学演習	1		1	
環境創造保全学分野				
環境創造保全学特講	2		2	
環境創造保全学演習	1		1	
環境情報科学分野				
環境情報科学特講	2		2	
環境情報科学演習	1		1	
生物環境科学特別講義Ⅱ	4	4		
生物環境科学特別研究Ⅱ	10	10		
学位論文				

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください



ストレス耐性科学分野

新町文絵 教授 博士（農学）
Fumie Shinmachi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 植物の重金属耐性機構の生理・生化学的解析
2. 強酸性耐性植物における硫黄代謝活性と耐性能の関係

●学会および社会における活動等

1990年～現在 社団法人日本土壌肥科学会会員
1991年～現在 日本植物細胞分子生物学会会員
1994年～現在 日本植物生理学会会員
2005年～2007年 学術雑誌編集委員

●著書、学術論文等

Influence of sulfur deficiency on the expression of specific sulfate transporters and the distribution of sulfur, selenium, and molybdenum in wheat (共著), 2010, *Plant Physiology*, vol.153(1), /Cd accumulation from Cd contaminated soil by the Cd-tolerant plant *Polygonum thunbergii* (共著), 2005, *Plant Nutrition for Food Security, Human Health and Environmental Protection*, pp.688-689 / Translocation and accumulation of cadmium in cadmium-tolerant *Polygonum thunbergii* (共著), 2003, *Soil Science and Plant Nutrition*, vol.49(3), pp.355-361 / Stem-specific cadmium accumulation in cadmium-tolerant *Polygonum thunbergii* (共著), 2003, *Soil Science and Plant Nutrition*, vol.49(3), pp.363-368



ストレス耐性科学分野

野口 章 教授 農学博士
Akira Noguchi

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻修了

●研究テーマ

1. 環境変化に対する植物の生育応答と体内成分の挙動解析ならびに環境修復へのその利用
2. 緑肥や雑草の有効利用

●学会および社会における活動等

1995, 1997, 2000年 国際協力事業団専門家
2003年～2004年 ミュンヘン工科大学客員研究員
2006年～2014年 日本土壌肥科学会理事
2011年～現在 (独)農林水産消費安全技術センター業務運営懇談会委員・肥料等技術検討会委員
2016年～現在 日本土壌肥科学会代議員

●著書、学術論文等

玄米のカドミウム含有率低減に対するけい酸加里肥料施用の有効性と限界, *生物資源科学*, 30, 7-14, 2021 / Exudation of fumarate from roots contributes to high aluminum resistance in *Melaleuca cajuputi*. *Plant Root*, 9, 15-23, 2015 / Aluminum could be transported via phloem in *Camellia oleifera* Abel. *Tree Physiology*, 33, 96-105, 2012 / Aluminium tolerance in rice is antagonistic with nitrate preference and synergistic with ammonium preference. *Annals of Botany*, 111, 69-77, 2012 / The soils of Japan, pp.245-272, 2021, Springer / 農学・バイオ系英語論文ライティング, pp.97-106, 2015, 朝倉書店 / 土の百科事典, pp.334-337, 2014, 丸善



ストレス耐性科学分野

伊藤 紘子 准教授 博士（農学）
Hiroko Ito

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻修了

●研究テーマ

1. 植物-土壌微生物間の相互作用に関する研究
2. 食資源植物の探索および高栄養性・高機能性成分の制御に関する生理・生化学的解析

●学会および社会における活動等

2000年 4月～現在 日本土壌肥科学会会員
2008年 4月～現在 日本植物生理学会会員
2015年 4月～現在 日本農芸化学会会員

●著書、学術論文等

Effects of rhizosphere sulfur concentration on sulfur content and sulfate transporter gene expression in Japanese heirloom vegetables of the Brassicaceae family, *Soil Science and Plant Nutrition*, 66, 854-863, 2020 / 草本バイオマスのエネルギー転化利用技術の開発 ～イナワラの高効率糖化酵素としてのイナゴ腸内酵素の探索～, *化学と生物*, 58, 505-510, 2020 / The rhizobial autotransporter determines the symbiotic nitrogen fixation activity of *Lotus japonicus* in a host-specific manner, *Proceedings of National Academy of Sciences of the United States of America*, 117, 1806-1815, 2020 / Loss-of-function of ASPARTIC PEPTIDASE NODULE-INDUCED 1 (APN1) in *Lotus japonicus* restricts efficient nitrogen-fixing symbiosis with specific *Mesorhizobium loti* strains, *The Plant Journal*, 93, 5-16, 2018 / 土のひみつ 食料・環境・生命, 168-169, 2015, 朝倉書店



環境計画学分野

大澤啓志 教授 博士（農学）
Satoshi Osawa

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 農村ランドスケープにおける生物多様性保全
2. 自然共生都市の形成に向けた緑地計画論
3. 生態工学による自然環境修復

●学会および社会における活動等

1997年～現在 日本爬虫両棲類学会会員
1997年～現在 日本造園学会会員
1999年～現在 日本緑化工学会会員
2000年～現在 農村計画学会会員

●著書、学術論文等

文化的な生物資源利用による農村ランドスケープの生成と変容 (共著), 2022, 農林統計出版, 123pp. / 絶滅危惧種の生態工学 (共著), 2019, 地人書館, 143-152 / 田んぼの生き物わくわく探検 (監修), 2015, PHP研究所, 63pp. / 造園工事総合示方書 (共著), 2015, 経済調査会, 170-175 / 棚田学入門 (共著), 2014, 勁草書房, 71-86 / 農村計画学 (共著), 2012, 朝倉書店, 64-69 / 津波攪乱跡地におけるカワラナデシコの実生及び開花個体の消長, *日本緑化工学会誌* 46(2):218-225, 2020 (共著) / 埼玉県加須市「浮野の里」における景観資源としてのノウルシの分布及び生育立地特性の評価, *農村計画学会誌* 39(4), 320-327, 2020 (単著) / 栃木県那珂川町小砂地区の農村集落景観の特徴と審美的原理, *ランドスケープ研究* 82(5):605-610, 2019 (共著) / 都市型ピオトープ池での硝酸イオン吸着型水質浄化装置による水生昆虫相への影響, *日本緑化工学会誌* 44(1):87-92, 2018 (共著)



環境計画学分野

栗原伸治 教授 博士(学術)
Shinji Kurihara

●主な学歴
総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学
専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. アジアの居住環境・居住文化
2. 空間表象・文化表象
3. 空間構成・空間認識

●学会および社会における活動等

2018年～2022年 日本建築学会建築計画委員会幹事
2016年～現在 日本建築学会建築計画委員会比較居住文化小委員会幹事
2016年～現在 農村計画学会評議員
2013年～現在 日本都市計画学会会員
2007年～現在 日本文化人類学会会員

●著書、学術論文等

アジアへの視線(単著)、2018.12、日本建築学会(編)『建築フィールドワークの系譜—先駆的研究室の方法論を探る』、昭和堂、pp.104-111 / メガシティ5 スプロール化するメガシティ(村松伸・村上暁信・林憲吾との共編著)、2017. 6、東京大学出版会 / The Notion and Awareness of Chinoiserie in Present-day Japan(単著)、2017.3、農村計画学会誌35巻4号、pp.546-549 / 建築人類学2.1—中国黄土高原における窯洞の住居観・建築観をもとにした一考察(単著)、2016.3、物質文化:考古学民俗学研究96号、pp.3-15 / 中国映画「胡同のひまわり」から読む四合院住居の中庭空間表象とその意味の変遷(単著)、2015.6、日本建築学会技術報告集第48号、pp.725-730 / 黄土高原の村庄—声音・空間・社会(深尾葉子・井口淳子との共著)(中国語)、林埼・朱家駿(訳)、2007.2、民族出版社 北京



環境計画学分野

小谷幸司 教授 博士(学術)
Koji Kotani

●主な学歴
千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程
修了

●研究テーマ

1. 食品・農業を中心とした地域産業振興
(ブランド化、産地形成等)に関する研究
2. 公園緑地の利用促進に関する研究

●学会および社会における活動等

2015年～現在 一般社団法人環境情報科学センター理事
2015年～現在 大磯町都市計画審議会副会長
2015年～現在 茅ヶ崎市みどり審議会副会長
2018年～現在 農林水産省「6次産業化プランナーによる活動支援の実施に係る検証委員会」委員長
2018年～現在 農林水産省「農業教育機関の指導者や学生等に対する研修等検討委員会」委員
2020年～2022年 大磯町新庁舎整備基本構想等検討委員会委員長

●著書、学術論文等

動物園における飲食サービスの実態と課題(共著)2020.環境情報科学学術研究論文集34.293-298 / よこはま動物園のアフリカのサバンナにおける来園者満足度に基づく管理運営方策の検討(共著)2017.ランドスケープ研究80(5) 479-482 / 休閒・福祉農業の現状と農地保全に係る今後の展開(共著)2017、龍溪書舎 / 「人づくり」を基盤とした地域連携による食農産業振興の方向性—沖縄県事業にみる地方創生の展望(単著)2017、環境情報科学45(4):70-78 / 農業法人における障がい者就労の現状と課題(共著)2016、人間・植物関係学会誌16(1):23-28 / 三多摩地域における植木産業の現状と振興に関する基礎的研究(共著)2016、ランドスケープ研究79(5):623-626



環境計画学分野

堀江 亨 教授 博士(工学)
Toru Horie

●主な学歴
東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修
士課程修了

●研究テーマ

1. 木造住宅の架構法に関する研究
2. 日本の伝統的民家の再生・利活用に関する研究
3. 伝統木造用語に関する比較研究

●学会および社会における活動等

2008年4月～2012年3月 日本建築学会木造建築構法小委員会・主査
2012年4月～現在 日本建築学会木造建築構法小委員会・幹事
2003年5月～現在 特定非営利活動法人・木の建築フォーラム理事

●著書、学術論文等

日本の建築文化事典(共著)、2020.1、丸善、「柱・梁」および「小屋」(p.60-63) / 日本とイギリスの民家における小屋組の架構法と用語法 伝統木造用語に関する比較研究 その3(共著)、2018.10、日本建築学会計画系論文集、第83巻、第752号、pp.1919-1928 / 指物の配置と荷受けからみた民家の軸組類型、指物(指付け技法)の変遷過程と歴史的木造架構の類型化に関する研究 その1(共著)、2016.8、日本建築学会計画系論文集、第81巻 第726号、pp. 1665-1674 / 壁面と天井面の変化からみた民家再生作品の内部空間の特徴に関する研究(共著)、2015.3、日本建築学会計画系論文集、第80巻、第709号、pp.569-578 / 日本民家の梁組における部材名称の多様性と標準化 伝統木造用語に関する比較研究 その1(単著)、2014.9、日本建築学会計画系論文集、第79巻、第703号、pp.1903-1912 / 改訂版 建築計画を学ぶ、(共著)、2013.4、理工図書、pp.175-182



環境計画学分野

藤沢直樹 専任講師
Naoki Fujisawa 博士(生物資源科学)

●主な学歴
日本大学農獣医学部農業工学科卒業
日本大学大学院生物資源科学研究科生物環境科学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 都市・農村における住民参加型での環境管理計画
2. 循環型社会構築のための計画策定における参加のデザイン手法

●学会および社会における活動等

1996年4月～現在 農村計画学会 正会員
1997年4月～現在 (社)日本建築学会 正会員
1999年4月～現在 (社)日本建築学会関東支部 農村建築専門委員会

●著書、学術論文等

実践事例にみる ひと・まちづくり グローカル・コミュニティの時代(共著)、ミネルヴァ書房、2013 / 丹沢の自然再生(共著)、(株)日本林業調査会、2012 / 農村計画学(共著)、2012、朝倉書店、3.11後の建築・まち われわれは明日どこに住むか、2011、彰国社 / 食品循環資源最適利用マニュアル(共著)、サイエンスフォーラム、2006.7 / 神奈川県公立小学校における環境教育の実態と丹沢大山地域の活用化へのニーズ把握、藤沢直樹・糸長浩司、環境情報科学論文集第21号、pp.183-188、2007.11 / 旧村を単位とした住民参画による土地利用計画策定に係る考察、藤沢直樹・糸長浩司、環境情報科学論文集 第19号、pp.199-203、2005.11 / GISを使用した土地利用の適正分析—長野県飯田市座光寺を事例として—、藤沢直樹・糸長浩司、農村計画学会論文集 第4集、pp.241-246、2002.11、他



環境計画学分野

三谷 奈保 専任講師 博士 (理学)
Naho Mitani

●主な学歴
九州大学比較社会文化学府博士課程修了

●研究テーマ

1. 外来種を含む野生動物の生態や対策手法に関する研究
2. 希少種の減少要因解明に関する研究

●学会および社会における活動等

2014年～現在 松田町有害鳥獣捕獲員
2015年～現在 神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員
2017年～現在 神奈川県鳥獣総合対策協議会委員
2017年～現在 神奈川県自然環境保全審議会委員

●著書、学術論文等

Tree species preference of the green anole (*Anolis carolinensis*) regarding perch selection (共著), 2020, *Current Herpetology*, 39, 137-146. / 神奈川県の特産者の新人育成に関する意識 (共著), 2018, 野生生物と社会, 6, 31-37 / Feasibility of bait attraction in the green anole (*Anolis carolinensis*) (共著), 2015, *Current Herpetology*, 34, 164-171 / 奄美大島のマンガース対策に導入された探索犬の評価 (共著), 2014, 野生生物と社会, 2, 11-22 / Clues to the cause of the Tsushima leopard cat (*Prionailurus bengalensis euptilura*) decline from isotopic measurements in three species of Carnivora (共著), 2009, *Ecological research* 24, 897-908 / 対馬におけるヌマガエルの分布拡大および在来カエル類との関係 (共著), 2009, 長崎県生物学会誌, 66, 17-22



環境創造保全学分野

安倍 弘 教授 博士 (理学)
Hiroshi Abe

●主な学歴
北海道大学大学院環境科学研究科博士課程単位取得退学

●研究テーマ

1. 海産ダニ類の系統と進化
2. 水生ダニ類の分類と生態
3. クモ類の生活史特性の進化

●学会および社会における活動等

1997年～2002年 日本蜘蛛学会編集委員
2004年～2006年 日本ダニ学会編集委員、日本動物分類学会編集委員
2007年～2009年 日本ダニ学会評議員、日本蜘蛛学会編集委員
2010年～現在 日本ダニ学会評議員、日本ダニ学会編集委員
2018年～現在 日本蜘蛛学会編集委員

●著書、学術論文等

ダニのはなし (共著), 2016, 朝倉書店, 全180p / 水棲半翅類の生物学 (共著), 2018, 北隆館, 全313p / Parasitism of water mites (Acari: Hydrachnidia) on caddisflies (Insecta: Trichoptera) in Hokkaido, Niigata, and Yamanashi Prefectures in Japan (共著), 2021, Journal of the Acarological Society of Japan, 30, 31-39 / Invertebrates found on floating *Sargassum horneri* (Fucales, Sargassaceae) under the Kuroshio Current in the Pacific Ocean (共著), 2021, Marine Biology Research, 17, 260-271 / Taxonomic review of the subfamily Lohmannellinae (Acari: Trombidiformes: Halacaridae) with morphological comparisons among genera (単著), 2021, *Zootaxa*, 4980, 201-255 / ウシオダニ類の分類と系統 (単著), 2021, 海洋と生物 43, 32-37.



環境創造保全学分野

荒 功一 教授 Ph. D (理学)
Koichi Ara

●主な学歴
ブラジル連邦共和国・サンパウロ大学大学院海洋学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 相模湾の物理・化学特性の季節・短期変動の解明
2. 相模湾沿岸域におけるプランクトン生態系食物網構造と栄養動態の解明

●学会および社会における活動等

2014年4月～現在 沿岸海洋研究 編集委員
2015年2月～現在 Plankton and Benthos Research 編集委員
2016年4月～現在 文部科学省科学技術予測センター専門調査員
2017年2月～2021年3月 日本プランクトン学会報 編集委員
2021年4月～現在 日本プランクトン学会 評議員

●著書、学術論文等

Seasonal variability in phytoplankton carbon biomass and primary production, and their contribution to particulate carbon in the neritic area of Sagami Bay, Japan, 2019, Plankton and Benthos Research Vol.14, p.224-250 / Deep-sea whale fall fauna from the Atlantic resembles that of the Pacific Ocean, 2016, Scientific Reports Vol.6:22139, p.1-9 / 夜光虫 *Noctiluca scintillans* の動態—水質環境ならびに海洋生態系における役割 有毒有害赤潮プランクトンの科学, 2016, 恒星社厚生閣, p.201-209 / Seasonal variability of the red-tide forming heterotrophic dinoflagellate *Noctiluca scintillans* in the neritic area of Sagami Bay, Japan: its role in the nutrient- environment and aquatic ecosystem, 2013, Plankton and Benthos Research Vol.8, p.9-30



環境創造保全学分野

上田 眞吾 教授 博士 (農学)
Shingo Ueda

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 生物地球化学的要素循環に与える人間活動の影響評価
2. 軽元素安定同位体比測定技術の環境生態学への適用

●学会および社会における活動等

2000年～2003年 日本陸水学会庶務幹事
2004年～2007年 日本陸水学会評議員
1997年～現在 日本BICER協議会会員
2004年～現在 日本地球化学会会員

●著書、学術論文等

Nitrogen stable isotope ratio of groundwater N₂O (共著) 1991, Geophys. Res. Lett. / Accumulation of nitrous oxide in aerobic groundwaters (共著) 1993, Wat. Res. / Dynamics of dissolved O₂, CO₂, CH₄, and N₂O in a tropical coastal swamp in southern Thailand (共著) 2000, Biogeochemistry / Denitrification in a seashore sandy deposit influenced by groundwater discharge (共著) 2003, Biogeochemistry / Isotopic assessment of CO₂ production through soil organic matter decomposition in the tropics (共著) 2005, Nutr. Cycl. Agroecosyst. / The chloroplast avoidance response decreases CO₂ transfer conductance in *Arabidopsis thaliana* (共著), 2008, Plant, Cell and Environment



環境創造保全学分野

江頭 港 教授 博士(工学)
Minato Egashira

●主な学歴
九州大学大学院総合理工学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. エネルギー貯蔵デバイスでの電気化学反応に関する研究
2. 鉄が関与する電気化学過程に関する研究

●学会および社会における活動等

1994年～現在 日本化学会会員
1998年～現在 電気化学会会員
2002年～現在 米国電気化学会会員

●著書、学術論文等

Materials for Electrochemical Capacitors (共著) (2016), Springer Handbook of Electrochemical Energy, pp. 495-562./ Ionic Liquid for Supercapacitors (2014), Encyclopedia of Applied Electrochemistry, pp. 1112-1116./ Determining water content in activated carbon for double-layer capacitor electrodes (共著) (2016) Journal of Power Sources, 326: pp. 635-640./ Factors Influencing Iron Utilization on Iron Compound/Carbon Nanofiber Composite Electrode (共著) (2015) Electrochemistry, 83: pp. 984-988./ Lithium ion conduction in ionic liquid-based gel polymer electrolyte (共著) (2008) Journal of Power Sources, 178: pp. 729-735.



環境創造保全学分野

斉藤 丈士 教授 博士(工学)
Takeshi Saito

●主な学歴
日本大学生産工学部管理工学科卒業/千葉工業大学大学院工学研究科博士後期課程満期退学

●研究テーマ

1. スラグ骨材のコンクリートへの利用に関する研究
2. 施工性を考慮した高強度コンクリートの配合と製造方法に関する研究

●学会および社会における活動等

1997年～現在 日本建築学会会員
1999年～現在 日本コンクリート工学会会員
2002年～現在 廃棄物資源循環学会会員
2014年～現在 農業農村工学会会員
2005年～現在 日本建築学会関東支部「材料施工専門研究委員会」委員
2005年～2007年 日本コンクリート工学協会「コンクリート試験方法JIS原案作成委員会」委員
2005年～現在 中央職業能力開発協会「中央技能検定委員会(コンクリート圧送施工)」委員
2009年～2012年 日本コンクリート工学会「残コン・戻りコンの発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会」委員
2015年～2017年 日本コンクリート工学会「構造物の耐久性向上のためのプリーディング制御に関する研究委員会」委員

●著書、学術論文等

コンクリート技術達人への道～入門編～(共著),セメントジャーナル社,2009/生コン工場 品質管理ガイドブック(第5次改訂版)(共著),全国生コンクリート工業組合連合会,2010/コンクリートの調合と施工ー知っておきたい建築材料・工法ー(共著),日本建築学会関東支部,2013/ポイントで学ぶ 鉄筋コンクリート工事の基本と施工管理(共著),井上書院,2015



環境創造保全学分野

小沢 広和 教授 理学博士
Hirokazu Ozawa

●主な学歴
金沢大学大学院 自然科学研究科 地球環境科学専攻 博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 貝形虫(カイミジンコ:底生甲殻類)の古生物学—分類、系統、生物地理、オス・メス形態差、異時性的進化—
2. 日本列島沿岸の過去 2,000 万年間における貝形虫の多様性変遷と古海洋環境変動史
3. 日本列島沿岸に生息する貝形虫ファウナ—種分布と海洋環境の関連、生活史—

●学会および社会における活動等

日本古生物学会特別会員、日本地質学会会員、日本動物分類学会会員
日本貝形虫類研究グループ会員
国際貝形虫類研究グループ(IRGO)会員
金沢大学環日本海域環境研究センター外来研究員

●著書、学術論文等

微化石・顕微鏡で見るプランクトン化石の世界:国立科博叢書(共著),東海大学出版会,2012/古生物学辞典・第2版(共著),朝倉書店,2010/Sexual Dimorphism, InTech Open Access Company(共著),2013/Species Diversity and Extinction, Nova Science Publishers, Inc.(共著),2010/Ozawa, H.: Early to Middle Miocene ostracods from the Yatsuo Group, central Japan: Significance for the bathyal fauna between Japan Sea and Northwest Pacific Ocean during the back-arc spreading. Paleont. Res., 20, p. 121-144, 2016



環境創造保全学分野

瀧澤 英紀 教授 博士(農学)
Hideki Takizawa

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. みなかみ演習林の地質の異なる 2 流域における積雪融雪期の流出特性
2. 谷戸地形谷底部の溪畔林における水質浄化

●学会および社会における活動等

1992年 4月～現在 水文・水資源学会会員
1991年 11月～現在 日本森林学会会員
1993年 11月～現在 日本緑化工学会会員
2016年～2021年 IUFRO-J監事

●著書、学術論文等

スギ樹体の蒸散による水貯留変動に関する実験的研究(共著),1996,日林誌 78, pp.66-73/チベット高原タングラ山脈北面の永久凍土地帯における夏期蒸発散(共著),1996,水文・水資源学会誌 9, pp.119-127/植生の蒸散過程における気孔開閉および樹体内の水移動(共著),1997,土壌の物理性76, pp.13-21/最新 環境緑化工学(共著),2007,朝倉書店/A review of evapotranspiration estimates from tropical forests in Thailand and adjacent regions(共著),2008, Agr. and for. met./環境緑化の事典(共著),2005,朝倉書店/熱帯域の丘陵性常緑林上における乱流が持ついくつかの性質(共著),2004,水文・水資源学会/改訂 森林資源科学入門(共著),2006,日本林業調査会/奥利根源流部の多雪地森林小流域における融雪期の水質形成について(共著)2016,関東森林研究 67-1



環境創造保全学分野

長坂貞郎 教授 博士(農学)
Sadao Nagasaka

●主な学歴
京都大学大学院農学研究科博士課程単位修得満期退学

●研究テーマ

1. 農業地域における水質変化特性
2. 水を利用した問題土壌改良方法の検討

●学会および社会における活動等

2021年 6月～現在 地域環境資源センター技術検討委員会委員
2020年 6月～現在 農業農村工学会監事
2021年 5月～現在 環境情報科学センター論文審査委員会副委員長
2018年11月～現在 農業農村工学会CPD関東地方委員会委員
2020年11月～現在 藤沢市環境審議会委員

●著書、学術論文等

地域環境水文学(共著)、2017、朝倉書店、p.208/小規模閉鎖性水域の植物プランクトン増殖抑制に関するモデル実験(共著)、2016、環境情報科学学術研究論文集、30、117-122/わかりやすい水理学(共著)、2010、理工図書、p.186/黒ボク土壌地帯における土壌水の窒素濃度変化—神奈川県藤沢市内の農場を事例として—(共著)、2005、環境情報科学論文集、19、347-352/Characteristics of effluent load from a watershed including irrigationponds(共著)、2003、Paddy and Water Environment、1、53-57/農業用ため池の物質収支とそれを含む流域の流出負荷特性-京都府京田辺市を事例として(共著)、2001、農業土木学会論文集、214、35-42/農業用ため池の水質変化と物質収支-京都府京田辺市の小規模なため池を事例として(共著)、2001、農業土木学会論文集、211、51-57



環境創造保全学分野

西村知良 教授 博士(理学)
Tomoyosi Nisimura

●主な学歴
大阪市立大学大学院 理学研究科 後期博士課程単位修得退学

●研究テーマ

1. 昆虫の生物時計・光周性のしくみと生態学的意義
2. 昆虫の産卵・子育て行動に関する生理生態学的研究

●学会および社会における活動等

1995年12月～現在 日本昆虫学会会員
1996年12月～現在 日本応用動物昆虫学会会員
1997年 6月～現在 日本動物学会会員
2001年 9月～現在 日本時間生物学会会員

●著書、学術論文等

Endogenous timing mechanism controlling the circannual pupation rhythm of the varied carpet beetle *Anthrenus verbasci* (共著)、2001.7、J. Comp. Physiol. A、187 (6): 433-440./Bimodal life cycle of the burying beetle *Nicrophorus quadripunctatus* in relation to its summer reproductive diapause(共著)、2002. 2、Ecol. Entomol. 27 (2):220-228./Circannual control of the life cycle in the Varied Carpet Beetle *Anthrenus verbasci* (共著)、2003.8、Funct. Ecol.、17 (4): 489-495./Ant nestmate and non-nestmate discrimination by a chemosensory sensillum (共著)2005.7、Science 309 (5732): 311-314./Experiential effects of appetitive and nonappetitive odors on feeding behavior in the blowfly, *Phormia regina*: a putative role for tyramine in appetite regulation. (共著)2005.8、J. Neurosci. 25 (33): 7507-7516.



環境創造保全学分野

川本 治 特任教授 博士(農学)
Osamu Kawamoto

●主な学歴
東京大学大学院農学系研究科農業工学修士課程修了

●研究テーマ

1. 地すべり等農地災害の発生機構の解析
2. 農地地盤災害の危険度評価

●学会および社会における活動等

2006年～2008年 農林水産省多面的機能維持増進調査に関する委員会委員
2009年～2013年 日本地すべり学会調査研究部会副部長
2009年～2013年 日本地すべり学会誌編集委員会委員
2010年～2013年 東北農政局庄内あさひ農地保全事業技術検討委員会委員
2010年～2013年 農林水産省地すべり調査検討委員会

●著書、学術論文等

ため池決壊時の簡易氾濫解析の改善に関して(共著)、2013.8、農業農村工学会誌、81 (8)、pp.7～11/浅層浸透解析による傾斜地水田の防災管理指標のマップ化(共著)、2010.9、農業農村工学会誌、78 (9)、pp.7～10/斜面の安定(共著)、2010.8、農業農村工学ハンドブック、基礎編(改訂7版)、農業農村工学会、三報社印刷株式会社、pp. 149～153/地すべり対策(共著)、2010.8、農業農村工学ハンドブック、本編(改訂7版)、農業農村工学会、三報社印刷株式会社、pp.261～263/地すべり崩土の力学特性と変形の局所化(共著)、2009.8、農業農村工学会論文集、262、pp.57～65/New technologies for high quality citrus fruit production, labor-saving and orchard conservation in western Japan(共著)、2005.2、Journal of Mountain Science、2(1)、pp.59～67.



環境創造保全学分野

廣海十朗 特任教授 農学博士
Juro Hiromi

●主な学歴
北海道大学大学院水産学研究科水産増殖学専攻修士課程修了

●研究テーマ

1. クラゲ食物連鎖型生態系への遷移機構の解明
2. 合成化学物質の水圏生態系に及ぼす毒性評価

●学会および社会における活動等

日本プランクトン学会 評議員・学会報編集委員長、日本水産学会評議員、日本学術振興会 二国間(相手国:インドネシア)交流事業共同研究研究員、文科省専門教育課「練習船の共同利用に関する検討委員会」委員、三洋テクノマリン(株)技術顧問

●著書、学術論文等

生物環境科学入門(共著)、2004.10、森北出版/水産資源の先進的有効利用法—ゼロミッションを目指して(共著)、2005.7、NTS/クラゲのふしぎ(共著)、2006.9、技術評論社/海の外来生物(共著)2010、東海大学出版会/Feeding of the scyphomedusa *Cyanea nozakii* on mesozooplankton (共著)、2000.3、Plankton Biol. Ecol.47、pp.43-47/Acute toxicity of Bunker A and C refined oils to the marine harpacticoid copepod *Tigriopus japonicus* Mor(i. 共著)、2002、*Bull. Environ. Contam. Toxicol.* 69:104-110/Acute toxicity of bunker Refined oil to Japanese littleneck clam *Ruditapes philippinarum*(Bivalnai Veneridae)(共著)、2004、*Bull. Environ. Contam. Toxicol.* 72:632-638/Abundance and biomass of Scyphomedusae *Aurelia aullita* and *Chrysaora melanaster*, and *Ctenophora Bolinopsis mikado*, with estimates of their feeding impact on Zooplankton in Tokyo Bay(共著)、2006.8、(その他の論文については学部HPの研究情報の「日大研究者情報システム」に公表中)



環境創造保全学分野

小坂 泉 准教授
Izumi Kosaka 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程単位修得満期退学

●研究テーマ

1. 森林における熱・水・炭素循環に関する研究
2. 森林上における物質の乱流輸送に関する研究

●学会および社会における活動等

2002年～現在 水文・水資源学会会員
2011年～現在 日本森林学会会員
2011年～現在 日本農業気象学会会員

●著書、学術論文等

冷温帯落葉広葉樹林における渦相関法によるフラックスの連続観測(共著) 2016, 関東森林研究, 67(1), 77-80./冷温帯落葉広葉樹林におけるCO₂フラックスの季節変化(共著)2014, 関東森林研究, 65(2), 181-184./ Soil respiration and soil CO₂ concentration in a tropical forest, Thailand(共著)2004, Journal of Forest Research, 9(1), 75-79./熱帯域の丘陵性常緑林上における乱流がもつ幾つかの性質(共著)2004, 水文・水資源学会誌, 17(2), 123-133./Seasonal trend in the occurrence of nocturnal drainage flow on a forested slope under a tropical monsoon climate(共著)2003, Boundary-Layer Meteorology, 106(3), 573-592.



環境創造保全学分野

山崎高洋 専任講師
Takahiro Yamazaki 博士 (生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 水質浄化過程の濃度変動特性に関する研究
2. ハヶ岳南麓流域における水環境に関する研究

●学会および社会における活動等

2005年 4月～現在 農業農村工学会会員
2008年 4月～現在 土木学会会員
2011年 4月～現在 環境情報科学センター会員
2012年 4月～現在 日本水環境学会会員
2013年 9月～現在 日本国際地域開発学会会員
2016年 4月～現在 自然環境復元協会会員
2016年 4月～現在 日本学校メンタルヘルス学会会員
2017年 4月～現在 全国大学メンタルヘルス学会会員
2020年11月～現在 大学教育学会会員

●著書、学術論文等

配布資料を限定した講義のノートテイキングに及ぼす効果ー水資源環境工学を事例としてー(単著)(2020)日本大学生物資源科学部教職課程紀要.3.53-62./長野県ハヶ岳山麓地域における水環境特性(共著)(2019).環境情報科学 学術研究論文集.33.330-335./Optimal Ratio of a Purification Material to Wastewater Based on COD and NO₃-N Concentration(共著)(2017) INFORMATION.20/10(A).7479-7486.



環境創造保全学分野

小糸智子 専任講師 博士(環境学)
Tomoko Koito

●主な学歴
東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 深海性無脊椎動物の環境適応機構に関する研究
2. 海洋無脊椎動物の集団構造に関する研究

●学会および社会における活動等

2006年4月～現在 日本水産学会会員
2018年4月～現在 日本ベントス学会会員

●著書、学術論文等

Koito T., Saito, S., Nagasaki, T., Yamagami, Y., Yamanaka, T., Okamura, K., Inoue, K. (2018) Taurine-related compounds and other free amino acids in deep-sea hydrothermal vent and non-vent invertebrates. *Marine Biology* 165:183
<https://doi.org/10.1007/s00227-018-3442-8>
Koito, T., Liu, W., Morimoto, S., Inoue, K., Toyohara, H. (2016) Comparison of taurine related compounds in deep- and shallow-water mussel species. *Plankton and Benthos Research* 11(3):81-86
Koito, T., Morimoto, S., Toyohara, H., Yoshida, T., Jimbo, M., Maruyama, T., Miyazaki, N., Inoue, K. (2010) Decline in taurine transporter mRNA and thioautotrophic bacterial 16S rDNA levels after transplantation of the hydrothermal-vent mussel *Bathymodiolus septemdierum* to a non-vent position. *Cahiers de Biologie Marine* 51: 429-433



環境情報科学分野

岩佐真宏 教授
Masahiro A. Iwasa 博士 (地球環境科学)

●主な学歴
北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了 (生態環境科学専攻)

●研究テーマ

1. 地表棲小型哺乳動物の個体群成立・群集成立に関する生物地理学的研究
2. 哺乳動物の染色体進化に関する研究
3. 小型哺乳動物における骨格形態の地域変異からみた種認識に関する研究

●学会および社会における活動等

日本哺乳類学会会員、日本染色体学会会員、日本進化学会会員、日本メンデル協会会員

●著書、学術論文等

Molecular analyses of the agouti allele in the Japanese house mice identify a novel variant of the agouti gene (共著), 2018, *Genome* 61: 195-200./土壌動物層からみた都市林と山地林の環境について(共著), 2017, 神奈川県自然誌資料 38: 13-19./Molecular phylogenetic relationships of halacarid mites suggest the reevaluation of traditional subfamily classification (共著), 2017, *Acarologia* 57: 633-641./A histological study of tail width variation in the greater Japanese shrew-mole, *Urotrichus talpoides* (共著), 2017, *Folia Zoologica* 66: 203-210./Karyological characterization of laboratory strains of the Mongolian gerbils using differential staining techniques (共著), 2016, *Cytologia* 81: 237-242./Genetic and morphological characterizations of house mice on the Miura Peninsula, central Honshu, Japan (共著), 2016, *Mammal Study* 41: 223-228



環境情報科学分野

串田圭司 教授 博士(農学)
Keiji Kushida

●主な学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科農業工学
専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. リモートセンシングによる地球環境と生物資源
2. 自然災害対策への地理情報の利用
3. 温暖化予測に関わる北極域土壌圏の炭素収支の時空間変動

●学会および社会における活動等

1991年～現在 農業農村工学会員
2007年～現在 日本地球惑星科学連合会員

●著書、学術論文等

Spectral indices for remote sensing of phytomass, deciduous shrubs, and productivity in Alaskan Arctic tundra(共著, 筆頭)2015年, International Journal of Remote Sensing, 36(17), 4344-4362/
Global remote sensing of water-chlorophyll ratio in terrestrial plant leaves(単著)2012年, Ecology and Evolution, 2(10), 2549-2556/
Estimation of LAI and FAPAR by constraining the leaf and soil spectral characteristics in a radiative transfer model(共著, 筆頭)2010年, International Journal of Remote Sensing, 31(9), 2351-2375/
Detection of active wildland fires using multitemporal MODIS images(単著)2010年, IEEE Geoscience and Remote Sensing Letters, 7(2), 301-305/
Spectral vegetation indices for estimating shrub cover, green phytomass, and leaf turnover in a sedge-shrub tundra(共著, 筆頭)2009年, International Journal of Remote Sensing, 30(6), 1651-1658



環境情報科学分野

ロイ キンシュック 教授 博士(農学)
Kingshuk ROY

●主な学歴
鳥取大学大学院連合農学研究科生産環境科学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 「水」と「土」の最適利用によって農地や流域の保全・修復に関する研究
2. 土壌・水・植物系を考慮した生態環境保全に関する研究
3. 地理情報システム(GIS)やリモートセンシング(RS)などの情報技術ツールを利用した地域資源(植生、流域、バイオマスなど)管理・評価モデルの開発

学会および社会における活動等

World Association of Soil and Water Conservation(WASWAC)評議員、環境情報科学センター(CEIS)会員・審議員、日本熱帯農学会(JSTA)会員・学会誌編集委員、American Geophysical Union(AGU)会員、農業農村工学会(JSIDRE)会員

●著書、学術論文等

Nonpoint Source Water Pollution in Rural Areas in the Upper Ayase River Basin of Saitama Prefecture in Japan(単著),2018,Int. J. Environ. and Rural Dev.,9(1):109-115/
The Effects of Land Restoration on Soil Fertility in Tsunami-inundated Farmlands of Miyagi Prefecture in Japan(共著),2017,Int. J. Environ. and Rural Dev.,8(1):39-48/
Site-specific Soil Conservation Approaches in Desertification-prone Areas in the Inner Mongolia Region, China(共著),2015,Int. J. Environ. and Rural Dev.,6(1):165-174/
Post-tsunami Salinity Status of Reclaimed and Nonreclaimed Farmlands in Miyagi Prefecture, Japan(共著),2015,J. Environ. Info. Sci,43(5):19-24



環境情報科学分野

笹田勝寛 准教授 博士(農学)
Katsuhiko Sasada

●主な学歴
日本大学農獣医学部農業工学科卒業
日本大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 湿原の保全における水環境対策とその効果に関する研究
2. 荒廃農地の現状とその利活用に関する研究
3. 都市化された土壌の再農地化に関する研究

●学会および社会における活動等

2015年～現在 環境情報科学センター 審議員
2014年～現在 農業農村工学会農地保全研究部会 幹事
2001年～現在 会津若松市教育委員会 赤井谷地沼野植物群落調査指導会議委員
2001年～現在 山武市教育委員会 成東東金食虫植物群落保護検討委員会委員

●著書、学術論文等

Paddy Field Consolidation and Present Condition of AKAIYACHI Mire in Japan, 2004, Proceedings of the 12th International Peat Congress, pp. 1088-1091/
都市近郊河川における谷戸流域の水環境について, 2003, 環境情報科学論文集17, 353-358/
木質チップの敷設が土壌・植生に与える影響, 2004, 環境情報科学論文集18, 445-448/
農業基盤整備事業による湿原環境の保全とその効果—天然記念物「赤井谷地沼野植物群落」を例として—, 2005, 環境情報科学論文集19, pp.371-376/
土壌物理実験法(共著), 2011, 東京大学出版会/
あたらしい測量学(共著), 2014, コロナ社



環境情報科学分野

對馬孝治 准教授 博士(農学)
Kouji Tsushima

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 河川の物質循環の解析
2. 面源から流出する河川懸濁物の解析
3. 都市域における地下水の水質変化の解析

●学会および社会における活動等

2004年～現在 日本陸水学会会員
2005年～現在 土木学会会員
2006年～現在 応用生態工学会会員
2007年～現在 日本水環境学会会員

●著書、学術論文等

Nitrate decrease with isotopic fractionation in riverside sediment column during infiltration experiment. Water, Air and Soil Pollution. (共著)2006, 174, 47-61.
ダム下流の河川生態系への有機物供給に関する研究. 水工学論文集(共著)2007, 51, 1117-1122.
真姿の池湧水の水質変動. 地下水学雑誌(共著)2008, 50, 3-16.
猪鼻湖堆積物の形態別リンの分布特性. 環境工学研究論文集(共著)2008, 45, 517-523.
Evaluation of Nutrient Loads from a Citrus Orchard in Japan. Journal of Water and Environment Technology. (共著)2009, 7, 267-276.
Assessing ecological risk of zinc in Japan using organism- and population-level species sensitivity distributions. Chemosphere. (共著)2010, 80, 563-569.
炭素窒素安定同位体比に基づく藤沢市川名緑地におけるホタル類の食性解析. 環境情報科学学術研究論文集(共著)2017, 31, 41-46.



環境情報科学分野

福澤めぐみ 准教授 博士 (学術)
Megumi Fukuzawa

●主な学歴

麻布大学大学院獣医学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. イヌのトレーニングに関する研究
2. イヌの感覚能力に関する研究
3. ヒトとの共生に関する研究

●学会および社会における活動等

- 2007年～現在 神奈川県警察本部嘱託警察犬指導士
- 2007年～現在 応用動物行動学会会員
- 2009年～現在 日本動物心理学会会員
- 2009年～現在 国際応用動物行動学会 (ISAE) 会員
- 2018年～現在 日本生態学会会員

●著書、学術論文等

More than just a word: non-semantic command variables affect obedience in the domestic dog (*Canis familiaris*) (共著) (2005), Applied Animal Behaviour Science, 91, 129-141. / Comparison of 3 different reinforcements of learning in dogs (*Canis familiaris*) (共著) (2013), Journal of Veterinary Behavior: Clinical Applications and Research, 8(4), 221-224. / Can we estimate dogs' recognition of objects in mirrors from their behavior and response time? (共著) (2017), Journal of Veterinary Behavior: Clinical Applications and Research, 17, 1-5. / Testing the ability of dogs to detect different odor concentrations of the Carolina anole (*Anolis carolinensis*) in Japan. Frontiers in Veterinary Science. (共著) 2020. 7, article 590834.

非常勤講師

原田英美子

生物資源経済学専攻

国内外における生物資源、特に食料の生産・流通・消費にかかわる経済問題を考究し、持続型、環境調和型の生物生産政策と流通システムの開発を目的とします。

生物資源・食品経済学、食品流通・経営学、国際食料資源経済学、国際地域開発学の各分野から構成される生物資源経済学にかかわる講義を行い、基礎・応用研究の手法や理論を指導し、優れた研究能力と高度な専門技術を備えた人材、将来の食品産業や国際協力活動のリーダーとなりうる人材の養成を図ります。

生物資源・食品経済学分野

博士前期課程／生物資源・食品の生産構造と消費構造にかかわる経済問題を考究し、食品産業における市場構造と企業行動、それらに伴う市場成果の問題等について、講義及び研究指導を行います。さらに、生物資源の需給動向と価格形成、土地利用方式、生産組織、政策的課題などの問題について、経済学的観点から理論的・実証的に講義するとともに研究指導を行います。

博士後期課程／農林水産物や加工食品の需給動向や価格形成、生産構造、生産組織、土地利用にかかる理論と応用、そのための政策的課題などについて経済学的観点から講義、研究指導します。また、それらの分析手法として需要・供給関数、生産関数、多変量解析、産業連関分析などについても言及します。

国際食料資源経済学分野

博士前期課程／穀物資源や畜産資源、森林・水産資源など生物資源に関する世界各国の需要量と供給量、各国間の移出入関係などの実態を明らかにし、21世紀に予測される地球レベルでの食料問題、資源賦存量の開発の可能性とそのメカニズム、わが国企業の原料調達の方法とその課題などの問題について講義し、研究指導を行います。

博士後期課程／日本及び世界の食料安定供給機構のあるべきイメージを追究し、国々の歴史、文化、風土に関する相違の相互理解が、基本原理としての市場原理のほかに、非市場原理としての制度的要因をどの程度許容するかという点について、実証的・規範的研究の側面から講義し、研究指導を行います。

食品流通・経営学分野

博士前期課程／食品流通・経営学分野では、農業・畜産・林業経営における経営規模、経営管理・経営分析、経営組織、農業経営複合化問題、農法論など農業経営学に関する問題について理論的・実証的に講義し、研究指導を行います。たとえば、生物資源生産物と加工食品を含めた食品全般にかかわる流通及びマーケティングの問題についての講義と研究指導などが具体例として挙げられます。

博士後期課程／食品流通の改善と国民経済または個別経営との関係を論じ、学説史的論述を中心に、食品流通・経営学分野における普遍的、独創的な展開を助長するための理論構成を重視し、講義、研究指導を行います。

国際地域開発学分野

博士前期課程／アジア、アフリカ、ラテン・アメリカを中心に、各国の経済発展と農村・農業との相互関係、農業の構造的特徴、食料問題、農村社会の特質などについて講義するとともに研究指導を行います。さらに、地域概念を理論的・実証的に整理し、地域区分や地域の多様性・連続性を明らかにしつつ、農村地域の経済・社会開発の方法と課題について講義し、研究指導を行います。

博士後期課程／発展途上国における社会・経済・文化等広範囲におよぶ発展を中心に、先進諸国との関係及びその経験をも視野に入れた地域開発に関する基礎理論と国際的に調和のとれた持続可能な地域開発のあり方を講義し、研究指導を行います。

授 業 科 目 一 覧

博士前期課程					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	
生物資源科学特論Ⅰ	4	4		左記のうちから、必修科目を含め30単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。	
生物資源科学特論Ⅱ	4		4		
生物資源・食品経済学分野					
生物資源経済学特講	2		2		
食品産業論特講	2		2		
生物資源経済学演習	1		1		
食品産業論演習	1		1		
食品流通・経営学分野					
生物資源経営学特講	2		2		
マーケティング特講	2		2		
生物資源経営学演習	1		1		
マーケティング演習	1		1		
国際食料資源経済学分野					
国際資源経済論特講	2		2		
国際フードシステム論特講	2		2		
国際資源経済論演習	1		1		
国際フードシステム論演習	1		1		
国際地域開発学分野					
国際農業開発論特講	2		2		
農村開発論特講	2		2		
国際農業開発論演習	1		1		
農村開発論演習	1		1		
生物資源経済学特別講義Ⅰ	4	4			
生物資源経済学特別研究Ⅰ	10	10			
学位論文					

博士後期課程					
授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法	
生物資源・食品経済学分野					
生物資源・食品経済学特講	2		2	左記のうちから、必修科目を含め17単位以上を修得した上、学位論文の審査及び試験に合格しなければならない。ただし、4分野のうち1分野を選択必修とする。	
生物資源・食品経済学演習	1		1		
食品流通・経営学分野					
食品流通・経営学特講	2		2		
食品流通・経営学演習	1		1		
国際食料資源経済学分野					
国際食料資源経済学特講	2		2		
国際食料資源経済学演習	1		1		
国際地域開発学分野					
国際地域開発学特講	2		2		
国際地域開発学演習	1		1		
生物資源経済学特別講義Ⅱ	4	4			
生物資源経済学特別研究Ⅱ	10	10			
学位論文					

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください



生物資源・食品経済学分野

大石敦志 教授 博士(農学)
Atsushi Oishi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 食品需要と行動経済学に関する研究
2. フードシステムにおける価格形成と資源配分問題
3. フードサプライチェーンの発展と効率性に関する研究

●学会および社会における活動等

1991年～現在 日本農業経済学会会員・日本国際地域開発学会会員
2002年～現在 日本フードシステム学会会員
2002年6月～2006年6月・2008年6月～現在 日本フードシステム学会理事
2016年～2019年3月 日本農業経済学会常務理事
2019年4月～2021年3月 日本農業経済学会監事

●著書、学術論文等

乳製品製造業の工場立地について、2017、食品経済研究、45／グローバル化と食品企業行動(共著)、2014、農林統計出版／食料経済(共著)、2022、オーム社／地方からの農政改革:三重県の挑戦(共著)、1998、三重大学出版／チョコレート製品選択やレポート作成行動に関する一考察、2012、食品経済研究、40、pp.50-62／個店POSデータによる納豆商品間の競合関係の分析、2011、食品経済研究、39、pp.80-97／食品選択に関する行動経済学の一考察、2010、食品経済研究、38、pp.71-81／Demand System for Fresh Vegetables in the U.S. and Mexico-An Application of Barten Approach-、2009、食品経済研究、37、pp.69-87／日次POSデータによる納豆市場のAIDS需要分析、2008、食品経済研究、36、pp.54-72



生物資源・食品経済学分野

小野 洋 教授 博士(農学)
Hiroshi Ono

●主な学歴
東京大学農学部農業経済学科卒業
東京大学農学生命科学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. バイオ燃料生産が地域経済・環境に及ぼす影響
2. 農業生産における自家労働評価

●学会および社会における活動等

2022年～現在 日本農業経済学会常務理事
2016年～2021年 日本フードシステム学会理事

●著書、学術論文等

Relationships between management factors in dairy production systems and mental health of farm managers in Japan(共著) 2021, Journal of Dairy Science,105(1)／耕畜連携による温室効果ガス削減(共著)2017, フードシステム研究, 24(3)／The revitalization of rural economies through restructuring self-sufficient realm(共著)2015, Japan Agricultural Research Quarterly,49(3)／費用合計による水稲直播の技術評価の課題(共著) 2014, 2014年度日本農業経済学会論文集／大豆収穫労働と技術評価(共著)2013, 2013年度日本農業経済学会論文集／直播栽培の温室効果ガス排出量(共著)2012,2012年度日本農業経済学会論文集／Overview of recent effects of global warming on agricultural production in Japan(共著)2012,Japan Agricultural Research Quarterly,46(1)／酪農生産における自給飼料生産労働の評価(共著)2011,農業経営研究,49(2)



生物資源・食品経済学分野

川手督也 教授 博士(農学)
Tokuya Kawate

●主な学歴
東京大学文学部第4類行動学社会学専攻課程卒業

●研究テーマ

1. スローフード論
2. 農業における生物多様性保全の社会的経済的条件
3. 農業の担い手問題に関する研究

●学会および社会における活動等

1998年10月～2010年9月 日本農村生活学会理事
2000年 4月～現在 日本農村計画学会評議員
2005年 6月～2007年5月 日本フードシステム学会編集委員
2006年10月～2008年9月 日本農業経営学会編集委員
2008年 4月～2010年3月 日本農業経済学会常務理事

●著書、学術論文等

家族経営協定(単著)、1998、日本の農業第206号、(財)農政調査委員会／中山間農業の新たな取り組み(単著)、2003、日本農業経営学会編、新時代の農業経営への招待、農林統計協会、p141-152／家族経営協定の効果に関する考察(共著)、1998、村落社会研究第5巻第1号、p21-32／農村生活の変貌と21世紀システム(単著)、2000、村落社会研究第36号、p118-149、農山漁村文化協会／現代の家族経営協定(単著)、2006、筑波書房



生物資源・食品経済学分野

清水みゆき 教授 博士(農学)
Miyuki Shimizu

●主な学歴
千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. フードシステムと消費者教育
2. 食品ロスと食品表示
3. 食をめぐる公害・環境問題

●学会および社会における活動等

2006年～2010年6月 日本フードシステム学会常任理事
2012年～2014年3月 日本農業経済学会学会誌編集委員長
2012年～2015年 関東農政局補助事業評価技術検討委員
2012年～2013年 内閣府食育事例検討委員会委員
2014年～現在 農林水産省産地活性化総合対策事業選定審査委員
2015年～2017年 日本協同組合学会副会長
2018年～2020年 日本学術振興会専門委員
2020年～現在 日本フードシステム学会副会長

●著書、学術論文等

近代日本の反公害運動史論(単著)、1995.4、日本経済評論社／近代化過程における村落社会と反公害運動(単著)、1996.10、村落社会研究学会年報第32号 自然の再生21世紀への視点、農文協／漬物に関するフードシステムとその原料調達(単著)、2000.4、野菜のフードシステム、農林統計協会／食品加工メーカーの原料調達と契約生産(単著)、2001.6、フードシステムの構造変化と農漁業、農林統計協会／フードシステムと環境問題(単著)、2002.5、農と食とフードシステム／加工用原料の供給と商社の役割(単著)、2006.6、食と商社、日本経済評論社／なぜ食の無駄は問題か、2008.11、食生活、(株)サガン／食料経済第6版(編著)、2022. 3、オーム社



食品流通・経営学分野

友田滋夫 准教授 博士(農学)
Shigeo Tomoda

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻

●研究テーマ

1. 地域資源を活用した地域活性化に関する研究
2. 農山村地域の就業構造と雇用開発に関する研究
3. 低所得層の食料消費に関する研究

●学会および社会における活動等

2011年6月～2016年3月 農業問題研究学会常任幹事
2017年4月～2019年3月 農業問題研究学会編集委員

●著書、学術論文等

農山漁村の地域振興と生活条件確保—地域資源の活用と人々の活躍—(共著)(2011)農村開発企画委員会
労働市場と農業(共著)(2008)筑波書房
経済構造転換期の共生農業システム—労働市場・農地問題の諸相—(共著)(2006)農林統計協会
農村の立地企業と就業構造—山形県と福島県の事例を中心に(共著)(2003)農政調査委員会
条件不利集落の存立条件(共著)(2002)農政調査委員会
農業経済の分析視角を問う(共著)(2002)農林統計協会
中山間地域振興の在り方を問う(共著)(1999)農林統計協会
「製造業への低賃金労働力給源としての農家」の機能収縮と農村(2013)歴史と経済219,14-23
農業における外国人労働者—諸外国の経験と日本の現実から課題を探る(2011)農業問題研究67,27-35



生物資源・食品経済学分野

片上敏喜 専任講師 博士(農学)
Toshiki Katagami

●主な学歴
京都府立大学大学院農学研究科生物生産環境学専攻博士後期課程研究指導・単位取得認定退学

●研究テーマ

1. 地域の食文化を活用した観光まちづくりに関する研究
2. 6次産業化の成立要因と展開に関する研究
3. フードツーリズムの形成手法と波及効果に関するアクションリサーチ

●学会および社会における活動等

2003年～現在 日本観光研究学会会員
2013年～現在 「世界文化遺産」地域連携会議メンバー
2016年～現在 日本協同組合学会編集委員
2020年～2021年 文化庁食文化振興推進事業技術審査委員
2021年～現在 日本協同組合学会常任理事

●著書、学術論文等

「フードツーリズムから波及する多様な効果」(単著)2022,『農村と都市をむすぶ』第72巻第4号／「生産者と消費者をつなぐ新たな観光としてのフードツーリズム—「観光の動演性」からの考察を基に—」(単著)2022,『フードシステム研究』第28巻4号／「地域に根差した食品の生産現場を対象とした実践的な体験学習に関する一考察」(単著)2022,『日本大学生物資源科学部「教職課程紀要」』第5号／「フードシステムにおけるツーリズムの役割に関する一考察—地域の食文化に着目して—」(単著)『日本観光研究学会全国大会 学術論文集』No.35／「食品ビジネス学入門(第2版)」(共著)2021, オーム社／「アクションリサーチによる食文化観光の実践と現況—奈良の食文化を対象として—」(単著)2020,『人間科学研究』第17号／「地域固有の資源を用いたフードツーリズム形成に関する一考察」(単著)2016,『食品経済研究』第44号



生物資源・食品経済学分野

久保田裕美 准教授 博士(農学)
Yumi Kubota

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 食料消費構造の変化とライフスタイルに関する研究
2. 食と農の乖離に関する研究
3. 食を核としたコミュニティの形成に関する研究

●学会および社会における活動等

2003年～現在 日本農業経済学会会員, 同理事(2022年～)
2003年～現在 日本フードシステム学会会員, 同幹事(2020年～)
2011年～2013年 日本フードサービス協会評議委員
2013年～現在 日本協同組合学会会員・同編集委員, 同理事(2021年～)

●著書、学術論文等

「食と農の乖離」『日本の農業—あすへの歩み—第237集』(単著)2006)財団法人農政調査委員会／「米粉推進に向けた米加工食品の現状と展望に関する一考察」(単著)2013)食品経済研究,41号,34-48／「アメリカのCSA(地域支援型農業)に関する農業センサス分析」(単著2012)フードシステム研究,19巻3号,351-355／「都市住民と「農」との新たな関わりに関する現状と課題」(単著2011)食品経済研究,39巻,18-32／「学校給食の災害時におけるリスク対応楯能に関する一考察—東日本大震災後の計画停電における首都圏学校給食実施状況調査から—」(単著2018)食品経済研究,46号,64-73／「カナダの食料不安の現状と食と核とする地域支援活動に関する一考察—オンタリオ州トロント市の事例から—」(単著2021)フードシステム研究,27巻4号,232-237／「食品ビジネス学入門 第2版」(共著2021)オーム社／「食料経済 第6版」(共著2022)オーム社



食品流通・経営学分野

石田正美 教授 博士(経済学)
Masami Ishida

●主な学歴
成蹊大学法学部政治学科卒業(法学士)
筑波大学大学院経営・政策科学研究科修了(経済学修士)
インドネシア大学大学院経済学研究科修了(経済学博士)

●研究テーマ

1. 東南アジアメコン地域における道路インフラ開発の経済効果
2. メコン地域における都市内・都市間・越境物流
3. ラオスのハンディクラフト中小企業支援

●学会および社会における活動等

2000年4月～現在 アジア政経学会会員
2020年4月～現在 ジェトロ・アジア経済研究所「メコン地域の輸送インフラの経済効果」研究会主査
2020年4月～現在 ジェトロ・アジア経済研究所「ラオス・ハンディクラフト企業・素材ビジネスの新展開」研究会主査

●著書、学術論文等

「地図とデータで読み解く メコン物流事情」(共編)2020)文眞堂／「タイ・プラス・ワンの企業戦略」(共編)2017)勁草書房／「メコン地域3つの経済回廊の道路インフラ開発」(単著)2019)トラン・ヴァン・トゥ/苺込俊二編著『メコン地域開発とアジアダイナミズム』東京:文眞堂,29-62／「試される一帯一路「債務の罠」の克服—中国—ミャンマー—経済回廊の建設状況から考える」『世界を見る眼IDE スクエア』アジア経済研究所／Border Economies in the Greater Mekong Subregion(編著)2013)Palgrave-Macmillan./GMS Economic Corridors under the Belt and Road Initiative(単著)2019)Journal of Asian Economic Integration, Vol. 2, Issue. 2, 183-206./Cargo Transportation Cost in Vietnam(単著)2019)IDE Discussion Paper Series, No. 174.



食品流通・経営学分野

小泉聖一 特任教授
Seiichi Koizumi 博士(生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院農学研究所畜産学専攻博士前期課程修了

●研究テーマ

1. 畜産物の消費者行動に関する研究
2. 畜産経営に関する研究

●学会および社会における活動等

2005年～2021年 横浜市食肉市場食肉部市場取引委員会会長
2015年～2017年 (公社)日本畜産学会理事長
2008年～現在 日本酪農乳業史研究会常務理事
2010年～現在 日本フードシステム学会
2014年～2016年 The Asia-Australasian Association of Animal production Sciences会長
2021年～現在 (公社)日本畜産学会名誉会員

●著書、学術論文等

畜産(共著)、2006.5、(社)全国農業改良普及協会/高度経済成長期(企)基本法農政下の食料・農業問題と農村社会の変貌(共著)、2004.9、農林統計協会/Similarities and Differences in Meat Consumption in Asia and Pacific-Rim Countries(共著)、2002、Animal Science Journal 73,pp.293-300 / Study on Consumer Behavior for Meat Consumption in the U.S(共著)、2001.10、Animal Science Journal Vol.72, No.4,pp.329-343 / Study on Consumer Behavior for Meat Consumption in Japan (Tokyo, Osaka)(共著)、2000.11、Animal Science Journal Vol.71 No.6, pp.621-633



食品流通・経営学分野

李 裕敬 専任講師
Youkyung Lee 博士(国際バイオビジネス学)

●主な学歴
韓国国立慶北大学校農業経済学科卒業
東京農科大学大学院農学研究所博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 農業法人の経営戦略に関する研究
2. 農村コミュニティビジネスの成立条件と評価方法に関する研究
3. 農家の組織化メカニズムに関する研究

●学会および社会における活動等

2017年9月～2019年9月 日本農業経営学会 常任編集委員
2017年6月～2019年6月 日本フードシステム学会 編集委員
2007年5月～現在 日本農業経済学会会員
2014年9月 日本農業経営学会奨励賞受賞

●著書、学術論文等

The Agriculture-Food-Tourism Industry Cluster in The Republic of Korea: The Formation and Growth Factors of Clusters in Regional Agriculture(単著)(2017)A Multi-Industrial Linkages Approach to Cluster Building in East Asia:55-71 / 韓国水田農業の競争・協調戦略.(単著)(2014)日本経済評論社248頁 / 農村イノベーション政策の国際比較—6次産業化,食料産業クラスター,農村アニメーター—(共著)(2014)フードシステム研究20(3):303-308 / 韓国の作業受託型稲作経営におけるパートナーシップの形成条件—韓国慶尚北道慶州市の作業受託組織を事例に—(単著)(2012)農業経営研究50(2):43-48



食品流通・経営学分野

佐藤奨平 専任講師
Shohei Sato 博士(生物資源科学)

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源経済学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 食品企業経営史
2. 食品イノベーションと企業者精神
3. フードシステム・食文化の構造と動態

●学会および社会における活動等

2019年～現在 日本酪農乳業史研究会常務理事・編集委員
2018年～現在 酪農乳業史料収集活用事業推進委員会委員(内閣官房「明治150年」関連施策・Jミルク)
2016年～現在 日本フードシステム学会幹事

●著書、学術論文等

和菓子企業の原料調達と地域回帰(編著),筑波書房,2019 / 台湾のオーガニック・サプライチェーン構築における専門小売店の役割と課題:里仁事業股份有限公司を事例として(共著),フードシステム研究,26(4),2020,pp.331-336 / 和菓子原料卸売企業におけるマーケティング戦略と課題:S社を事例として,フードシステム研究,25(4),2019,pp.287-292 / 台湾における日本産農産物・食品の高品質ブランド化戦略:裕毛屋企業股份有限公司を事例として(共著),フードシステム研究,24(3),2017,pp.305-308 / 加工原料乳生産者補給金等暫定措置法の成立過程における大手乳業メーカーの経営行動,人間科学研究,14,2017,pp.1-19 / 集落営農組織の展開における農産加工の意義と限界(共著),日本地域政策研究,15,2015,pp.54-62 / 中山間地域等における活動実態調査業務報告書(農政調査委員会編),農林水産省,2014,pp.1-2267 / 農村活性化の取組の経済効果調査業務報告書(同編),同,2014,pp.1-170



国際食料資源経済学分野

高橋 巖 教授 博士(農学)
Iwao Takahashi

●主な学歴
日本大学大学院農学研究所農業経済学専攻博士前期課程修了

●研究テーマ

1. グローバル化・高齢化の進展下での地域経済と地域農業の持続可能なあり方に関する研究
2. 農協等地域組織・非営利協同組織と事業に関する研究

●学会および社会における活動等

2021年～現在 日本協同組合学会理事
2018年～現在 (一社)協同総合研究所理事
2010年～現在 全漁連・水産業協同組合監査士試験委員会委員
2009年～現在 日本有機農業学会理事

●著書、学術論文等

スペインの労働者協同組合,生活協同組合研究 543号,2021年 / 現代スペインにおける協同組合・協同組織の社会的・経済的役割—バルセロナ市の事例を中心に—,協同の発見 313号,2018年 / ウズベキスタンにおけるブドウ・ワインの有機生産に関する一考察:ワイナリー事例と製品の分析を中心に(共著),有機農業研究第9巻1号,2017年 / 地域を支える農協—協同のセーフティネットを創る(編著),2017年, commons / 社会保護政策論(共著),2014年,慶應義塾大学出版会 / TPPで危機に曝される協同組合—自治とセーフティネットを守るために—,協同組合研究第33巻1号,2013年 / The Importance and Role of NPO Activities in Depopulated Areas :The Example of "NPO eco-Otoineppu" in Otoineppu Village, Hokkaido, Encounters, 2, Department of Tourism and Transnational Studies Dokkyo University, 2011



国際食料資源経済学分野

宮部和幸 教授 博士(農学)
Kazuyuki Miyabe

●主な学歴
神戸大学大学院農学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 農村活性化戦略づくりに関する研究
2. 農業サービス事業体の成立・展開に関する研究

●学会および社会における活動等

2007年6月～現在 日本国際地域開発学会・評議員
2010年2月～現在 日本農業経営学会
2010年6月～現在 日本フードシステム学会

●著書、学術論文等

花き作経営の維持・発展とファームサービス事業体の展開、2001、農政調査委員会／農業経営支援の課題と展望(共著)、2003、養賢堂、pp.102-108／ガーデニングブームと花苗の生産経営・産地、2001、ランドスケープ研究／現代の農産物流通(共著)、2006、全国農業改良普及支援協会、pp.100-128、pp.143-157／バラ生産経営におけるネットワーク組織の成立要因に関する一考察—レント分析を中心として—、2007、農業・食料経済研究／食料・農産物流通論(共著)、2009、筑波書房／イノベーションと農業経営の発展、2011、農林統計協会、pp.113-119／海外市場における日本産農作物ブランドの形成と課題、2010、協同組合奨励研究36／やっぱりおもしろい関西農業、2012、昭和堂、pp.75-84／新版 食料・農産物流通論(共著)、2012、筑波書房



国際食料資源経済学分野

阿久根優子 准教授 博士(学術)
Yuko Akune

●主な学歴
筑波大学大学院 農学研究科 単位取得満期退学

●研究テーマ

1. グローバルなフードシステムの形成要因とその影響
2. 気候変動における農業の適応技術の地域経済への影響
3. 食品製造業に対する地域資源のスピルオーバー効果

●学会および社会における活動等

1999年 6月～現在 日本フードシステム学会
2000年 3月～現在 日本農業経済学会
2002年 6月～現在 日本経済学会
2002年10月～現在 日本地域学会
2002年10月～現在 Regional Science Association International
2002年11月～現在 応用地域学会

●著書、学術論文等

Microdata analysis of Japanese farmers' productivity: Estimating farm heterogeneity and elasticity of substitution among varieties(共著), *Agricultural Economics*, 52(4), 633-644, 2021./ Can the Japanese agri-food producers survive under freer trade? A general equilibrium analysis with farm heterogeneity and product differentiation(共著), *Japan and the World Economy*, 55, 101028 2020./ Economic Evaluation of Dissemination of High Temperature-Tolerant Rice in Japan Using a Dynamic Computable General Equilibrium Model(共著), *Japan Agricultural Research Quarterly*, 49(2) 127-133 2015./ 「食品産業の産業集積と立地選択に関する実証分析」,筑波書房、2009年。



国際地域開発学分野

飛田 哲 教授 博士(農学)
Satoshi Tobita

●主な学歴
東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 地域有機物資源を利用した土壌肥沃度向上技術の開発と評価
2. 生物的硝化抑制(BNI)による作物生産体系の窒素利用効率の向上と窒素汚染の軽減効果の多面的評価
3. リン鉱石の地域利用を通じたサブサハラアフリカの肥料利用農業の促進

●学会および社会における活動等

1988年～現在 日本作物学会会員(関東支部会評議員、国際交流委員など歴任)
1992年～現在 日本土壌肥料学会会員
2010年～現在 日本熱帯農業学会会員(2018～2020評議員)
2018年～2020年 農林水産省「気候変動の下での持続可能な農業推進」検討委員
2019年～2021年 環境省「気候変動適応研究機関連絡会議」実務者会議メンバー
2021年～現在 (国研)国際農林水産業研究センター特定研究主査

●著書、学術論文等

生物的硝化抑制を利用した新しい気候変動緩和策。(2018) 週刊農林 2336,14-15／ブルキナファソ産低品位リン鉱石焼成物の施用がトウモロコシおよび水稲の生育におよぼす影響(共著)。(2016) 土肥誌 87, 338-347／モザンビーク北西部における天水畑作経営の展開ニアサ州リンガ市近郊農村の事例(共著)。(2014) 農業経営研究162,77-82／"Fallow Band System," a land management practice for controlling desertification and improving crop production in the Sahel, West Africa. 1. Effectiveness in desertification control and soil fertility improvement(共著)。(2011) Soil Sci.Plant Nutr.57,573-586



国際地域開発学分野

松本礼史 教授 博士(学術)
Reishi Matsumoto

●主な学歴
広島大学大学院生物圏科学研究科 環境計画科学専攻博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 経済成長と環境管理能力の形成過程に関する研究
2. 環境政策と企業行動、消費者行動に関する研究
3. 環境保全技術の普及と定着に関する研究

●学会および社会における活動等

1991年～現在 廃棄物学会(現・廃棄物資源循環学会)会員
1995年～現在 国際開発学会会員
1998年～現在 環境経済・政策学会会員
2003年～現在 日本国際地域開発学会理事・会計幹事

●著書、学術論文等

資源循環型社会への模索・掛川モデル:ごみ減量日本一への途、松岡俊二編「社会イノベーションと地域の持続性:場の形成と社会的受容性の醸成」pp.108-124,有斐閣、2018年／経済発展と資源利用・環境問題、日本大学生物資源科学部国際地域開発学研究会編「国際地域開発学入門」pp.83-91、農林統計協会、2016年／途上国の都市における「ごみの流れ」の構造分析:スリランカ・キャンディ市を事例に、『国際開発研究(国際開発学会)』第24巻1号,pp.15-32, 2015年(共著)／アジアの経済発展と環境問題、松岡俊二編著『アジアの環境ガバナンス』pp.21-32、勁草書房、2013年／Energy and environmental institutions in East Asia, Satoshi Amako, Shunji Matsuoka and Kenji Horiuchi (eds.),Regional Integration in East Asia: Theoretical and Historical Perspectives, pp.167-189, United Nations University Press, 2013年(共著)



国際地域開発学分野

菊地 香 准教授 博士（農学）
Koh Kikuchi

●主な学歴
日本大学農獣医学部拓植学科卒業／新潟大学
大学院自然科学研究科生命システム科学専攻修了

●研究テーマ

1. スマート農業による地域活性化
2. 熱帯果樹のマーケティングに関する研究
3. 日系移民における食文化の継承

●学会および社会における活動等

1995年4月～現在 日本農業経済学会会員
2000年6月～現在 日本国際地域開発学会会員
2005年7月～現在 International Society of Sugar Cane
Technologists会員
2013年～2016年3月 日本農業経済学会理事

●著書、学術論文等

伝統的な食文化の継承と地域特性にみる課題, 開発学研究, 30(2), pp.45-53, 2019年(共著) / 日系沖縄県人の年中行事と通過儀礼の実施と食に関する継承-ブラジル連邦共和国サンパウロ市を事例に-, 開発学研究, 31(2), pp.46-56, 2020年(共著) / ブエノスアイレスに居住する沖縄移民の沖縄的な食事の継承, 農業および園芸, 96(8), pp.672-677, 2021年
ブラジル沖縄県人における食文化の継承-サンパウロ市を事例に-, 開発学研究, 31(3), pp.29-37, 2021年(共著) / 世代交代からみた農家継承の事例分析-あとつぎを長男に期待する背景-, 開発学研究, 31(3), pp.20-28, 2021年(共著) / 南米日系移民における食文化継承の実状-ブエノスアイレスの沖縄県移民を中心に-, 農業および園芸, 97(3), pp.193-200, 2022年



国際地域開発学分野

園江 満 専任講師 博士（農学）
Mitsuru Sonoe

●主な学歴
日本大学農獣医学部拓植学科卒業
京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 東南アジア大陸部における生態資源利用に係る在来知と在来技術
2. 動植物のドメスティケーションに関する文化誌

●学会および社会における活動等

1991年～現在 日本熱帯農業学会会員
1998年～現在 東南アジア史学会(現・東南アジア学会)会員
2003年～現在 宇治市日本ラオス友好協会顧問
2013年～現在 生き物文化誌学会理事

●著書、学術論文等

天と大地の間に繰り上げられる神々・ヒト・生き物の賛歌. 2018, 『BIOSTORY』30, 109. Geographical Variation in the Skeletal Morphology of Red Jungle Fowl. 2017. H. Endo, N. Tsunekawa, M. Sonoe, T. I. Sasaki, H. Ogawa, T. Amano, T. S. Nguyen, V. Pimphachanhvongsod, K. Kudo, T. Yonezawa & F. Akishinonomiya, *British Poultry Science*, 58(4), 348-357. マンガに描かれた生き物たちヒトとの交感そして不可思議の表現. 2017, 『BIOSTORY』28, 66-69. ラオスにおける蜜蜂の文化誌. 2017, 『BIOSTORY』27, 58-59. コンテンツの中の薔薇—マンガに見る表現と人との関係性. 2016, 『BIOSTORY』25, 68-71. ラオス北部における生態的・文化的多様性と家族農業の生活戦略. 2016, 『開発学研究』26(3), 14-21. 『東南アジア大陸部 山地民の歴史と文化』, 言叢社. (共著) 2014. 『タイ文化圏の中のラオス—物質文化・言語・民族』. (共編著) 2009, 慶友社. 『タイ辞典』. (項目執筆) 2009, めこん. 『ラオス北部の環境と農耕技術—タイ文化圏における稲作の生態』2006, 慶友社.



国際地域開発学分野

山下哲平 准教授
Tepei Yamashita 博士（生物資源科学）

●主な学歴
日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程単位取得満期退学

●研究テーマ

1. 発展途上国のマイノリティを取り巻く農村・環境・貧困に関する研究
2. 日本国内の地方直売所における農産物販売の付加価値化に関する研究

●学会および社会における活動等

2009年～2019年 日本国際地域開発学会 幹事
2014年～2017年 国際開発学会 広報委員 幹事
2010年～2014年 国際開発学会 大会組織委員会 幹事
2011年～2013年 日本農学会 運営委員

●著書、学術論文等

1. 農民間における農業技術普及に関する研究-ウガンダ・JICAコメプロジェクトを事例に-, 共著(部 大輝・山下哲平・小宮山博), 開発学研究, 31(1), pp.1-9., 2020.7
2. ミャンマー・TawYaw村における柑橘栽培の技術的課題, 共著(山下哲平・佐々木 大・佐々木綾子), 開発学研究, 30(3), pp.26-31., 2020.3
3. モンゴル国の持続可能な社会と環境保全型開発, 単著(山下哲平), 国際農林協力, Vol.40 No.4, pp.11-18., 2018.2
4. Current Issues of Tourism Development in the Transformation of Mongolia, Yamashita Tepei, *Journal of Agricultural Development Studies*, Vol.27 No.3, pp.49-58., 2017.3
5. Consideration of the Resources Creation of "Cultural" Factors based on Tourism Clusters - From case examples of tourism development in Okinawa and Aichi -, Yamashita Tepei, *Journal of Agricultural Development Studies*, Vol.26 No.3, pp.30-39., 2016.3

非常勤講師

原田英美子

獣医学専攻

最新鋭の設備・研究機器を活用し、
充実したスタッフによる指導体制のもと、
国際的なレベルで実力を発揮できる研究者や
高度な専門技術者を養成します。

産業動物や伴侶動物、実験動物、エキゾチックアニマルなどの疾病予防・診断・治療及び公衆衛生の向上、生体機能と形態の解明、さらに野生動物・水棲哺乳動物の管理やそれらが関わる感染症などを主なテーマとして研究に取り組んでいます。

博士課程

本研究科は、優れた研究者の育成、高度専門技術者の養成、社会人の再学習機能の強化、及び教育・研究上で国際貢献を果たし得る人材の輩出などを目的として教育・研究指導を行っています。過去5年間に社会に送り出した学位授与者は毎年平均7～8名で、その教育・研究指導体制は社会的にも高く評価されています。本研究科を修了した学生の就職状況は良好で、大学、各種試験研究機関及び臨床の各分野で活躍しています。

社会の国際化、高度化、複雑化に伴い、幅広い視野に立って自らが将来の課題を探究し、柔軟かつ総合的な判断力と実践力を有する獣医学研究者や高度な獣医学専門技術者の養成と社会人の再教育が強く求められるようになってきました。獣医学専攻では、国際レベルで活躍し、実力を発揮できるたくましい人材を養成し、輩出していきたいと考えています。

本研究科の教育・研究領域は「獣医比較形態学分野」、
「獣医比較機能学分野」、「獣医感染制御学分野」、「獣医疾病予防学分野」、「獣医病態制御学分野」、「獣医病態情報学分野」で構成されています。本研究科に所属する研究室、キャンパス内の附属動物病院「Animal Medical Center (ANMEC)」や動物医科学研究センターにおいて、高度な専門知識と実践的な技術を習得することができます。

近年、獣医学の研究対象は、産業動物、伴侶動物、実験動物のほか、野生動物及び各種の展示動物など多岐にわたっており、さらに生態系の管理や地球環境の保全にも深く関わりを持つようになってきました。また基盤分野における成果を実証し、応用獣医学を一層発展させるために、先端的な分子生物学的手法ならびに遺伝子工学的手法を駆使した高度な獣医学研究手法の開発が求められています。本研究科ではDNA シーケンサー、フローサイトメーター、リアルタイムPCR 装置、共焦点顕微鏡などの充実した研究機器が整っており、これらの機器を駆使した先進的な研究指導を行っています。また、ANMEC では、MRI（核磁気共鳴断層撮影装置）やCT（コンピュータ断層撮影装置）など最新鋭の医療機器を備え、きわめて充実した臨床教育・研究システムを構築しています。

授 業 科 目 一 覧

博士課程

授業科目	単位数	必修単位数	選択単位数	履修方法
獣医比較形態学分野				6分野のうち1分野の特別講義、特別演習、特別研究計12単位、獣医学特論6単位及び他分野から12単位以上合計30単位以上を選択履修し、学位論文を提出しなければならない。
獣医比較形態学特別講義	2		2	
獣医比較形態学特別演習	5		5	
獣医比較形態学特別研究	5		5	
獣医比較機能学分野				
獣医比較機能学特別講義	2		2	
獣医比較機能学特別演習	5		5	
獣医比較機能学特別研究	5		5	
獣医感染制御学分野				
獣医感染制御学特別講義	2		2	
獣医感染制御学特別演習	5		5	
獣医感染制御学特別研究	5		5	
獣医疾病予防学分野				
獣医疾病予防学特別講義	2		2	
獣医疾病予防学特別演習	5		5	
獣医疾病予防学特別研究	5		5	
獣医病態制御学分野				
獣医病態制御学特別講義	2		2	
獣医病態制御学特別演習	5		5	
獣医病態制御学特別研究	5		5	
獣医病態情報学分野				
獣医病態情報学特別講義	2		2	
獣医病態情報学特別演習	5		5	
獣医病態情報学特別研究	5		5	
獣医学特論	6	6		

※各科目の詳細はホームページ上にアップロードされているシラバスをご覧ください

生物資源生産科学専攻
Bioresourc Production Sciences

生物資源利用科学専攻
Bioresourc Utilization Sciences

応用生命科学専攻
Applied Life Sciences

生物環境科学専攻
Natural Environment Studies

生物資源経済学専攻
Bioresourc Economics

獣医学専攻
Veterinary Medicine



獣医比較形態学分野

五味浩司 教授 博士(農学)
Hiroshi Gomi

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
東京大学大学院農学系研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 動物神経膠細胞に関する研究
2. 遺伝子改変動物を用いた神経 - 内分泌機能に関する研究

●学会および社会における活動等

1998年～現在 日本神経科学会会員
1998年～現在 Society for Neuroscience会員
2010年～現在 日本解剖学会会員
2011年～現在 日本獣医学会評議員
2013年～2015年 日本学術振興学会専門委員
2015年～現在 The Histochemical Society会員

●著書、学術論文等

Expression pattern of the lacZ reporter in secretogranin III gene-trapped mice, 2021, J Histochem Cytochem, 69:229-243. Canine salivary glands: analysis of Rab and SNARE protein expression and SNARE complex formation with diverse tissue properties, 2017, J Histochem Cytochem, 65:637-653. / Expression of secretogranin III in chicken endocrine cells: its relevance to the secretory granule properties of peptide prohormone processing and bioactive amine content, 2015, J Histochem Cytochem, 63:350-366. / Immunohistochemical analysis of IA-2 family of protein tyrosine phosphatases in rat gastrointestinal endocrine cells, 2013, J Histochem Cytochem, 61:156-168.



獣医比較形態学分野

渋谷 久 教授 Ph.D
Hisashi Shibuya

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
ミズーリ大学大学院病理学領域博士課程修了

●研究テーマ

1. 動物腫瘍および遺伝病の分子病理学的研究
2. 動物腫瘍の診断学的免疫組織化学の研究

●学会および社会における活動等

2004年～現在 日本獣医学会評議員
2007年～現在 日本大学獣医学会理事
2014年～現在 日本獣医学会編集委員

●著書、学術論文等

Thymoma originating from the cervical component of the thymus in a degu. Journal of Veterinary Diagnostic Investigation (共著), 2022. 34, 126-129. / Cutaneous papilloma and multicentric squamous cell carcinoma in four-toed hedgehogs (*Atelerix albiventris*). Journal of Veterinary Medical Science (共著). 2021. 83, 1726-1729. / Tracheal chondrosarcoma in a blue tegu (*Salvator merianae*). Journal of Veterinary Medical Science (共著), 2021. 83, 981-983. / Non-viral derivation of a transgene-free induced pluripotent stem cell line from a male beagle dog. Stem cell Research (共著), 2021. volume 53. <https://doi.org/10.1016/j.scr.2021.102375>. / Clinical, histopathological, and immunohistochemical studies of histiocytic sarcoma in four-toed hedgehogs (*Atelerix albiventris*): A retrospective study. Journal of Veterinary Medical Science (共著), 2021. 83, 419-426.



獣医比較形態学分野

近藤広孝 准教授 博士(獣医学)
Hirotaka Kondo 米国獣医病理学専門医

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程修了
フロリダ大学獣医学部解剖病理レジデント課程修了

●研究テーマ

1. エキゾチックペットの腫瘍性疾患に関する病理学的研究
2. 犬や猫の病理組織診断に関する研究
3. 獣医学領域における法医病理学的研究

●学会および社会における活動等

2013年～現在 American College of Veterinary Pathologists会員
2013年～現在 日本獣医エキゾチック動物学会学術アドバイザー
2017年～現在 日本獣医がん学会病理部会委員
2017年～現在 鳥類臨床研究会学術アドバイザー
2021年～現在 日本獣医皮膚科学会編集委員会委員

●著書、学術論文等

Makishima R, Kondo H, Shibuya H: Clinical, histopathological, and immunohistochemical studies of histiocytic sarcoma in four-toed hedgehogs (*Atelerix albiventris*): A retrospective study. *Journal of Veterinary Medical Science*, in press. / Yoshimoto M, Ozawa K, Kondo H, Echigoya Y, Shibuya H, Sato Y, Sehgal R: A fatal case of *Haemoproteus* infection in a captive snowy owl (*Bubo scandiacus*) in Japan. *Parasitology Research*, in press. / Takahashi K, Yanuma N, Hirokawa M, Miyajima M, Osada H, Sugita K, Kondo H, Ohmori K: Presence of the house dust mite allergen in the gastrointestinal tract of dogs with chronic enteropathy: a potential inducer of interleukin-1 β . *Veterinary Immunology and Immunopathology*, in press.



獣医比較形態学分野

安井 禎 准教授 博士(獣医学)
Tadashi Yasui

●主な学歴
日本大学生物資源科学部獣医学科卒業
日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻修了

●研究テーマ

1. 動物の外分泌腺に関する分子解剖学的研究
2. 動物の内分泌細胞に関する組織細胞化学的研究

●学会および社会における活動等

2006年～現在 日本組織細胞化学会会員
2007年～現在 日本顕微鏡学会会員
2008年～現在 World Association of Veterinary Anatomists会員
2019年～現在 日本獣医学会評議員

●著書、学術論文等

Morphological and histochemical characterization of the secretory epithelium in the canine lacrimal gland, 2021, Eur. J. Histochem., 65: 3320. / Ultrastructure and immunohistochemical characterization of proteins concerned with the secretory machinery in goat ceruminous glands, 2017, Eur. J. Histochem., 61: 222-230. / Functional properties of feline foot pads as studied by lectin histochemical and immunohistochemical methods, 2010, Acta Histochem., 112: 169-177. / Ultrastructural and carbohydrate histochemical study of the Vater-Pacini corpuscles in the digital pads of the North American raccoon (*Procyon lotor*), with special regard to basic function, 2008, Eur. J. Wildl. Res., 54: 275-283



獣医比較機能学分野

鯉江 洋 教授 博士(獣医学)
Hiroshi Koie

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業

●研究テーマ

1. 動物の心機能および心疾患に関する病態生理学的研究
2. 動物の泌尿器疾病における病態生理学的研究
3. 鯨類における生理機能に関する研究

●学会および社会における活動等

2004年 4月～現在 日本獣医学会評議員
2006年11月～現在 動物臨床医学会・評議員

●著書、学術論文等

犬と猫のフィジカルアセスメント, 2020, 緑書房 / 臨床家のための犬と猫の心臓病マニュアル, 2012, インターズー / 犬と猫の重症例における臓器不全, 2012, インターズー / 改定版イヌ・ネコ家庭動物の医学大百科, 2012, パインターナショナル / BSAVAマニュアル 犬と猫の救急疾患とクリティカルケア: 第3版, 2012, インターズー / 犬と猫の慢性腸疾患-病態生理・診断・治療の最新情報, 2012, インターズー / 新・小動物看護用語辞典, 2012, インターズー / 犬と猫の心臓病学-臨床研究の最前線, 2011, インターズー / Standard electrocardiographic data of developing Japanese monkeys (Macaca fuscata), 2013, The Journal of the American Association for Laboratory Animal Science. 52. / Functional Morphology of the Aardvark Tail, 2012, Manuscript for Anatomia, Histologia, Embryologia, 42, 90-98.



獣医比較機能学分野

岡林 堅 准教授 博士(獣医学)
Ken Okabayashi

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 糖代謝の調節機構に関する研究
2. 外分泌の調節機構に関する研究
3. 病原真菌の代謝調節に関する研究

●学会および社会における活動等

2003年～現在 日本医真菌学会会員
2005年～現在 日本獣医学会会員(2021年～現在 評議委員)
2005年～現在 International Society for Human and Animal Mycology会員
2008年～現在 日本生化学会会員
2010年～現在 日本唾液腺学会会員(2016年～現在 評議員)

●著書、学術論文等

Activation of canine neutrophils by platelet-activating factor. Vet Immunol Immunopathol. 2021; 241: 110336 / Cdc42 activates paracellular transport in polarized submandibular gland cells. Arch Oral Biol. 2021; 132: 105276 / Release of secretory immunoglobulin A by submandibular gland via β adrenergic receptor stimulation. Arch Oral Biol. 2021; 129: 105209 / mRNA expression of tumor-associated genes in canine grade I meningiomas. J Vet Med Sci. 2019; 81 (3): 369-372 / Excretion of bisphenol A into rat milk. Toxicol Mech Methods. 2010; 20(3): 133-136 / Microreview: Capsule-associated genes of Cryptococcus neoformans. Mycopathologia. 2007; 163(1): 1-8



獣医比較機能学分野

山崎 純 教授 薬学博士
Jun Yamazaki

●主な学歴
東京大学薬学部薬学科卒業 / 東京大学大学院薬学系研究科生命薬学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. イオン輸送体の生理活性と発現に対する薬物制御
2. TRP チャネルの正常上皮細胞やがん細胞における機能的意義と薬物制御
3. 皮膚や粘膜の恒常性維持に関与する上皮・結合組織の相互作用

●学会および社会における活動等

1986年7月～現在 日本薬理学会会員(学術評議員)
2018年～現在 日本獣医学会会員
2018年～現在 厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員

●著書、学術論文等

Involvement of pore helix in voltage-dependent inactivation of TRPM5 channel. *Heliyon* 7 (1), e06102, 2021 / Identification and classification of a new TRPM3 variant (γ subtype). *J Physiol Sci.* 69, 623-634, 2019 / FK506 (tacrolimus) causes pain sensation through the activation of transient receptor potential ankyrin 1 (TRPA1) channels. *J Physiol Sci.* 69, 305-316, 2019 / TRPV2 channel inhibitors attenuate fibroblast differentiation and contraction mediated by keratinocyte-derived TGF- β 1 in an in vitro wound healing model of rats. *J. Dermatol. Sci.* 90, 332-342, 2018 / CLCA splicing isoform associated with adhesion through β 1-integrin and its scaffolding protein: Specific expression in undifferentiated epithelial cells. *J. Biol. Chem.* 288, 4831-4843, 2013



獣医感染制御学分野

小川健司 教授 博士(農学)
Kenji Ogawa

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科修士課程修了
東京大学大学院農学系研究科博士後期課程修了

●研究テーマ

1. 逆化学遺伝学的手法を用いたウイルス複製機構の研究
2. 病原性ウイルスの複製を選択的に阻害する化合物の探索

●学会および社会における活動等

1988年～現在 日本獣医学会
2014年～現在 日本ケミカルバイオロジー学会
2014年～現在 日本ウイルス学会
2016年～現在 抗ウイルス療法学会

●著書、学術論文等

獣医免疫学—第一章 免疫学の歴史および免疫担当細胞の発生と働き—(監修および分担執筆)2015, 緑書房, pp. 22-31 / Activin in humoral immune responses. In: Activins and Inhibins. Vitamins and Hormones (Gerald Litwack Ed) (共著)2011, Academic Press, New York, Vol 85: pp. 237-255. / カラーアトラス獣医解剖学 序文および解剖学総論(共訳)2008, チクサン出版社, pp.23-74 / Activin, Follistatin and Bone. In: Skeletal Growth Factors (Canalis E Ed), (共著)2000, Lippincott Williams and Wilkins, Philadelphia. pp.263-268.



獣医感染制御学分野

佐藤雪太 教授 博士(獣医学)
Yukita Sato

●主な学歴
北海道大学獣医学部獣医学科卒業

●研究テーマ

1. 野生動物の感染症の疫学および感染動態に関する研究
2. 感染症を指標とした環境保全医学

●学会および社会における活動等

2008年～現在 日本獣医学会評議員
2009年～現在 日本獣医寄生虫学会理事(編集委員長)
2015年～現在 日本野生動物医学会理事(感染症対策委員長)
2018年～現在 町田市動物愛護推進協議会会長
2019年～現在 人と動物との共生推進よこはま協議会委員

●著書、学術論文等

神の鳥ライチョウの生態と保全 日本の宝を未来へつなぐ 2020, 緑書房/
遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界 2019, 一色出版/コアカリ準拠
実験動物学 第2版 2018, 朝倉書店/コアカリ準拠 寄生虫病学 改訂版
2017, 緑書房/First records of prevalence and diversity of avian
haemsporidia in snipe species (genus *Gallinago*) of Japan. Int J
Parasitol:Parasites Wildlife, 16, 5-17/Vector incrimination and
transmission of avian malaria at an aquarium in Japan. 2021, Malaria
J, 20, 136/A fatal case of a captive snowy owl (*Bubo scandiacus*)
with *Haemoproteus* infection in Japan. 2021, Parasitol Res, 120,
277-88/Penguins are competent hosts of *Haemoproteus* parasites.
2020, Parasit Vector, 13, 307



獣医感染制御学分野

松本 淳 教授 博士(医学)
Jun Matsumoto

●主な学歴
北海道大学獣医学部獣医学科卒業

●研究テーマ

1. 寄生虫の増殖および病原性発現機構と宿主応答
2. 人獣共通寄生虫症の疫学

●学会および社会における活動等

1997年～現在 日本寄生虫学会会員(評議員・学術委員会委員)
1997年～現在 日本獣医寄生虫学会会員(評議員)
1997年～現在 日本獣医学会(評議員)

●著書、学術論文等

Echinococcus multilocularis: purification and characterization of
glycoprotein antigens with serodiagnostic potential for canine
infection. 2011, Exp Parasitol, 128:50-6./Primary alveolar
echinococcosis: course of larval development and antibody responses
in intermediate host rodents with different genetic backgrounds after
oral infection with eggs of *Echinococcus multilocularis*. 2010,
Parasitol Int, 59:435-44./Anaerobic NADH-fumarate reductase
system is predominant in the respiratory chain of *Echinococcus*
multilocularis, providing a novel target for the chemotherapy of
alveolar echinococcosis. 2008, Antimicrob Agents Chemother,
52:164-70.



獣医感染制御学分野

遠矢幸伸 教授 農学博士
Yukinobu Tohya

●主な学歴
東京大学農学部畜産獣医学科卒業

●研究テーマ

1. カリシウイルスの宿主特異性の解明
2. 動物ノロウイルスの検索と性状解析

●学会および社会における活動等

1985年 4月～現在 日本獣医学会会員(評議員)
(2014年3月～2021年9月 理事)
(2021年9月～現在 監事)
1987年10月～現在 日本ウイルス学会会員(評議員)
(2012年1月～2015年12月 理事)
2012年 4月～現在 日本獣医師会獣医学術学会編集委員

●著書、学術論文等

Nonstructural protein p39 of feline calicivirus suppresses host innate
immune response by preventing IRF-3 activation. 2016. Vet
Microbiol. 185: 62-7./Novel cyclovirus detected in the intestinal
contents of Taiwan squirrels (*Callosciurus erythraeus*
thaiwanensis). 2015. Virus Genes. 51: 148-51./Characterization
of St-Valerien-like virus genome detected in Japan. 2014. J Vet Med
Sci. 2014 76: 1045-50./Novel murine norovirus-like genes in wild
rodents in Japan. 2012 J Vet Med Sci. 74: 1221-4./Indirect ELISA
and indirect immunofluorescent antibody assay for detecting the
antibody against murine norovirus S7 in mice. 2010. Exp Anim. 59:
47-55./Suppression of host gene expression by nsp1 proteins of
group 2 bat coronaviruses. 2009. J Virol. 83: 5282-8.



獣医感染制御学分野

小熊圭祐 准教授 博士(獣医学)
Keisuke Oguma

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻
博士課程修了

●研究テーマ

1. 猫伝染性腹膜炎ウイルスの病原性判定に関する解析
2. 牛白血病の診断法の開発

●学会および社会における活動等

2011年～現在 日本獣医学会
2015年～現在 家畜感染症学会

●著書、学術論文等

Mutation of the S and 3c genes in genomes of feline coronaviruses.
J. Vet. Med. Sci. 80: 1094-1100 (2018) (共著)./Isolation of bovine
foamy virus in Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 80: 1604-1609 (2018) (共
著)./Enzootic bovine leukosis in a two-month-old calf. *Virus Res.*
233: 120-124 (2017) (共著)./Preparation of a cell line persistently
infected with maedi/visna virus and production of viral antigens. *J.*
Vet. Med. Sci. 79: 141-143 (2017) (共著)./Isolation of maedi/visna
virus from a sheep in Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 76: 211-218 (2014)
(共著).



獣医疾病予防学分野

伊藤 琢也 教授 博士(農学)
Takuya Ito

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. イルカにおける生体防御機構の解明
2. 野生動物および家畜狂犬病の分子疫学
3. 哺乳類の生体防御機構の比較免疫学的解析

●学会および社会における活動等

1998年～現在 日本獣医学会会員
2008年～現在 日本獣医学会評議員
2011年～現在 農林水産省犬等の検疫制度検討会委員
2015年～2018年 農林水産省獣医事審議会専門委員
2017年～現在 家畜診療中央編集委員

●著書、学術論文等

動物衛生学, 文永堂出版, 2017 / 動物の衛生, 第2版, 2020, 文永堂出版
Current Laboratory Techniques in Rabies Diagnosis, Research, and Prevention, Volume 1, Academic Press. 2014. / Heritability estimates of the position and number of facial hair whorls in Thoroughbred horses. BMC Res Notes. 2019. / Easy-to-use rapid gene amplification method for direct detection of RNA and DNA viruses in sera and feces from various animals. J Virol Methods. 2014. / Characterization of the circulating serum amyloid A in bottlenose dolphins. Vet Immunol Immunopathol. 2013. / Evolutionary history of dog rabies in Brazil. J Gen Virol. 2011. / Bone marrow biopsy from the flipper of a dolphin. Vet J. 2010. / Production of monoclonal antibody for bottlenose dolphin neutrophils and its application to cell separation. Dev Comp Immunol. 2009.



獣医疾病予防学分野

丸山 総一 教授 博士(獣医学)
Soichi Maruyama

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
東京大学大学院農学系研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 人獣共通感染症の疫学、病態発現に関する研究
2. 細菌性食中毒の疫学、病態発現に関する研究

●学会および社会における活動等

2002年～現在 関東・東京合同地区、獣医公衆衛生学会幹事、会長(2016年～)
2003年～現在 日本獣医師会公衆衛生委員会委員
2005年～現在 日本獣医公衆衛生学会理事、会長(2015年～)
2007年～2014年 日本獣疫学会理事
2010年～2017年 日本獣医学会理事
2013年～現在 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会臨時委員

●著書、学術論文等

Prevalence and genetic diversity of *Bartonella* spp. in Northern bats (*Eptesicus nilssonii*) and their blood-sucking ectoparasites in Hokkaido, Japan. Microbial Ecology DOI: 10.1007/s00248-021-01935-0 (2022) / ペットが関わる人と動物の共通感染症。セイフティ エンジニアリング. 48(3):4-9 (2021). / *Lipoptena fortisetosa* as a vector of *Bartonella* bacteria in Japanese sika deer (*Cervus nippon*). Parasites & Vectors 14(73). (2021) / Detection and phylogenetic analysis of *Bartonella* species from bat flies on eastern bent-wing bats (*Miniopterus fuliginosus*) in Japan. Comp. Immunol. Microbiol. Infect. Dis. 73: 101570 (2020).



獣医疾病予防学分野

壁谷 英則 教授 博士(獣医学)
Hidenori Kabeya

●主な学歴
北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 野生動物における志賀毒素産生大腸菌 (STEC) *Campylobacter*, *Arcobacter* の疫学的研究と分離株の病原性解析
2. 野生鳥獣肉処理施設における衛生管理手法の確立

●学会および社会における活動等

1995年4月～ 現在 日本獣医学会
2006年6月～ 現在 日本獣医学会評議員
2013年～2014年 日本学術振興会審査委員
2016年～2019年 獣医事審議会専門委員
2017年4月～2020年 日本獣医学会 関東・東京合同地区・獣医公衆衛生学会学識経験者

●著書、学術論文等

Prevalence and whole-genome sequence analysis of *Campylobacter* spp. strains isolated from wild deer and boar in Japan. Comp Immunol Microbiol Infect Dis; 82:101766 (2022). / Prevalence and Genetic Diversity of Bartonella Spp. in Northern Bats (*Eptesicus nilssonii*) and Their Blood-Sucking Ectoparasites in Hokkaido. Microb Ecol. doi: 10.1007/s00248-021-01935-0. (2022). / Whole-genome sequence analysis of Shiga toxin-producing *Escherichia coli* O157 strains isolated from wild deer and boar in Japan. J Vet Med Sci.;83(12):1860-1868. (2021). / Prevalence of Yersinia among wild sika deer (*Cervus nippon*) and boars (*Sus scrofa*) in Japan. J Wildl Dis.56: (2): 270-277 (2020).



獣医疾病予防学分野

森友 忠昭 教授 獣医学博士
Tadaaki Moritomo

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 魚類造血機構の解明
2. 魚類 T 細胞亜集団の同定

●学会および社会における活動等

1998年～現在 宇宙航空研究開発機構動物実験委員会構成委員
2014年～現在 日本獣医学会評議員

●著書、学術論文等

Yamaguchi, T., F. Katakura, S. Shitanda, Y. Niida, H. Toda, M. Ohtani, T. Yabu, H. Suetake, T. Moritomo, and T. Nakanishi. 2010. Clonal growth of carp (*Cyprinus carpio*) T cells in vitro. *Developmental & Comparative Immunology*. Kobayashi, I., H. Ono, T. Moritomo, K. Kano, T. Nakanishi, and T. Suda. 2010. Comparative gene expression analysis of zebrafish and mammals identifies common regulators in hematopoietic stem cells. *Blood* 115:e1-e9. Katakura, F., T. Yamaguchi, M. Yoshida, T. Moritomo, and T. Nakanishi. 2010. Demonstration of T cell and macrophage progenitors in carp (*Cyprinus carpio*) kidney hematopoietic tissues. Development of clonal assay system for carp hematopoietic cells. *Developmental & Comparative Immunology* 34:685-689.



獣医疾病予防学分野

佐藤真伍 准教授 博士(獣医学)
Shingo Sato

●主な学歴
北里大学獣医畜産学部(現 獣医学部) 獣医学科卒業
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 野生動物とその外部寄生虫における病原性 *Bartonella* 菌の分子疫学的研究
2. *Macaca* 属のサルに分布する *Bartonella* 菌の病原性に関する研究

●学会および社会における活動等

2009年1月～現在 日本獣医師会 会員
2010年8月～現在 日本獣医学会 会員
2013年4月～現在 人と動物の共通感染症研究会 会員
2016年4月～現在 神奈川県動物由来感染症対策検討会 構成員

●著書、学術論文等

Lipoptena fortisetosa as a vector of *Bartonella* bacteria in Japanese sika deer (*Cervus nippon*). (共著), 2021, Parasites and Vectors. 14; 73. /Detection of zoonotic *Bartonella* pathogens in rabbit fleas, Colorado, USA. (共著), 2020, Emerging Infectious Diseases. 26; 778-781. /Molecular survey of *Bartonella rochalimae* in Japanese raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*). (共著), 2020, Journal of Wildlife Diseases. 56; 560-567. /Isolation and genetic properties of *Bartonella* in eastern bent-wing bats (*Miniopterus fuliginosus*) in Japan. (共著), 2020, Infection, Genetics and Evolution. 83: e104354. /Molecular survey of *Bartonella henselae* and *Bartonella clarridgeiae* in pet cats across Japan by species-specific nested-PCR. (共著), 2017, Epidemiology and Infection. 145; 2694-2700.



獣医病態制御学分野

伊藤大介 教授 博士(獣医学)
Daisuke Ito

●主な学歴
日本大学生物資源科学部獣医学科卒業/東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻課程修了

●研究テーマ

1. 小動物神経疾患に関する研究
2. 小動物神経疾患に対する画像診断に関する研究
3. 脊髄損傷に対する再生医療

●学会および社会における活動等

2008年～現在 日本獣医師会 会員
2008年～現在 日本獣医学会 会員
2008年～現在 European Society of Veterinary Neurology 会員
2010年～現在 獣医神経病学会 評議員
2012年～現在 日本再生医療学会 会員
2019年～現在 日本獣医麻酔外科学会 地区委員

●著書、学術論文等

Methods of olfactory ensheathing cell harvesting from the olfactory mucosa in dogs. PLoS One Vol 14 2019 / Two-Year Follow-Up Magnetic Resonance Imaging and Spectroscopy Findings and Cerebrospinal Fluid Analysis of a Dog with Sandhoff's Disease. J Vet Intern Med. Vol 32 pp797-804 2019 / Serum-free medium provides a clinically relevant method to increase olfactory ensheathing cell numbers in olfactory mucosa cell culture. Cell Transplant. Vol 16 pp 1021-1027 / Calponin is expressed by fibroblasts and meningeal cells but not olfactory ensheathing cells in the adult peripheral olfactory system. Glia. Vol. 55-2. pp 144-151 2007



獣医病態制御学分野

浅野和之 教授 博士(獣医学)
Kazushi Asano 小動物外科専門医

●主な学歴
北海道大学大学院獣医学研究科獣医学専攻課程修了

●研究テーマ

1. 犬および猫における軟部組織外科に関する研究
2. 犬および猫における腫瘍疾患に関する研究
3. 犬および猫における低侵襲治療法に関する研究

●学会および社会における活動等

2001年10月～現在 動物臨床医学会 評議員
2009年 7月～現在 日本獣医がん学会 理事、編集委員
2013年 4月～現在 日本獣医がん学会 外科委員会 委員長
2014年 4月～現在 日本獣医内視鏡外科研究会 理事
2014年 4月～現在 日本獣医学会 評議員
2016年 1月～現在 日本獣医がん学会 認定医 認定委員
2019年 4月～現在 日本獣医内視鏡外科研究会 国際交流委員長
2021年 2月～現在 Veterinary Record, Associate Editor

●著書、学術論文等

Comparison of outcomes between medical and surgical treatment in dogs with prostatic adenocarcinoma: a retrospective study. (共著). BMC Vet Res 2022 / Resorbable self-locking device for canine lung lobectomy: A clinical and experimental study. (共著). Vet Surg 2021 / Computed tomographic-derived measurements of shunt fraction and hepatic perfusion in dogs with a single extrahepatic portosystemic shunt in a clinical setting. (共著). J Am Vet Med Assoc 2019 / Preoperative differential diagnosis of canine adrenal tumors using triple-phase helical computed tomography. (共著). Vet Surg 2016.



獣医病態制御学分野

枝村一弥 教授 博士(獣医学)
Kazuya Edamura

●主な学歴
日本大学獣医学科卒業/東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学課程修了

●研究テーマ

1. 整形外科疾患および神経疾患領域の再生医療
2. リハビリテーションの効果に関する科学的検証
3. 関節および脊柱における新規手術の開発

●学会および社会における活動等

2004年 4月～現在 獣医神経病学会 評議員
2007年 3月～現在 日本獣医麻酔外科学会 評議員
2017年 5月～現在 動物のいたみ研究会 委員長
2018年 6月～現在 日本獣医再生医療学会 理事
2019年 5月～現在 日本獣医学会 評議員
2019年 8月～現在 日本動物リハビリテーション学会 副会長

●著書、学術論文等

獣医再生医療と産学官の今-ヒトと動物の医療は助け合えるか?-再生医療. 19(1): 29-43. 2020. / Functional anatomy of the craniomedial and caudolateral bundles of the cranial cruciate ligament in Beagle dogs. Vet. Comp. Orthop. Traumatol. 32(2): 182-191. 2019. / Differentiation of canine bone marrow stromal cells into voltage- and glutamate-responsive neuron-like cells by basic fibroblast growth factor. J. Vet. Med. Sci. 77(1): 27-35. 2015. / Proliferation capacity, neuronal differentiation potency and microstructures after the differentiation of canine bone marrow stromal cells into neurons. J. Vet. Med. Sci. 74(7): 923-927. 2012.



獣医病態制御学分野

大滝忠利 教授 博士(獣医学)
Tadatoshi Ohtaki

●主な学歴
酪農学園大学獣医学科卒業/酪農学園大学大学院獣医学研究科博士課程満期退学

●研究テーマ

1. 乳牛のルーメン内環境と繁殖機能に関する研究
2. 乳牛の周産期疾病の予防と繁殖能力向上に関する研究

●学会および社会における活動等

1997年 9月～現在 日本繁殖生物学会会員
2001年 1月～現在 日本獣医師会会員
2008年 4月～現在 日本獣医学会評議員
2020年11月～現在 American Dairy Science Association 会員
2021年 5月～現在 日本家畜衛生学会理事

●著書、学術論文等

Presence of surfactant proteins in the uteri and placentae of mares. 2021. J. Vet. Med. Sci. 83: 1167-1172. / Changes in luteinizing hormone pulse frequency and prolactin levels in bitches in response to estrus induction by cabergoline - its cases where it is delayed to induce estrus. 2020. J. Vet. Med. Sci. 82: 1773-1780. / Effect of high-concentrate corn grain diet-induced elevated ruminal lipopolysaccharide levels on dairy cow liver function. 2020. J. Vet. Med. Sci. 82: 971-977. / Serum concentrations and testicular expressions of insulin-like peptide 3 and anti-Müllerian hormone in normal and cryptorchid male horses. 2020. Theriogenology 154: 135-142.



獣医病態制御学分野

坂井 学 教授 博士(獣医学)
Manabu Sakai

●主な学歴
日本大学獣医学科卒業
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 犬猫の肝胆脾疾患に関する研究
2. 犬の門脈圧亢進症に関する研究
3. 小動物における腹腔鏡の応用

●学会および社会における活動等

2003年4月～現在 日本獣医学会評議員
2003年4月～現在 日本獣医師会会員
2015年4月～現在 動物臨床医学会評議員
2013年4月～現在 日本門脈圧亢進症学会会員
2015年12月～現在 Society of Comparative Hepatology 会員

●著書、学術論文等

Association of circulating microRNA-122 and microRNA-29a with stage of fibrosis and progression of chronic hepatitis in Labrador retrievers. J Vet Intern Med. 33, 151-157, 2019 / Computed tomographic cholangiography in dogs with gallbladder mucocele. J Small Anim Pract. 59, 490-495. 2018 / Gallbladder Agenesis in 17 Dogs: 2006-2016. J Vet Intern Med. 32, 188-194, 2018 / Portal Vein/Aorta Ratio in Dogs with Acquired Portosystemic Collaterals. J Vet Intern Med. 31, 1382-1387, 2017 / Hepatic and Plasma Endothelin-1 in Dogs with Chronic Hepatitis. J Vet Intern Med. 31, 764-769, 2017.



獣医病態制御学分野

北川勝人 教授 博士(獣医学)
Masato Kitagawa

●主な学歴
日本大学農獣医学部獣医学科卒業
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 小動物神経疾患に関する研究
2. 脊髄疾患における電気生理学検査に関する研究

●学会および社会における活動等

1994年～現在 獣医麻酔外科学会
1994年～現在 獣医神経病研究会
1996年～現在 日本獣医師会

●著書、学術論文等

The clinical significance of cerebrospinal fluid lipid peroxides in central nervous system disease, 2006, Vet. Res. Commun. 30, 139-147 / Traumatic intra-cerebral hematoma in a dog: MR images and clinical findings, 2005, J. Vet. Med. Sci. 67, 843-846 / Subtotal agenesis of the cerebellum in a dog, 2005, Aust. Vet. J. 83, 680-681 / Subdural accumulation of fluid in a dog after the insertion of a ventriculoperitoneal shunt, 2005, Vet. Rec. 12, 206-208 / Cerebellar focal granulomatous meningoencephalitis in a dog: clinical findings and MR imaging, 2004, J. Vet. Med. A. 51, 277-279 / Cerebellopontine angle meningioma expanding into the sella turcica in a dog, 2004, J. Vet. Med. Sci. 66, 91-93 / Quadrigeminal cisterna arachnoid cyst diagnosed by MRI in five dogs, 2003, Aust. Vet. J. 81, 340-343 / Medulloblastoma in a cat: clinical and MRI findings, 2003, J. Small Anim. Pract. 44, 139-142



獣医病態制御学分野

堀北哲也 教授 博士(獣医学)
Tetsuya Horikita

●主な学歴
東京農工大学大学院農学研究科修士課程修了
岐阜大学大学院連合獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 産業動物の生産獣医療に関わる臨床研究
2. 臨床疫学に関する研究
3. 獣医療におけるコミュニケーションに関わる研究

●学会および社会における活動等

1993年4月～現在 日本豚病研究会会員
1997年4月～現在 日本獣医疫学会理事
1997年4月～現在 動物の行動と管理学会会員
2007年4月～現在 獣医コミュニケーション研究会(NDK)会員
2017年5月～現在 農林水産省薬事食品衛生審議会委員

●著書、学術論文等

生存子牛の肋骨骨折発生と分娩状況の聞き取り調査(共著), 2021, 日獣会誌, 74, 181- / Perinatal rib fractures in 18 calves delivered from Holstein dams(共著), 2020, Vet. Anim. Sci. / Transient elastography, a novel, non-invasive method for the evaluation of liver(共著), 2020, JVMS, 82, 559- / 神奈川県におけるサイレージのカビ毒汚染実態調査(共著), 2018, 日獣会誌, 71, 245- / Loss of milk yield due to Akabane disease in dairy cows, 2005, JVMS, 67, 287- / 宮崎口蹄疫の教訓から生まれた「やぐら鶴」で学ぶチームコミュニケーション, 2013, 臨床獣医, 31, 17- / 獣疫学, 非感染症の疫学, 2011, 近代出版 / 動物医療現場のコミュニケーション(共著), 2014, 緑書房



獣医病態制御学分野

山谷吉樹 教授 博士(獣医学)
Yoshiki Yamaya

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 呼吸器疾患動物の診断・治療法の改良開発
2. 生活環境影響・呼吸機能解析・バイオマーカーの探索

●学会および社会における活動等

2000年 4月～現在 日本獣医学会評議員
2004年 4月～現在 日本獣医麻酔外科学会麻酔・疼痛管理委員会運営委員
2006年11月～現在 動物臨床医学会評議員
2007年11月～現在 日本ウマ科学会評議員

●著書、学術論文等

Methylation of free-floating deoxyribonucleic acid fragments in the bronchoalveolar lavage fluid of dogs with chronic bronchitis exposed to environmental tobacco smoke. (共著) Ir Vet J, 2015 / Increased proportions of CCR4(+) cells among peripheral blood CD4(+) cells and serum levels of allergen-specific IgE antibody in canine chronic rhinitis and bronchitis. (共著) J Vet Med Sci, 2015 / Bronchoalveolar lavage fluid and serum canine surfactant protein A concentrations in dogs with chronic cough by bronchial and interstitial lung diseases. (共著) J Vet Med Sci, 2014 / Tobacco exposure increased airway limitation in dogs with chronic cough. (共著) Vet Rec, 2014 / Trace and major elements status in bronchoalveolar lavage fluid in dogs with or without bronchopneumonia. (共著) Biol Trace Elem Res, 2008



獣医病態情報学分野

中山智宏 教授 博士(獣医学)
Tomohiro Nakayama

●主な学歴
麻布大学獣医学科
麻布大学大学院獣医学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. 放射線治療における増感剤に関する研究
2. MRI や CT などを用いた画像診断に関する研究

●学会および社会における活動等

2005年～現在 日本獣医学会会員
2005年～現在 日本獣医画像診断学会評議員
2006年～現在 動物臨床医学会評議員

●著書、学術論文等

Atrial Glutathione Content, Calcium Current, and Contractility. J Biol Chem 282(38): 28063-28073, 2007 / Effects of 4 classes of cardiovascular drugs on ventricular function in dogs with mitral regurgitation." J Vet Intern Med 21(3): 445-50, 2007. / Sensitivity and specificity of isolated perfused guinea pig heart to test for drug-induced lengthening of QTc. J Pharmacol Toxicol Methods 49(1): 15-23, 2004. / Effects of changing heart rate on electrophysiological and hemodynamic function in the dog. Life Sci 72(17): 1919-30, 2003. / Ascorbate attenuates atrial pacing-induced peroxynitrite formation and electrical remodeling and decreases the incidence of postoperative atrial fibrillation. Circ Res 89(6): E32-8, 2001.



獣医病態制御学分野

巨 敏広 教授 博士(獣医学)
Toshihiro Watari

●主な学歴
日本獣医畜産大学大学院獣医学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 犬、猫の止血凝固異常症に関する研究
2. 犬、猫における免疫介在性疾患に関する研究
3. 犬、猫の造血器疾患に関する研究
4. 動物に対する内視鏡検査の応用に関する研究
5. 犬、猫の消化器疾患に関する研究

●学会および社会における活動等

2000年～現在 日本獣医学会 評議員
2001年～2003年 日本獣医師会卒業臨床研修制度検討委員会委員
2006年～現在 動物臨床医学会 評議員
2010年～現在 日本小動物獣医学会幹事、副会長(2015年～2017年)
2011年～現在 日本ペット栄養学会理事
2012年～現在 (社)日本獣医学専門医奨学基金(JFVSS)理事
2020年～現在 (社)日本獣内科学アカデミー代表理事

●著書、学術論文等

ここまでできる内視鏡 所見の読み方と鑑別診断、2010、学窓社 / 獣内科学、2005、文永堂 / Effect of thromboxane synthetase inhibitor on feline infectious peritonitis in cats. 1998, J. Vet. Med. Sci., 60, 657-659 / 犬の特発性血小板減少性紫斑病における血小板凝集能、1998、日獣会誌、309-312 / Molecular cloning and functional expression of feline thrombopoietin. 1998, Vet. Immunol. Immunopathol., 11, 225-236



獣医病態情報学分野

鎌田 寛 特任教授 博士(農学)
Hiroshi Kamata

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科修士課程修了

●研究テーマ

1. 動物由来薬剤耐性菌の研究
2. 組換え型モービルウイルスタンパクによる診断・治療・感染予防に関する研究

●学会および社会における活動等

2000年1月～現在 日本獣医学会評議員
2001年4月～現在 動物用抗菌剤研究会理事
2004年 ～現在 農林水産省 動物用医薬品等部会臨時委員

●著書、学術論文等

Small interfering RNA (siRNA) against the Bcl-2 gene increases apoptosis in canine melanoma cell line. Effectiveness of small interfering RNA (siRNA) against the Mcl-1. Journal of Veterinary Medical Science, 72, 383-386, 2010 / gene in a canine mammary gland tumor cell line. Research in Veterinary Science, 87, 64-66, 2009 / Reticulated platelet levels in whole blood and platelet-rich plasma of dogs with various platelet counts measured by flow cytometry. Journal of Veterinary Medical Science, 71, 195-197, 2009 / Missense mutation with/without nonsense mutation of the p53 gene is associated with large cell morphology in human malignant lymphoma. Pathology International, 57, 430-436, 2007.



獣医病態情報学分野

丸山治彦 准教授 博士(獣医学)
Haruhiko Maruyama

●主な学歴
日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程修了

●研究テーマ

1. 動物の血栓止血異常症に関する研究
2. 動物の血液疾患に関する研究

●学会および社会における活動等

2004年3月～現在 日本獣医学会会員
2006年5月～現在 日本血栓止血学会会員
2009年6月～現在 日本検査血液学会会員
2013年2月～現在 日本獣医臨床病理学会会員
2013年10月～現在 動物臨床医学会会員

●著書、学術論文等

Factor XII deficiency is common in domestic cats and associated with two high frequency F12 mutations. *Gene*. 2019. / A novel missense mutation in the factor XII gene in a litter of cats with factor XII deficiency. *J Vet Med Sci*. 2017. / Evaluation of a disintegrin-like and metalloprotease with thrombospondin type 1 repeat motifs 13 (ADAMTS13) activity enzyme-linked immunosorbent assay for measuring plasma ADAMTS13 activity in dogs. *J Vet Diagn Invest*. 2014. / Molecular cloning, in vitro expression and functional characterization of canine ADAMTS13. *Res Vet Sci*. 2012.



獣医病態情報学分野

高橋朋子 専任講師 博士(獣医学)
Tomoko Takahashi

●主な学歴
東京大学農学部獣医学科卒業 / 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了

●研究テーマ

1. イヌネコの悪性腫瘍に対する放射線治療の研究
2. イヌネコの悪性腫瘍における画像診断に関する研究

●学会および社会における活動等

1996年1月～現在 日本獣医がん学会会員・評議員
2002年3月～現在 Veterinary Cancer Society会員
2003年4月～現在 日本獣医学会会員
2005年3月～現在 日本癌学会会員

●著書、学術論文等

Successful use of prednisolone and radiation therapy in a dog with intracranial histiocytic sarcoma. (共著) (2021) *J Vet Med Sci*. 83 (11):1782-1785. / IgG-mediated histamine release from canine mastocytoma-derived cells. (共著) (2001) *Int Arch Allergy Immunol* 125 (3) : 228-235 / Inhibitory effects of glucocorticoids on proliferation of canine mast cell tumor. (共著) (1997) *J Vet Med Sci* 59(11): 995-1001 / Visceral mast cell tumors in dogs : 10 cases(1982-1997). (共著) (2000) *J Am Vet Med Assoc* 216(2): 222-226



日本大学大学院
生物資源科学研究科
獣医学研究科

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
(入試係) TEL.0466-84-3812 FAX.0466-84-3815